

PeopleSoft®

EnterpriseOne 8.9

住所録

PeopleBook

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9
住所録 PeopleBook
SKU FM89JAB0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999-2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為(過失および故意を含む)のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

目次

住所録の概要	1
業務上の問題と住所録システムによるソリューション.....	3
住所録システムで使用されるテーブル.....	4
住所録テーブル.....	4
データ移行時に使用する住所録テーブル.....	5
住所録システムのセットアップ	6
住所録固定情報の設定.....	6
国別固定情報の設定.....	10
住所録監査ログ機能の設定.....	15
住所録の事前定義済みのユーザー定義コード.....	16
住所録システムのカテゴリ・コード.....	18
自動採番の設定.....	19
郵便番号レコードの設定.....	25
住所録の検索テーブル	26
処理オプション:住所録検索テーブルの作成(R01BDWRD).....	26
住所録情報の管理	27
住所録情報の入力.....	28
住所録レコードへの電話番号の追加.....	37
住所フォーマットの検討.....	38
セルフサービス.....	39
処理オプション:住所録の改訂(P01012).....	39
処理オプション:住所録 MBF (P0100041).....	44
人名録レコード.....	45
連絡先情報.....	50
処理オプション:連絡先情報(P01111).....	55
処理オプション:連絡先情報 MBF(P0100069).....	55
補足データ	56
補足データ・タイプ・コードと形式.....	57
補足データ・タイプの設定.....	58
補足データの入力.....	73

処理オプション:補足データ(P00092).....	79
補足データ・タイプのコピー.....	79
補足データの検討.....	80
住所の親/子関係	82
親/子関係の作成.....	82
処理オプション:構造の改訂(P0150).....	85
処理オプション:構造の照会(P02150).....	87
親/子の組織構造の階層記述.....	87
親/子関係(上級).....	90
住所録レポートと宛名ラベル	92
住所録レポートの印刷.....	92
重複チェックレポートの印刷.....	93
処理オプション:重複チェック(R014052).....	93
宛名ラベルの印刷.....	94
処理オプション:宛名ラベルの印刷 (R01401).....	95
処理オプション:標準住所録ラベル (R01401A).....	95
住所録の更新と除去	96
有効日付による住所録レコードの更新.....	96
カテゴリ・コードの更新.....	96
処理オプション:カテゴリ・コードの一括更新(R01490).....	97
住所録レコードの除去.....	99
処理オプション:住所録の除去 (R01800P).....	100
メッセージ・ログ・レコードの除去.....	101
処理オプション:メッセージ・ログの除去(R01131P).....	101
住所録レコードのアップロード	102
アップロード・テーブルへのフィールドのマッピング.....	103
住所録インタオペラビリティ・アップロード・テーブル(F0101Z2)のフィールド.....	104
会社別得意先マスター・アップロード・テーブル(F0301Z21)のフィールド.....	111
仕入先マスター・アップロード・テーブル(F0401Z1)のフィールド.....	133
連絡先情報アップロード・テーブル(F0111Z1)のフィールド.....	143
関連先アップロード・テーブル(F0111Z21)のフィールド.....	148
電子メール・アドレス・アップロード・テーブル(F01151Z1)のフィールド.....	151
代替住所アップロード・テーブル(F01161Z1)のフィールド.....	154
アップロード用バッチ・レコードの追加.....	158
アップロード用バッチ・レコードの改訂.....	159
取り込んだ外部データのアップロード.....	162

取り込んだ外部住所録データのアップロード	162
取り込んだ外部顧客データのアップロード	163
取り込んだ外部仕入先データのアップロード	163
取り込んだ外部連絡先データのアップロード	164
住所録バッチの除去	165
処理オプション:住所録バッチ除去(R0101Z1P).....	166

住所録の概要

住所録システムは PeopleSoft EnterpriseOne の各システムの基盤となります。住所録システムには、顧客、仕入先、企業などの名前、住所、電話番号が保管されます。これら情報は正規化された複数のテーブルに保管され、住所録リポジトリとして使用されます。住所録システムに登録されている住所情報(名前や住所など)は、各システムから利用できます。たとえば、買掛管理システムでは仕入先への支払を生成する際に、売掛管理システムでは顧客への請求書や計算書を生成する際に使用します。

住所録システムとその他のシステムは緊密に統合されているので、住所録情報を一元管理しつつ、次のような処理を効率的に行うことができます。

- 従業員、顧客、仕入先に関するデータ管理を効率的に行う。
- 取引入力時に顧客に関する与信警告や保留メッセージ、その他の重要な注意事項を表示する。
- 検索タイプ別に住所録レコードを分類する。
- 名前、住所、電話番号、および検索タイプごとに情報を保存、および検索する。
- 税情報を管理する。
- 1つの住所録レコードに複数の住所を関連付ける。

住所録システムでは、ユーザー定義コードを使用して、レポート情報のソート順序や分類方法を定義できます。ユーザー定義コードをニーズに合わせて作成および割り当てることにより、より適切なレポートを効率良く作成することができます。住所録システムでは、次のユーザー定義コードが利用できます。

- 住所録カテゴリ・コード(最大 30 個)。特定の住所情報を照会したり、レポート出力するのに使用できます。たとえば、あるレポートでは仕入先を販売担当者別にソートして、別のレポートでは地域別にソートすることができます。
- 人名録カテゴリ・コード(最大 10 個)。住所録レコードに関連付けられた請求先担当者、管理者、販売担当者などを識別するのに使用できます。
- 連絡先情報カテゴリ・コード(最大 10 個)。人名録レコードをさらに詳しく分類できます。
- 関連先カテゴリ・コード(最大 5 個)。関連先情報を分類できます。

また、住所録システムでは、レポート用の宛先リストやラベルなども作成できます。

各システムに関連する次の設定は、住所録システムで行います。

買掛管理	仕入先と税務当局の設定
売掛管理	顧客と税務当局の設定
一般会計	会社とビジネスユニットの設定
作業原価	作業の設定、および仕入先、外注業者、プロジェクト管理者、責任者への割当て
固定資産	固定資産担当者および仕入先の設定
購買オーダー	仕入先、購買担当者、運送業者、事業所、出荷先住所、輸入業者、通関業者の設定
受注管理	出荷先住所、販売先住所、運送業者、販売担当者、事業所、顧客請求指示の設定
在庫管理	品目マスターに登録する計画担当者、購買担当者、事業所の設定
契約管理	契約先および契約ログの設定
契約請求	建築士、顧客、所有者、送金先、代替請求先、連絡先の設定
サービス請求	作業オーダーに割り当てる従業員および顧客の設定
価格管理	価格調整を適用する際に使用する顧客カテゴリ・コードの設定
所要量計画	事業所および計画担当者(資材計画担当者や製品ライン監督者)の設定
予測管理	予測階層の設定
工場/設備管理	設備管理者、設備納入会社、メンテナンス担当者の設定
作業オーダー管理	顧客、管理者、入力者、監督者の設定
カスタマー・サービス管理	顧客とサービス業者を設定します。
給与計算	従業員の氏名および住所の設定
人事管理	従業員、扶養家族、応募者の設定

業務上の問題と住所録システムによるソリューション

次の表では、情報管理に関する一般的な問題と、それらに対する住所録システムのソリューションについて説明します。

問題	ソリューション
会社との関係に基づいて、個人や会社に関する情報を検索する場合の処理	住所録レコードを作成するときに、従業員、顧客、または仕入先といった検索タイプをレコードに割り当てることができます。さらにビジネスの関係に応じて必要な情報が提供できるように、オンライン照会とレポートをカスタマイズすることができます。
同じ種類の情報を入力する担当者が何人もいる場合、文書は標準化されていても、情報の一貫性が保てない。	住所録システムには、ユーザー定義コードという事前に定義されたコードが用意されているため、データ入力の情報を標準化することができます。事前定義済みコードでは、ビジネス上の要件に十分対応できない場合は、それらを変更したり、新しいコードを追加したりできます。ユーザー定義コードおよびテーブルは、システム間で共有されることがあります。
事業所に配属されている従業員に関する一覧を表示したり、レポートを作成する場合の処理	住所録カテゴリ・コード(最大 30 種類)を定義することにより、カテゴリ別に情報を把握できます。たとえば、事業所を表すカテゴリ・コードを設定し、この事業所に勤務する従業員レコードに割り当てることにより、この事業所に勤務する従業員のレコードをまとめて処理できます。住所録カテゴリ・コードは、PeopleSoft EnterpriseOne の他システムからも使用できます。
別の会社と共同で作業を行う場合などに、最終的な権限は当社にある一方、実際の作業は他社の担当者と連絡しながら作業を進める必要があるため、プロジェクト管理者とそのメンバーを関連付けたい。	住所録システムには人名録機能が用意されているため、個人や会社に関連する連絡先のリストを識別することができます。 人名録の連絡先ごとに、住所や電話番号といった住所録情報を保存できます。また、連絡先に関する情報を 40 文字までのテキストで記述することができます。連絡先を表すタイプ・コードを割り当てることもできます。タイプ・コード機能は、レポートやメーリングリストを作成するときにも利用できます。また、人名録のカテゴリ・コードを 10 種類まで定義することにより、照会やレポートの対象となる人名録レコードの連絡先の種類を記録しておくことができます。
別の会社の個人から潜在的な顧客を紹介された場合の処理	住所録システムでは、現在、ビジネス関係のない個人や会社に関する情報を保存することもできます。この個人または会社と、人名録リストに記載する個人または会社を関連付けることもできます。
複数の住所を持つ会社と取引を行う場合の処理	住所録システムでは、1 つの住所番号に複数の住所を結合することができます。また、1 つの親子関係に複数の住所を関連付けることもできます。親の住所を検索すると、これに対応する子の住所すべてにアクセスできます。
協力会社から会社の住所が変更される具体的な日付が通知された場合の処理	将来的な住所情報は、住所録システムでこの住所を使い始める日付とともに、保存することができます。以前の住所を日付別に保存することもできます。また住所録システムには、仕入先や顧客がインターネットを介して自分の住所録情報を更新できる機能も組み込まれています。

問題	ソリューション
会社との関係に基づいて、個人や会社に関する情報を検索する場合の処理	住所録レコードを作成するときに、従業員、顧客、または仕入先といった検索タイプをレコードに割り当てることができます。さらにビジネスの関係に応じて必要な情報が提供できるように、オンライン照会とレポートをカスタマイズすることができます。
協力会社からその会社の施設までの道順と地図を受け取った場合の処理	住所録システムには、マップ、在庫マップ、連絡先などの情報を住所録レコードに関連付けるための補足データ機能も用意されています。

住所録システムで使用されるテーブル

住所録システムには、リアルタイム処理用のテーブルとデータ移行用のテーブルがあります。

住所録テーブル

住所録システムは、通常、次のテーブルを使用します。

テーブル	説明
住所録マスター(F0101)	特定の住所番号が割り当てられた個人または会社について、名前、住所番号、検索タイプ、および住所録カテゴリ・コードを保存します。
人名録(F0111)	特定の住所番号に関連する個人について、名前、住所録情報、および人名録のカテゴリ・コード情報を保存します。
連絡先情報(F01111)	人名録入力の連絡先として識別された個人、または会社について名前、個人情報、および連絡先カテゴリ・コード情報を保存します。
関連先(F01112)	人名録に関連する個人について名前、個人情報、および関連先カテゴリ・コード情報を保存します。
住所録 - 連絡先電話番号(F0115)	市外局番、電話番号および電話の種類が保存されます。
電子メール・アドレス(F01151)	人名録に関連する電子メールおよび URL (ユニフォーム・リソース・ロケータ) アドレスを保存します。
日付別住所(F0116)	住所番号の各住所、住所行、郵便番号、有効日付が保存されます。
郵便番号 (F0117)	入力する郵便番号の市町村、郡、国の他、オプションで第 2 の郵便番号、料金別納郵便センター、配送経路を保存します。
代替住所(F01161)	人名録と連絡先の入力の住所、住所行、郵便番号、有効日付が保存されます。
住所組織構造マスター(F0150)	親番号、子番号、住所番号および構造タイプが保存されます。
親住所/子住所(上級)(F01501)	親番号と人名録の子番号が保存されます。

テーブル	説明
国別固定情報マスター(F0070)	海外の宛名ラベル用の国別の特定住所録フォーマットが保存されます。
住所録検索マスター(F01815)	住所録検索の際に使用可能な語句が保存されます。
補足データベース - コア(F01090)	テキストや統計情報のようなユーザー定義情報が保存されます。
補足データベース - コード(F01092)	
補足データベース - 説明(F01093)	
住所録マスター監査ログファイル(F0101A)	既存の住所録レコードおよび入力済みの新規住所録レコードへの変更レコードが保存されます。

データ移行時に使用する住所録テーブル

住所録システムへのデータ移行時には、次のテーブルが使用されます。

テーブル	説明
住所録インタオペラビリティ・アップロード・テーブル(F0101Z2)	住所録マスターにアップロードするために外部ソース(サードパーティ)から受信した住所録レコードが保存されます。
会社別顧客マスター・アップロード・テーブル(F0301Z1)	顧客マスターにアップロードするために外部ソース(サードパーティ)から読み込んだ顧客レコードが保存されます。
仕入先マスター・アップロード・テーブル(F0401Z1)	仕入先マスターにアップロードするために外部ソース(サードパーティ)から読み込んだ仕入先レコードが保存されます。
人名録情報アップロード・テーブル(F0111Z1)	人名録テーブルにアップロードするために外部ソース(サードパーティ)から読み込んだ人名録レコードが保存されます。
連絡先情報アップロード・テーブル(F01111Z1)	連絡先情報テーブルにアップロードするために外部ソース(サードパーティ)から読み込んだ連絡先情報レコードが保存されます。
関連先情報・アップロード・テーブル(F01111Z1)	関連先情報テーブルにアップロードするために外部ソース(サードパーティ)から読み込んだ関連先情報レコードが保存されます。
代替住所アップロード・テーブル(F01111Z1)	代替住所テーブルにアップロードするために外部ソース(サードパーティ)から読み込んだ代替住所レコードが保存されます。
電子メール・アドレス・アップロード・テーブル(F01151Z1)	電子メール・アドレス・テーブルにアップロードするために外部ソース(サードパーティ)から読み込んだ電子メール・アドレス・レコードが保存されます。

住所録システムのセットアップ

住所録システムを使用する前に、処理に必要な情報を設定しておく必要があります。これらの情報により、ビジネス・ニーズに合わせてシステムをカスタマイズします。いったん住所録システムの使用を始めた後で、セットアップ情報を変更する場合は、変更の結果、既存のレコードに悪影響が及ばないことを確認する必要があります。固定情報はセットアップ機能の 1 つです。固定情報を設定すると、その情報はすべての住所録レコードに適用されます。そのため、固定情報を変更する場合は、それによって既存の住所録レコードに悪影響が及ばないように確認する必要があります。

次の表では、住所録システムのセットアップ機能について説明します。

設定項目	説明
固定情報	次のようなシステムの基本要素の設定に使用します。 <ul style="list-style-type: none">異なる住所番号形式を識別する記号他のユーザーの電子メールの表示を制限するか1つの住所録レコードに複数の住所を設定するか
国別固定情報	宛名ラベルのフォーマットの決定に使用します。
住所録監査ログ	住所録レコードの追加と変更の記録に使用します。
事前定義済みのユーザー定義コード	データの分類とデータ入力の標準化に使用します。
カテゴリ・コード	業務固有の情報の追跡とレポートに使用します。
自動採番	自動採番システムによる住所録レコードの番号の割当てに使用します。
住所録検索マスター	住所録レコードの検索に使用可能な用語の一覧の作成と保存に使用します。
郵便番号検証	住所録レコードの郵便番号の検証に使用します。

住所録固定情報の設定

住所録システムの固定情報の設定時には、〈住所録固定情報〉プログラム(P0000)を使って次の情報を指定します。

- 住所番号の検索に使用する形式を識別する記号
- 有効日付を基に同じ住所録レコードに対して複数の異なる郵送先住所を許可するかどうか
- 使用しているシステムを通過する電子メールに対してセキュリティをアクティブにするかどうか

固定情報の設定または変更を反映させるには、PeopleSoft EnterpriseOne を再起動する必要があります。

注意:

固定情報の変更はシステム全体に影響を与えるので、適切な権限を有するシステム管理者だけが変更できるようにセキュリティを設定することをお勧めします。

住所番号の識別記号

PeopleSoft EnterpriseOne では、複数の種類の住所番号を使用して住所録レコードを検索するため、住所番号の種類を識別する記号を指定します。他システムから住所録レコードを移行した場合は、旧システムで使用していた ID を詳細住所番号として使用できます。

住所番号の識別記号を設定するには、〈住所録固定情報〉フォームの次のフィールドにユニークな記号(*や/など)を指定します。

- 略式住所番号の識別記号
- 詳細住所番号の識別記号
- 税 ID の識別記号

これら ID フィールドのうち、デフォルトに指定する住所番号のフィールドは空白にします。デフォルトに指定できるのは、1 つだけです。

たとえば、住所録レコードの検索に使用するデフォルト住所番号として略式住所番号(住所録システムが割り当てる 8 桁の番号)を指定するには、〈住所録固定情報〉フォームで[略式住所 No.の識別記号]フィールドを空白にします。これにより、PeopleSoft EnterpriseOne では、略式住所番号をそのまま使用して住所録レコードを検索できるようになります。

また、デフォルト住所番号以外の住所番号を入力しても、住所録レコードを検索できます。この場合、〈住所録固定情報〉フォームで[詳細住所 No.の識別記号]フィールドにアスタリスク(*)などの一意の記号を指定しておきます。これにより、PeopleSoft EnterpriseOne で住所録レコードを検索する際、[住所 No.]フィールドに「識別記号」とそれに続いて該当する住所番号を入力することにより、特定の住所録レコードを検索できます。〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)で住所録レコードを検索する場合は、[詳細住所番号]フィールドが表示されるので、そこに詳細住所番号(例: EDWARDS)を指定することにより、住所録レコードが検索できます。

有効日付別住所

1 つの住所録レコードに関して、期間を特定して複数の住所を切り替えるように設定するには、〈住所録固定情報〉プログラムの[有効日付別住所の設定]オプションをオンにします。会社や個人が特定の日付に別の住所に引っ越すことがわかっている場合は、このオプションを有効にすると便利です。こうすることで、現在の住所情報を維持しながら、将来もその時点で有効な住所に請求書や支払、その他の関連情報を送付することができます。[有効日付別住所の設定]オプションを有効にすると、〈住所録の改訂〉プログラムを使用して住所録レコードを入力または改訂する際に、[有効日付]フィールドが表示されるようになり、すべての住所録レコードに複数の住所を設定できるようになります。この日付は日付別住所(F0116)テーブルに保管されます。[有効日付別住所の設定]オプションを有効にしない場合は、住所録レコードに割り当てられる住所は 1 つだけです。

有効日付別住所を有効にした場合は、定期的にく有効住所更新〉プログラム(R01840)を実行して、システムが住所録レコードに最新の日付を使用していることを確認する必要があります。〈有効住所更新〉プログラムを実行しなければ住所録レコードは新しい住所に更新されません。

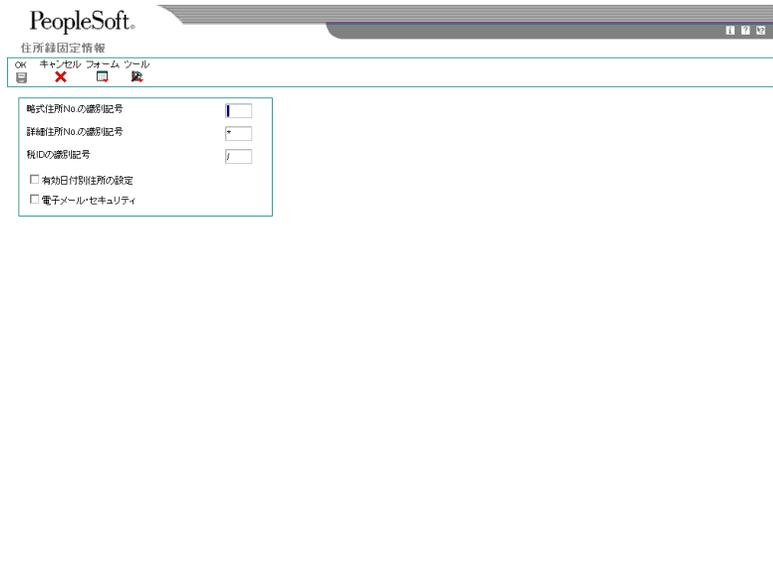
電子メール・セキュリティ

他のユーザーの PeopleSoft EnterpriseOne 電子メールを表示できないようにするには、〈住所録固定情報〉プログラムで電子メール・セキュリティを設定します。電子メール・セキュリティを設定するには、固定情報で[電子メール・セキュリティ]オプションをオンにします。

▶ 住所録の固定情報を設定するには

〈住所録セットアップ〉メニュー(G0141)で〈住所録固定情報〉を選択します。

1. 〈システム・セットアップ〉で[住所録固定情報]をクリックします。



2. 〈住所録固定情報〉で、デフォルト住所番号に指定する住所番号は空白にし、他の2つのフィールドには各住所番号を識別する記号を入力します。

- 略式住所 No.の識別記号
- 詳細住所 No.の識別記号
- 住所録税 ID 識別記号

空白にしたフィールドがデフォルト住所番号になります。

3. 有効住所を日付別に管理するには、次のオプションをオンにします。

- 有効日付別住所の設定

4. 電子メール・セキュリティを有効にするには、次のオプションをオンにします。

- 電子メール・セキュリティ

5. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
略式住所 No.の識別記号	<p>略式住所 No.の前につける*(アスタリスク)や/(スラッシュ)などの記号。[住所 No.]フィールドに、この記号と略式住所 No.を入力することにより住所録レコードを検索できます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>略式住所番号(8桁)は、住所録レコードを追加したときに住所録システムによって割り当てられる番号です。通常の住所録レコード検索にこの番号を使用する場合は、このフィールドを空白にしてください。空白にできるのは、3つの住所番号のうち1つだけです。他の2つのフィールドには、それぞれ固有の記号を指定する必要があります。指定する記号("*/"/"/"#")がシステムで他の目的に使用されていないことを確認してください。</p>
詳細住所 No.の識別記号	<p>詳細住所番号の前につける*(アスタリスク)や/(スラッシュ)などの記号。[住所 No.]フィールドにこの記号と詳細住所番号を入力することにより、住所録レコードを検索できます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>詳細住所 No.は旧システムで使用されていた住所番号である場合もあります。住所録レコードを検索する際に[住所 No.]フィールドにこの番号を使用する場合は、このフィールドを空白にしてください。空白にできるフィールドは3つの住所番号のうち1つのみです。他の2つのフィールドにはそれぞれ固有の記号を指定する必要があります。指定する記号("*/"/"/"#")がシステムで他の目的に使用されていないことを確認してください。</p>
住所録税 ID 識別記号	<p>住所番号としての入力がソーシャル・セキュリティ番号、納税者番号などの税 IDであることを示すための記号。[住所 No.]フィールドでこの記号と税 IDを入力することにより、住所録レコードを検索できます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>住所録レコードの検索時に[住所 No.]フィールドに税 IDを入力する場合は、このフィールドは空白にしてください。空白にできるのは、3種類の住所番号のうち1つだけです。他の2つのフィールドには、それぞれ固有の記号を指定する必要があります。ここで指定する記号("*/"/"/"#")がシステムで他の目的に使用されていないことを確認してください。</p>
有効日付別住所の設定	<p>1つの住所録レコードに対して有効日付別に複数の住所を使用するかどうかを示すオプション。このオプションをオンにすると、有効日付別に複数の住所を入力できるようになります。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>このチェックボックスをチェックすると、1件の住所録レコードに対して有効日付別に複数の住所を入力できます。</p>
電子メール・セキュリティ	<p>PeopleSoft EnterpriseOne 電子メールのセキュリティをアクティブにするかどうかを指定するオプション。このオプションがオンの場合、他のユーザーの電子メール・メッセージは表示できません。</p>

国別固定情報の設定

国別固定情報により、レポートや宛名ラベルに印刷する住所録情報の形式を定義します。郵送先住所の表記方法は、国によって異なります。複数の国でビジネスを行っている場合、国別に住所形式の定義が必要になる場合があります。国別固定情報を設定する際は、国別の宛名フォーマットとデフォルトの国のフォーマットを指定します。

国別固定情報は、国固定情報マスター(F0070)に保存されます。

宛名フォーマット

住所録システムには、16種類の宛名フォーマットが用意されています。〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)を使用して住所録レコードを作成または改訂するときは、住所録レコードに国コードを指定します。レポートまたはラベルの印刷時には、住所録レコードに割当てられた国コードと、F0070テーブルに保管された国コードが照合され、住所フォーマットIDで指定された形式で住所が印刷されます。国別固定情報を設定する際に、住所フォーマットIDを国コードに割り当てます。

デフォルトの国別フォーマット

国別固定情報を設定する際は、各住所フォーマットIDに対して次の情報を指定できます。

- 宛先行、および宛先行の位置
- 敬称/役職とその位置
- 郵便番号符号
- 国コード

設定する各国コードには、同じフォーマット番号が使われている場合でも、上記の項目を自由に組み合わせることで設定できます。たとえば、ブラジルとメキシコの両方に住所フォーマットID 08を割り当てると仮定します。ブラジルの住所録レコードに、宛先行を追加するとします。〈国別固定情報の設定〉フォームで住所フォーマットID 08を設定して、宛先行の略字、宛先の位置、役職の位置など宛先行の情報を入れることができます。ブラジルの住所のレポートとラベルを印刷すると、宛先情報が印刷されます。〈国別固定情報の設定〉フォームで特定の国に対して宛先情報を指定しない限り、住所フォーマットID08を使用する他の国に対しては宛先情報は印刷されません。

国別固定情報を設定する際に、国コードを空白にして固定情報を1つ設定します。住所フォーマットID番号など、その国の固定情報の他の情報はすべて入力します。

各国に1つのフォーマットしか設定できません。

注意:

特定の国の住所フォーマットIDを変更すると、その国に関連付けられたすべての住所録レコードに影響するため、国別固定情報は適切な権限を有するシステム管理者だけが変更できるようにセキュリティ設定することをお勧めします。

事前定義済みの郵送用フォーマット

次の表では、住所録システムの出荷時に提供されている宛名フォーマットと各フォーマットに含まれる項目を示します。より多くのフォーマットが必要な場合や提供されているフォーマットでは業務上のニーズに対応できない場合は、新しいフォーマットに対応するようにシステムをカスタマイズできます。

国はこれらのフォーマットではオプションであり、〈国別固定情報の改訂〉プログラム(P0070)で入力します。

宛名フォーマット	含まれる項目
形式 01	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 郵便番号/市 • 国(任意)
形式 02	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 市 • 州 • 郵便番号 • 国(任意)
形式 03	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 市/郵便番号 • 州 • 国(任意)
形式 04	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 市/都道府県/郵便番号 • 国(任意)
形式 05	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 市 • 都道府県 • 国(任意)
形式 06	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 郵便番号/都道府県/市 • 国(任意)
形式 07	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 市 • 国(任意)
形式 08	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 郵便番号/市/都道府県 • 国(任意)

宛名フォーマット	含まれる項目
形式 09	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 市/都道府県 • 郵便番号 • 国(任意)
形式 10	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 市/郵便番号 • 国(任意)
形式 11	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 郵便番号/市 • 住所部分 • 国(任意)
形式 12	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 市/都道府県 • 郵便番号 • 国(任意)
形式 13	<ul style="list-style-type: none"> • 郵便番号 • 郵送宛名 • 住所部分 • 市 • 国(任意)
形式 14	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 市 • 郡 • 郵便番号 • 国(任意)
形式 15	<ul style="list-style-type: none"> • 郵便番号 • 住所部分 • 市 • 郵送宛名 • 国(任意)
形式 16	<ul style="list-style-type: none"> • 郵送宛名 • 住所部分 • 郵便番号/市 • 国(任意)

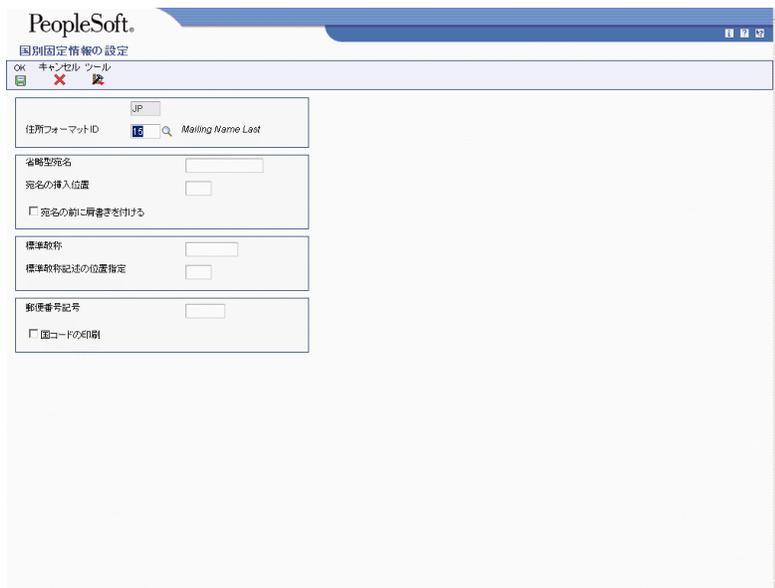
はじめる前に

- ユーザー定義コード(00/CN)に国コードを定義します。1つの国に対し複数の住所フォーマット ID を割り当てる場合は、第 2 の国コードを定義します。

▶ 国別固定情報を設定するには

〈住所録のセットアップ〉メニュー(G0141)で〈国別固定情報の改訂〉を選択します。

1. 〈国別固定情報の処理〉で、[追加]をクリックします。



2. 〈国別固定情報の設定〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 国
- 住所フォーマット ID

3. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。

- 省略型宛名
- 宛名の挿入位置
- 宛名の前に肩書きを付ける
- 標準敬称
- 標準敬称記述の位置指定
- 郵便番号記号

これらの任意フィールドは、国コードに関連付けられます。これらフィールドに入力する値は、特定の国コードを使う住所録レコードすべてに表示されます。

4. 必要に応じて次のオプションをオンにします。
 - 国コードの印刷
5. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
国	国を識別するユーザー定義コード(00/CN)。国コードは通貨換算には影響しません。住所録システムでは、データ選択および住所フォーマットに使用されます。
住所フォーマット ID	伝票、レポート、宛名ラベルの住所の表示方法を指定するユーザー定義コード(00/AF)
省略型宛名	宛名ラベルに使用する宛名(Attention)の省略形を指定します。
宛名の挿入位置	<p>郵送先住所フォーマットのどの位置に宛名行を表示するかを指定するコード。有効なコードは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 = 住所行 1 の後 (デフォルト) 1 = 住所行 2 の後 2 = ブランクでない最後の住所行の後 3 = 1 行目 (番地の前) <p>このフィールドを空白にすると、“0”が使用されます。</p>
宛名の前に肩書きを付ける	住所を印刷する場合に人名録の宛名の肩書きをどこに表示するかを指定するオプション。このオプションを設定すると、肩書きは人名録の宛名の前に印刷されます。
標準敬称	宛先に使用する敬称・役職を指定します。このフィールドは、[住所フォーマット ID]フィールドに関連付けられています。このフィールドに設定された敬称・役職は、その住所フォーマット ID を使用するすべての住所レコードに印刷されます。
標準敬称記述の位置指定	<p>敬称・役職の表示位置を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 空白 宛名の前 0 宛名の前 1 宛名の後 2 次のいずれか <ul style="list-style-type: none"> - 最後の空白でない住所行の後 (宛名がない場合) - 宛名の後 (宛名がある場合)
郵便番号記号	<p>郵便番号の前に付くプレフィックス。このプレフィックスが必要になる国があります。英数字を 4 文字まで入力できます。プレフィックスを入力する際、空白・スペースやハイフンなどの区切りをプレフィックスのあとにつけます。プレフィックスと郵便番号の前の区切りが印刷されます。たとえば、“CH-”というプレフィックスと“88023”という郵便番号を入力すると、“CH-88023”と印刷されます。このフィールドを空白にした場合、郵便番号だけが印刷されます。</p> <p>注：日本の郵便システムでこのフィールドは必須で、住所の 1 行目に表示されなければなりません。</p>
国コードの印刷	<p>郵送先住所に国コードを印刷するかどうかを指定するオプション。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> オン = 印刷する オフ = 印刷しない

住所録監査ログ機能の設定

既存の住所録レコードの変更ならびに新しく入力した住所録レコードを記録するには、住所録監査ログ機能を使用できます。このログ機能により生成される情報は、〈住所録マスター監査ログファイル〉(F0101A)に保管されます。

既存レコードの変更のみ、または、入力された新しいレコードと既存レコードの変更の両方を記録するように、住所録監査ログ機能を設定できます。この機能の設定後、F0101A テーブルに記録された変更を記載する住所録監査ログ・レポートを生成できます。

▶ 住所録監査ログ機能を設定するには

Windows クライアントでは、〈システム・アドミニストレーション・ツール〉メニュー(GH9011)で〈バッチ・バージョン〉を選択します。

- 住所録のマスター・ビジネス関数にアクセスするには、次のフィールドに“P0100041”と入力し、[検索]をクリックします。
 - バッチ・プログラム ID
- [使用可能バージョン]からバージョンを選択します。
- [ロー]メニューから[処理オプション]を選択します。
- [アウトバウンド]タブで、次の操作を行います。
 - 処理オプションの[トランザクション・タイプ]フィールドに“JDEAB”と入力します。
 - 処理オプションの[トランザクション・イメージの変更]フィールドで、次のいずれかの値を指定します。
 - ブランク - 変更後レコードを書き込みます。
 - 1 - 変更前と変更後レコードを書き込みます。
- [OK]をクリックします。
- [使用可能バージョン]で[閉じる]をクリックして終了します。
- 〈日次処理〉メニュー(G01)にアクセスします。
- 〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)の処理オプションを検索します。
- [バージョン]タブで、変更した住所録 MBF バージョンの名前を入力して[OK]をクリックします。

住所録の事前定義済みのユーザー定義コード

PeopleSoft EnterpriseOne では、レコードを分類するために、ユーザー定義コード(UDC)を使用します。住所録システムのユーザー定義コードはほとんどが、事前に定義された状態で出荷されます。ハード・コード化されていない事前定義済みデータは変更と削除が可能で、また各自のニーズに合ったユーザー定義コードを追加できますが、住所録システムで事前定義済みのユーザー定義コードは変更しないことをお勧めします。

次の表では、住所録システムで使用される事前定義済みユーザー定義コードについて説明します。

検索タイプ・コード (01/ST)	<p>検索タイプ・コードにより、住所録レコードを分類し、住所録レコードの検索時にシステムが表示するレコードの数を制限します。検索タイプ・コードの値の例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • A(応募者) • C(顧客) • E(従業員)
標準産業(01/SC)	<p>標準産業(SIC)コードは住所録レコードに追加できます。SIC システムは、提供している製品やサービスの種類に従って企業を分類する一連の番号コードです。同じ事業に従事する企業には、同じ SIC コードが割り当てられます。SIC システムは米国商務省と米国企業が協力して開発したものです。SIC コードの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0700(農業サービス) • 1000(鉄鋼業)
フラッシュ・メッセージ・コード(00/CM)	<p>フラッシュ・メッセージ・コードにより、特定の住所録レコードの与信状況が通知されます。フラッシュ・メッセージは会計システム全体で使用されます。フラッシュ・メッセージ・コードの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • B(与信リスクあり) • 1(超過与信限度額) • 2(購買オーダー必要)
都道府県コード(00/S)	<p>都道府県コードは、都道府県を識別するもので、最高 3 文字まで使用できます。都道府県コードの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BC(ブリティッシュ・コロンビア) • CO(コロラド) • DC(ワシントン DC) • IL(イリノイ)
語句検索特殊文字 (H95/SC)	<p>特殊文字をユーザー定義コード(H95/SC)に追加することで、語句検索時に特殊文字を無視するよう指示できます。語句検索機能を使って住所録レコードを検索する際に、このテーブルに登録された特殊文字はすべて無視されます。語句検索機能では、語句の無視は許可されません。</p> <p>ユーザー定義コード・テーブル(H95/SC)の特殊文字を含むレコードを検索する場合は、まずその特殊文字をこのユーザー定義コード・テーブルから削除する必要があります。その後、語句検索機能以外の方法で各レコードを検索し、そのレコードを開き、特殊文字が〈住所録マスター〉(F0101)の一部となるように、変更を一切加えずに保存します。これで語句検索機能で、特殊文字も検索対象として住所録レコードを検索できます。</p>

国コード(00/CN)	<p>コードは最高 3 文字までです。国コードの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AU(オーストラリア) • BE(ベルギー) • CN(中国)
敬称・役職コード (01/SL)	<p>敬称・役職コードは、個人の役職を表します。敬称・役職は、レポート、宛名ラベルなどにも利用できます。敬称・役職コードの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • A (Mr.) • B (Mrs.) • C (Ms.) • D (Dr.)
電子メール・メッセージ・タイプ・コード (01/MT)	<p>メッセージ・タイプ・コードは、別のユーザーへのスピードメッセージの送信に使用されます。電子メール・メッセージ・タイプ・コードの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 (折返し電話をいただきたい。) • 2 (後でもう一度電話します。) • 3 (折返し電話しました。)
使用言語(01/LP)	<p>使用言語コードにより、請求書や計算書などの文書に使用する言語を指定することができます。これらのコードは用語一時変更と連動することにより、正しい翻訳が選択されます。使用言語コードの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DU(オランダ語) • E(英語) • F(フランス語)
Dun & Bradstreet 格付けコード(01/DB)	<p>Dun & Bradstreet が提供する信用格付けコード。Dun & Bradstreet 格付けコードの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • BA1 (High: 優良) • BA2 (Good: 良) • BA3 (Fair: 可)
Experian 格付けコード (01/TR)	<p>Experian が提供する信用格付けコード。Experian 格付けコードの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AAA (Excellent: 優良) • BBB (Good: 良) • CCC (Fair: 可)
タイプ・コード(01/W0)	<p>特定の住所録レコードに対する人名録項目を識別するタイプ・コード。タイプ・コードの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • A(宛名) • B(請求先) • C(連絡先氏名)
連絡先タイプ・コード (01/CT)	<p>連絡先タイプ・コードにより、連絡先の名前を人名録の項目、役割、または機能別に分類します。連絡先タイプ・コードの例は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • C(競争相手) • D(意思決定者) • I(影響者)

関係タイプ・コード (01/RT)	関係タイプ・コードにより、人名録レコードと関連先テーブル(F01112)の名前の関係を示します。また、この関係タイプ・コードを使って各個人の役割や機能を表すこともできます。
電子メール・アドレス・タイプ・コード(01/ET)	電子メール・アドレス・タイプ・コードにより、特定の電子メール・アドレスが個人のアドレス(電子メール・アドレスなど)、またはインターネット・アドレス(URL など)のいずれであるかを指定します。

参照

- 『基本操作』ガイドの「ユーザー定義コード・タイプの追加」

住所録システムのカテゴリ・コード

カテゴリ・コードはユーザー定義コード(UDC)の1種で、各業務における情報追跡とレポート処理に対応するようカスタマイズすることができます。カテゴリ・コードを使って、住所録情報を整理し、データ入力を標準化します。

カテゴリ・コードの記述は変更できますが、システム・コードとタイプ・コードは変更できません。たとえば、UDC テーブル 01/23 の記述を住所録選択コード 23 から仕入先製品に変えることができます。また、カテゴリ・コードの特性を変更することもできます。たとえば、サイズ(最大 10 文字)とタイプ(英字または数字)を変更できます。カテゴリ・コードの記述、カテゴリ・コードの特性を変更した場合、システム管理者はデータ入力フォームに変更が反映されるように、データ辞書の編集ルールとデータ辞書のマッピングを変更する必要があります。

〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)を使ってカテゴリ・コードを住所録レコードに割り当てます。いったん住所録レコードにカテゴリ・コードを割り当てた後で、カテゴリ・コードの記述や特性を変更した場合は、既存の住所録レコードを手作業で変更する必要があります。

住所録カテゴリ・コード(01/01-30)を使用した後でユーザー定義テーブルの値を変更する場合は、〈ユーザー定義コード〉フォームを使って値を変更してから〈カテゴリ・コード一括更新〉プログラム(R01490)を実行して既存の住所録レコードすべてを更新します。

注:

住所録カテゴリ・コードを設定する際には、〈ユーザー定義コード〉フォームでブランクのレコードを作成する必要があります。これにより、住所録レコードへのカテゴリ・コードの割当てが不要な場合のデフォルトが提供されます。

住所録カテゴリ・コード (01/01-30)

UDC テーブル 01/01-30 で住所録カテゴリ・コード(最大 30 種類)を定義することにより、住所録の情報を整理することができます。

住所録カテゴリ・コードを設定して、住所録レコード・グループを対象に特定の情報に関するトラッキングやレポート作成ができます。たとえば、一部レコードが仕入先の場合は、住所録システムで仕入先の住所録レコードの入力または改訂用の検索タイプ V が提供されています。提供する製品の種類によって仕入先をさらに細かく分類することもできます。たとえば、ここで住所録カテゴリ・コード 23 を使って、仕入先の製品情報を保存すると仮定します。〈ユーザー定義コード〉フォームを使って、HDW(ハードウェア)、SFT(ソフトウェア)、ELC(電気製品)などのカテゴリ・コードを設定します。その後、カテゴリ・コードを住所録レコードに割り当てる際に、カテゴリ・コード 23 に対し HDW、SFT、ELC を割り当てることができます。

人名録カテゴリ・コード(01/W0~01/WT)

ユーザー定義コード・テーブル(01/W1~01/WT)で最高 10 種類までの人名録カテゴリ・コードを定義できます。

人名録は、住所録レコードに関連付けられた個人のリストです。たとえば、顧客の会社の住所録レコードを入力する場合、同社の従業員を識別したい場合があります。これらの個人には、個別の住所番号が割り当てられるのではなく、単に人名録リストを通じて、社の住所番号に関連付けられます。人名録カテゴリ・コードの設定時には、カテゴリ・コードを人名録の全エントリに割り当てることができます。

連絡先情報カテゴリ・コード (01/N1~01/NA)

ユーザー定義コード・テーブル(01/N1~01/NA)で最高 10 種類までの人名録カテゴリ・コードを定義できます。

連絡先情報は、追加情報として人名録レコードに割り当てることができます。連絡先情報カテゴリ・コードの設定時には、カテゴリ・コードを連絡先の全エントリに割り当てることができます。

関連先カテゴリ・コード(01/P1~01/P5)

ユーザー定義コード・テーブル(01/P1~01/P5)で最高 5 種類までの関連先カテゴリ・コードを定義できます。

関連先とは、人名録リスト中の個人に関連する担当者のことです。たとえば関連先として、人名録レコードに登録した人物の配偶者を登録しておくことも考えられます。関連先カテゴリ・コードの設定時には、カテゴリ・コードを関連先の全エントリに割り当てることができます。

自動採番の設定

請求書や買掛伝票、作業オーダー、仕訳などの伝票入力時に、ユーザーが伝票番号を割り当てるか、〈自動採番〉プログラム(P0002)により自動的に割り当てることができます。自動採番は使わず手作業で伝票番号をわりあてる場合は、データ入力時に番号を入力する必要があります。

自動採番は、自動的に番号を割り当てる機能です。〈自動採番〉プログラムは、次のいずれかまたは両方の方法を使用して伝票に番号を割り当てます。

- 標準自動採番。自動採番テーブル(F0002)から検索された使用可能な「次の番号」が伝票に割り当てられます。
- 会社/会計年度別自動採番。会社/会計年度別自動採番テーブル(F00021)で、会社および会計年度別または会社別に使用可能な「次の番号」が検索され、伝票に割り当てられます。

自動採番機能はデータ辞書の設定と関係しています。自動採番を使用する各データ辞書項目には、そのデータ項目の自動採番値を含む行番号に対応した自動採番インデックス値が含まれます。

自動採番の設定にあたっては、次の点に注意してください。

- 自動採番値にブランクは使用しない。
- 自動採番は変更しない。変更すると、番号が重複したり過去に追加した番号の検索ができなくなることがあります。変更の必要がある場合は、大きい数値にのみ変更してください。
- 自動採番の値を削除しない。自動採番値を削除すると、予期しない結果を招くことがあります。
- テーブル内の「次の番号」の順序を変更しない。プログラムはテーブルの特定行を参照するため、あらかじめ設定されている自動採番項目を他の行に移動しないでください。たとえば、一般会計システムで仕訳入力の伝票番号に採番される「次の番号」は2行目のフィールドに設定します。

標準自動採番では番号にチェック・ディジットを割り当てることができます。チェック・ディジットを使用すると、データ入力時における入力ミスを防ぐことができます。たとえば、住所録で仕入先のチェック・ディジットを有効にすると、伝票入力中にディジットの転置により伝票が間違った仕入先に割り当てられないように管理されます。データ入力時に番号が転置される可能性がある場合に限り自動採番のチェック・ディジットを使用するようお勧めします。

はじめる前に

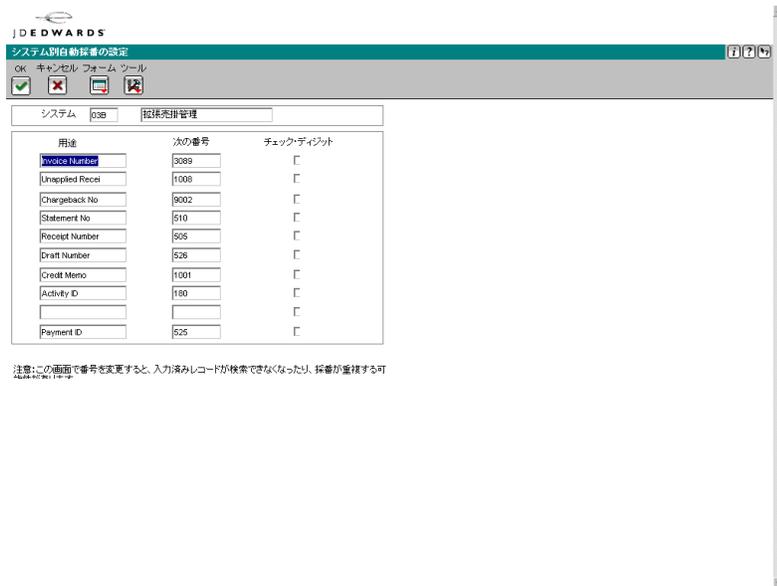
- 会計年度の定義されていない「次の番号」レコードがすでに存在する場合に会計年度を追加するには、既存のレコードを削除し、新しいレコードを追加して会計年度を追加する必要があります。
- 既存の自動採番レコードから会計年度を除去するには、既存のレコードを削除して、会計年度の定義されていない新しいレコードを追加する必要があります。

▶ 自動採番を設定するには

システムが伝票に割り当てる次の番号を検討し、特定のタイプの採番にチェック・ディジットを割り当てるかどうかを指定します。

〈汎用システム〉メニュー(G00)から〈自動採番〉を選択します。

1. 〈自動採番の処理〉で、検討するシステムをハイライトして[選択]をクリックします。



2. 〈システム別自動採番の設定〉で、次のフィールドにシステムにより提供される情報を検討します。
 - 次の番号
3. チェック・ディジットを有効にする採番の各タイプに対して次のオプションをオンにします。
 - チェックディジット

データ入力時に番号の転置エラーが起こる可能性がある場合に限り、自動採番のチェック・ディジットを使用するようお勧めします。
4. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
システム	システム・コードを示すユーザー定義コード(98/SY)
自動採番範囲 1	<p>システムによって自動的に割り当てられる番号。自動採番は伝票番号や請求書番号、仕訳番号、従業員番号、住所番号、契約番号など、さまざまな番号に使用できます。カスタム・プログラミングが提供されていないかぎり、すでに設定されている自動採番を使用する必要があります。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>会社/会計年度別の自動採番を設定していない会社に関しては、自動採番固定情報で選択した方法によって次のように結果が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 方法 1 を使用している場合、会社/会計年度別自動採番が設定されていない各会社のレコードが作成され、すべての会社に対して 1 から番号が採番されます。 ・ 方法 2 を使用している場合、会社/会計年度別自動採番が設定されていない各会社に対しては〈システム別自動採番の設定〉フォームに表示されている「次の番号」が採番されます。

チェックディジット

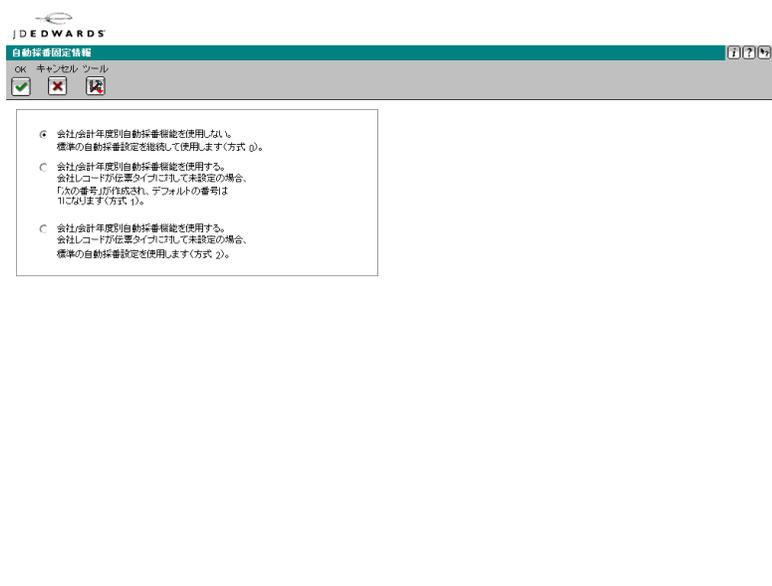
自動採番された各番号の後に数字を追加するかどうかを指定します。たとえば、このオプションを選択して自動採番された番号が“2”の場合、“7”などのチェック・ディジットが追加され、最後の2桁が“27”になります。チェック・ディジットを使用して無作為に番号を増やすことで、置き換えられた番号の割当てを防ぐことができます。この例では、チェック・ディジットが選択されている間は、“72”は自動採番されません。
チェック・ディジットを追加するにはこのオプションを選択してください。

▶ 会社/会計年度別の自動採番を設定するには

請求書やその他の伝票に対する自動採番を会社および会計年度ごとに行うことができます。これは、会計年度別に各会社ごとに連続した伝票番号が必要な場合に便利な機能です。

〈汎用システム〉メニュー(G00)から〈自動採番〉を選択します。

1. 〈自動採番の処理〉で、[フォーム]メニューから [自動採番固定情報]を選択します。



注:

自動採番がすでに有効になっていて、会社別または伝票別の自動採番がすでに存在している場合は、オプションの変更または会計年度の追加を行う前に、これらの自動採番を削除する必要があります。

2. 〈自動採番固定情報〉で、使用する方式のオプションをオンにして[OK]をクリックします。
 - 方式 1 を選択する場合、すべての会社の開始番号にはデフォルトで 1 が使用されます。会社ごとに異なる開始番号を定義することもできます。残りのステップを実行します。
 - 方式 2 を選択する場合、設定していない会社は標準の「次の番号」がデフォルトとなります。設定する会社の開始番号を手動で定義するか、デフォルトで 1 を使用するようになります。残りのステップは実行しないでください。

3. 〈自動採番の処理〉で、[フォーム]メニューから[会社/会計年度別自動採番]を選択します。
4. 〈会社/会計年度別自動採番〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 伝票会社
 - 伝票会社
 - 伝票タイプ
 - 同一伝票タイプ
 - 記述
 - 会計年度
 - 西暦上 2 桁
 - 組込桁数
 - チェックディジット
 - 自動採番範囲 1
 - 自動再設定

フィールド記述

記述	用語解説
伝票会社	伝票番号、伝票タイプ、および元帳日付を使って、請求書、伝票、仕訳などの当初伝票を識別する番号。 「会社/会計年度別自動採番」を使用する場合は、自動採番プログラム(X0010)で伝票会社を使ってその会社の正しい自動採番が取り込まれます。2つ以上の当初伝票に同じ伝票番号および伝票タイプが存在する場合は、伝票会社を使って伝票を検索できます。
伝票会社	伝票番号、伝票タイプ、および元帳日付を使って、請求書、伝票、仕訳などの当初伝票を識別する番号。 「会社/会計年度別自動採番」を使用する場合は、自動採番プログラム(X0010)で伝票会社を使ってその会社の正しい自動採番が取り込まれます。2つ以上の当初伝票に同じ伝票番号および伝票タイプが存在する場合は、伝票会社を使って伝票を検索できます。
伝票タイプ	取引の発生元と目的を示すユーザー定義コード(00/DT)。請求書や伝票、入金や勤怠管理表など、いくつかの伝票タイプ用プレフィックスがあらかじめ定義されています。事前定義されているプレフィックスは次のとおりです。 P = 買掛伝票 R = 売掛伝票 T = 時間および給与支払伝票 I = 在庫伝票 O = 購買伝票 S = 受注伝票

同一伝票タイプ	<p>会社または会社と会計年度別に「次の番号」を設定する場合は、異なる伝票タイプが、同じ「次の番号」順序を共有することがあります。「同一伝票タイプ」は、システムが使用する「次の番号」を制御する伝票タイプとなります。</p> <p>たとえば、RR の伝票タイプを持つ伝票を作成するとします。作成する伝票は、通常の請求書や RI 伝票タイプと同じ「次の番号」順序を使用する必要があります。この場合、RR 伝票タイプの設定レコード定義には「同一伝票タイプ」が RI であることを含めます。</p>
記述	ユーザー定義名称または備考。
会計年度	<p>会計年度を表す 4 桁の数字。ブランクの場合、現行の会計年度を示します。現行の会計年度は(会社番号および名称)フォームで指定します。ここには最終会計期間の年度ではなく、最初の会計期間の終了日付の年度を指定してください。たとえば、2005 年 10 月 1 日から 2006 年 9 月 30 日を会計年度とする場合、2006 ではなく 2005 を指定します。</p>
西暦上 2 桁	<p>西暦の上 2 桁を入力します。たとえば、19 で始まる西暦年(1999, 1998, ...)の場合は 19 を、20 で始まる西暦年(2000, 2001, ...)の場合は 20 を入力します。</p>
組込桁数	<p>会計年度を表すために伝票番号に組み込まれる桁数。組み込まれた数字は、会計年度別の次の番号の割当て時にだけ使用されます。有効な値は次のとおりです。</p> <p>1 = 1 桁組み込む。会計年度の最後の 1 桁が伝票番号の最初の 1 桁に組み込まれます。たとえば、50012345 の場合、1 桁目は 2005 年の 5 を表し、0012345 は自動採番された番号です。</p> <p>2 = 2 桁埋め込む。会計年度の最後の 2 桁が伝票番号の最初の 2 桁に組み込まれます。たとえば、50012345 の場合、最初の 2 桁は 2005 年の 05 を表し、012345 は自動採番された番号です。</p>
チェックディジット	<p>自動採番された各番号の後に数字を追加するかどうかを指定します。たとえば、このオプションを選択して自動採番された番号が“2”の場合、“7”などのチェック・ディジットが追加され、最後の 2 桁が“27”になります。チェック・ディジットを使用して無作為に番号を増やすことで、置き換えられた番号の割当てを防ぐことができます。この例では、チェック・ディジットが選択されている間は、“72”は自動採番されません。チェック・ディジットを追加するにはこのオプションを選択してください。</p>
自動採番範囲 1	<p>システムによって自動的に割り当てられる番号。自動採番は伝票番号や請求書番号、仕訳番号、従業員番号、住所番号、契約番号など、さまざまな番号に使用できます。カスタム・プログラミングが提供されていないかぎり、すでに設定されている自動採番を使用する必要があります。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>会社/会計年度別の自動採番を設定していない会社に関しては、自動採番固定情報で選択した方法によって次のように結果が異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・方法 1 を使用している場合、会社/会計年度別自動採番が設定されていない各会社のレコードが作成され、すべての会社に対して 1 から番号が採番されます。 ・方法 2 を使用している場合、会社/会計年度別自動採番が設定されていない各会社に対しては〈システム別自動採番の設定〉フォームに表示されている「次の番号」が採番されます。

自動再設定

新会計年度用の次の番号」の再設定時に使用する番号。自動再設定は会計年度別「次の番号」にのみ適用されます。新しい各会計年度に対して指定した番号から、伝票番号が開始するように設定されます。

郵便番号レコードの設定

〈郵便番号の改訂〉プログラム(P0117)を使って郵便番号レコードを設定できます。郵便番号レコードは郵便番号テーブル(F0017)と郵便番号住所テーブル(F0118)に保存されます。郵便番号レコードを設定しておくことにより、〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)の[郵便番号]フィールドでビジュアル・アシストを使用して郵便番号を指定すると、国コード、都道府県コード、市、郡が自動入力されます。

郵便番号を改訂するには、〈郵便番号の処理〉フォームでその郵便番号を削除してから再び郵便番号を追加します。

住所録レコードに郵便番号を入力するには、まず〈住所録の改訂〉プログラムの処理オプションを設定する必要があります。

はじめる前に

- 〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)の[処理]タブの[郵便番号の編集]と[郵便番号住所の検索]の処理オプションを設定します。

▶ 郵便番号を設定するには

〈住所録のセットアップ〉メニュー(G0141)で〈郵便番号〉を選択します。

1. 〈郵便番号の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈郵便番号の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 郵便番号
 - 市
 - 郡
 - 都道府県
 - 国
3. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
 - 第2郵便番号
 - 料金別納郵便センター
 - 配送経路
4. [OK]をクリックします。

参照

- 郵便番号の住所録レコードへの割当てについては『住所録』ガイドの「住所録情報の入力」

住所録の検索テーブル

〈住所録上級/技術的操作〉メニュー(G0131)から〈住所録検索テーブルの作成〉を選択します。

住所録検索マスター(F01815)の作成後、〈住所録の検索〉プログラム(P01BDWRD)を使って住所録レコードを検索できます。この場合、住所録検索マスター(F01815)の名前、市、都道府県、郵便番号などのフィールドを使って住所録レコードが検索されます。これにより、住所録レコードの特定フィールドを基にそのレコードの住所番号を調べることができます。

処理オプション:住所録検索テーブルの作成(R01BDWRD)

ビルドオプション

住所録カテゴリコード 1-30 を含めるには、“1”を入力してください。ブランクの場合、カテゴリコードはビルドされないため、用語検索で使用することはできません。

人名録と電話番号に関する情報を含めるには、“1”を入力してください。ブランクの場合、これらの情報はビルドされないため、用語検索で使用することはできません。

親/子関連情報を含めるには、“1”を入力してください。ブランクの場合、この情報はビルドされないため、用語検索で使用することはできません。

▶ 語句検索を使って住所録レコードを検索するには

〈日次処理〉メニュー(G01)から〈住所録の検索〉を選択します。

1. 〈住所録語句検索〉で、次のフィールドを入力し、[検索]をクリックします。
 - 検索する語句
単語単位で入力する必要があります。アスタリスク(*)は使用できません。
2. 人名録情報を表示するには、次のオプションをオンにして[検索]をクリックします。
 - 人名録情報の表示

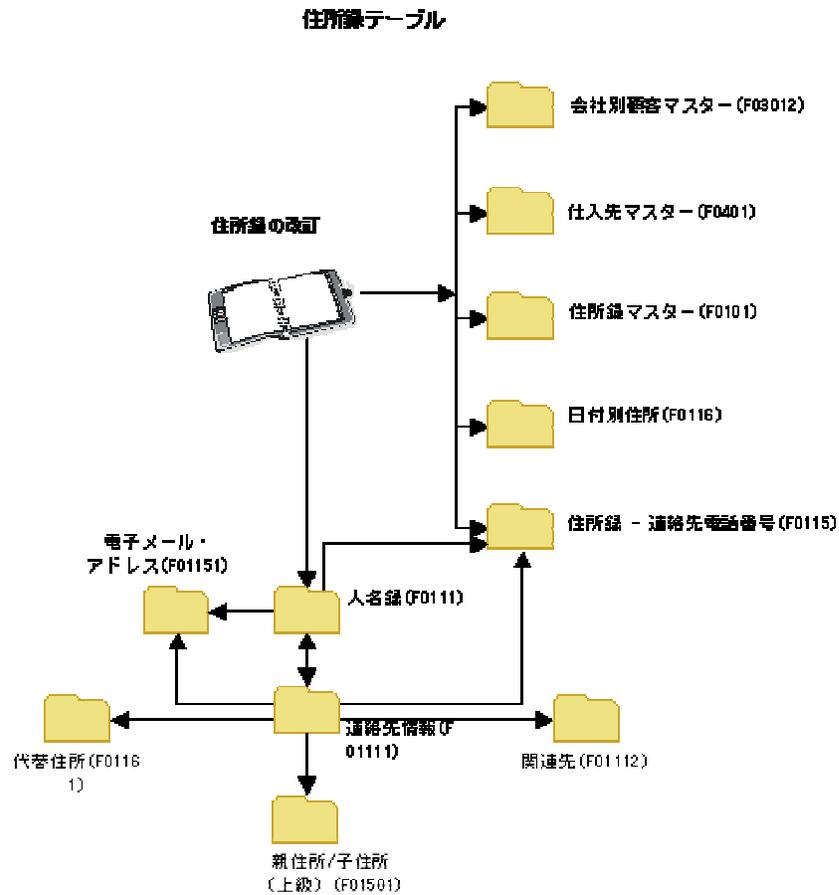
フィールド記述

記述	用語解説
検索する語句	検索する単語または連語を入力します。単語の一部の文字列とワイルドカードを使う検索(あいまい検索)はできません。
人名録情報の表示	イベントの処理タイプを示すオプション。

住所録情報の管理

住所録システムでは、取引先の会社や個人に関する情報を一元管理できます。ここで管理する会社名、連絡先名、住所、電話番号、注記、その他の関連情報は、システム全体で共有されます。

次の図で、〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)で住所録情報の保管とアクセスのために使用されるテーブルを示します。これらのテーブルは他の住所録プログラムでも使用されます。



住所録情報の入力

各アプリケーション・システムを使用する前に、住所録システムで住所録情報を設定する必要があります。住所録システムに設定した顧客や仕入先の名前や住所などの住所情報は各システムで使用されます。

住所録情報の入力、変更、検索、照会は、次のフォームを使って行います。

フォーム	説明
住所録の改訂	このフォームを使って、基本的な住所情報、電話番号、参照用住所、税情報、顧客マスター情報、仕入先マスター情報、請求指示の入力と変更を行い、個人を会社の住所番号に割り当てます。
住所の処理	このフォームから、既存の住所録レコードの検索や検討を行います。住所を検索するには、氏名や姓名、住所番号などを入力します。名称の一部を使って検索する場合は、必ずその前または後にアスタリスク(*)を使用してください。キーワードの後に*を付けて検索すると、名称の最初の語句が検索対象になります。たとえば、CO*と指定すると、Corporate Center、Continental Services、および Services Continental という名称の住所録レコードがある場合、Corporate Center と Continental Services が検出されます。

▶ 住所録情報を入力するには

〈日次処理〉メニュー(G01)から〈住所録の改訂〉を選択します。

1. 〈住所の処理〉で、[追加]をクリックします。

2. 〈住所録の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。

- 住所 No.
このフィールドを空白にすると、自動採番により住所番号が割り当てられます。
3. [住所録]タブをクリックして、次のフィールドに値を入力します。
- 名称
このフィールドを空白にすると、[郵送宛名]フィールドに入力した値が割り当てられます。
 - 検索タイプ
 - ビジネスユニット
[ビジネスユニット]フィールドを空白にして、データ辞書で[ビジネスユニット]の値を指定していない場合は、住所録 MBF - PO(P0100041)の処理オプションの[デフォルトのビジネスユニット]に指定した値が使用されます。デフォルトのビジネスユニットが MBF の処理オプションで指定されていない場合は、コード“1”が使用されます。ビジネスユニットとして使用するコードは(コード“1”も含めて)、ビジネスユニット・マスター(F0006)で設定しておく必要があります。
4. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
- 詳細住所 No.
 - 税 ID

郵送情報

5. <住所録の改訂>で、[郵送]タブをクリックします。
6. 次のフィールドに値を入力します。
- 郵送宛名
7. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
- 住所行 1
 - 住所行 2
 - 住所行 3
 - 住所行 4
 - 市
 - 都道府県
 - 郵便番号
郵便番号による住所入力を使用する場合は、住所行と郵便番号だけを入力して、国コード、都道府県コード、市、郡は、郵便番号テーブル(F0017)と郵便番号住所テーブル(F0118)から読み込みます。
 - 国
 - 郡

米国 IRS 1099 フォームを発行する場合は、住所の入力を 3 行までに留めてください。1099 フォームは住所行が 3 行しかないため、必要な情報が 3 行に収まっていることを確認してください。4 行目の情報は、1099 フォームには印刷されません。

その他の関連住所情報

8. 〈住所録の改訂〉で、[追加情報]タブをクリックします。
9. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
 - 仕入先 (Y/N/M)
関連する処理オプションを指定しておく、このフィールドに Y を指定してレコードを保存した時点で、〈仕入先マスターの改訂〉フォームが表示されます。
 - 税申告者 ID (個人)
 - 免税証書
 - 納税者区分
 - 与信メッセージ
 - 言語
 - 産業分類コード
10. 次のオプションを指定します。
 - 従業員
 - 売掛金/買掛金相殺
 - 顧客
関連する処理オプションを指定しておく、このオプションをオンにしてレコードを保存した時点で、〈顧客マスターの改訂〉が表示されます。
 - ユーザー・コード
 - 補助元帳非活動コード
11. 次のオプションを指定します。
 - 電子メール・ソフトウェア
このオプションでは、ワークフローを介したメッセージの送信方法を指定します。
 - ショートカット・クライアント・タイプ

関連住所情報

12. 〈住所録の改訂〉で、[関連住所]タブをクリックします。
13. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
 - 親住所 No.
 - 第 1 住所 No.
これらのフィールドで基本住所とその他の関連情報の間の補足的関係を指定します。

- ファクター/代替支払先

カテゴリ・コード

14. 〈住所録の改訂〉の[カテゴリ・コード 1-10]タブをクリックします。

The screenshot shows a web browser window with the title 'PeopleSoft'. The page is titled '住所録の改訂' (Residence Record Modification). At the top, there are navigation icons and a toolbar with 'OK', 'キャンセル' (Cancel), 'フォーム' (Form), and 'ツール' (Tools). Below this is a search bar for '住所No.' with the value '500'. A tabbed interface is visible, with '住所録' (Residence Record), '新注' (New Note), '追加候補' (Add Candidates), '関連住所' (Related Address), 'カテゴリ・コード 1-10' (Category Code 1-10), and 'カテゴリ・コード 11-30' (Category Code 11-30). The 'カテゴリ・コード 1-10' tab is active, displaying two columns of input fields. The first column contains 'カテゴリ・コード 1' through '5', and the second column contains 'カテゴリ・コード 6' through '10'. The 'カテゴリ・コード 2' field is populated with the number '125'.

15. [カテゴリ・コード 1-10]フィールドの必要なフィールドに、値を入力します。
これらのフィールドに入力する値は、対応する UDC テーブルに存在している必要があります。
16. [カテゴリ・コード 11-30]タブをクリックします。
17. [カテゴリ・コード 11-30]フィールドの必要なフィールドに、値を入力します。
これらのフィールドに入力する値は、対応する UDC テーブルに存在している必要があります。
18. [OK]をクリックして住所録レコードを保存します。

フィールド記述

記述	用語解説
住所 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
名称	住所録レコードの名称で 40 バイトまで入力できます。この名称はさまざまなフォームやレポートに表示されます。ダッシュやカンマなどの特殊文字も入力することができます。ただし、これらの特殊文字で住所録の名称を検索することはできません。

検索タイプ	<p>検索する住所録レコードのタイプを指定するユーザー定義コード(01/ST)</p> <p>E = 従業員 X = 元従業員 V = 仕入先 C = 顧客 P = 見込顧客 M = 郵送先一覧 TAX = 納税先</p>
ビジネスユニット	<p>会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。</p>
詳細住所 No.	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税 ID など、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。</p> <p>たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに"*JDEDWARDS"と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。</p>
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>詳細住所番号を使って仕入先を設定すると、すばやく仕入先番号を検索することができます。たとえば伝票入力時に、[仕入先 No.]フィールドに固定情報で詳細住所番号に割り当てた記号をつけて詳細住所番号を入力すると、仕入先番号に変換されて表示されます。</p>
税 ID	<p>さまざまな納税先が必要とする税 ID コード。ソーシャル・セキュリティ番号、連邦または州の法人税 ID、売上税番号などです。区切り文字は入力しないでください。TAXC(個人/法人コード)の値に応じて番号が検証され、区切り文字が適切なフォーマットで印刷されます。TAXC の値を指定しない場合は法人と見なされます。</p> <p>買掛管理システムを使用している場合：1099 処理用の税 ID のデフォルト値は仕入先マスターから取り込まれます。</p>
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>米国の従業員の場合、税 ID はソーシャル・セキュリティ番号です。</p> <p>カナダの従業員の場合、税 ID は有効で重複しない社会保険番号(SIN)にする必要があります。</p>
郵送宛名	<p>請求書その他の郵送物の宛先とする会社や個人の名前</p>

住所行 1	<p>住所録システムでの従業員、顧客または仕入先の郵送先住所の第 1 行目。IRS(米国歳入庁)では、従業員の年度末確定申告フォームに印刷する住所のサイズを規定しています。IRS 規定に対応するためシステムの仕様は次のようになっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ W-2 フォームには、空白ではない住所行の最後の 3 行および市、州、郵便番号のみ印刷されます。 ○ W1099 フォームには、空白ではない住所行の最後の 3 行および市、州、郵便番号のみ印刷されます。 ○ 他の連邦政府指定の磁気メディアには、空白ではない最後の住所行および市、州、郵便番号のみ印刷されます。
市 都道府県	<p>住所の市名。 都道府県を指定するユーザー定義コード(00/S)。通常は郵便で使用される略語がコードになります。</p>
郵便番号	<p>米国の郵便番号、または郵送先を示す郵便コード。国際郵便の際、宛先にこのコードを添付します。このコードは、郵便番号トランザクション範囲の処理で終了値として使用されます。</p>
国	<p>国を識別するユーザー定義コード(00/CN)。国コードは通貨換算には影響しません。住所録システムでは、データ選択および住所フォーマットに使用されます。</p>
郡	<p>住所または税務申告のために必要な郡、自治区、またはその他の行政上の区域の名称</p>
仕入先 (Y/N/M)	<p>住所録レコードが仕入先かどうかを示すコード。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y 仕入先。住所録レコードの追加時に仕入先マスター・フォームを表示するかどうかは、処理オプションで設定します。</p> <p>N 仕入先ではない。住所タイプが N の住所録レコードに対しても伝票は入力できます。</p> <p>M その他(ワントタイム仕入先)。住所タイプが M の住所録レコードに対しても複数伝票の入力ができます。</p> <p>F 住所が国外の仕入先。1099 申告時に住所が米国外の仕入先を示す必要があります(米国のみ適用)。</p> <p>納税先を仕入先として割り当てる必要があります。これにより、納税先に税を納めることができます。</p> <p>処理オプションを設定しない場合、コード N は情報のみとなります。この場合、売掛金/買掛金の両方のフィールドが N になっていると警告メッセージが表示されます。</p>
税申告者 ID(個人) 免税証書	<p>基本税 ID (TX1)のほかに納税先が個人納税者に割り当てる ID 番号。免税対象の個人または法人に対して課税当局が発行され、免税状況を識別する番号。</p>

納税者区分

納税者のタイプを示すコード。1099 レポート作成では、P と N のコードをもつレコードのみが選択されます。

米国で有効な値は次のとおりです。

ブランクまたは C
法人(税 ID 12-3456789)

P
個人(税 ID 123-45-6789)

N
自営業(税 ID 12-3456789)

米国以外で有効な値は次のとおりです。

1
個人

2
法人

3
法人と個人の両方

4
自営業

5
税務署

与信メッセージ

得意先/仕入先の与信状況を示すユーザー定義コード(00/CM)の値。次に例を示します。

1
与信限度額超過

2
購買オーダーが必要

3
保守契約にない この与信メッセージは、買掛管理、受注管理、購買管理の各システムの照会フォームや取引入力フォームで表示されます。売掛管理システムでは一時与信メッセージが表示されます。

言語

フォームおよびレポートで使用する言語を指定するユーザー定義コード(01/LP)。指定する言語は、システム・レベルまたはユーザー使用言語に設定されている必要があります。

産業分類コード	<p>商品/サービスを分類するコード。このコードは、次の分類体系のいずれかの形式です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 標準産業(SIC)または北米産業分類体系(NAICS)コード。米国で商品/サービスの分類に使用されるコード(SIC は 4 桁で NAICS は 6 桁)です。 ○ 統一分類システム(HS)。50 カ国以上で使用されている国際的な商品分類コード(最大で 10 桁)です。 ○ 標準産業取引分類コード(SITC)。国連が開発した数値によるコード体系で、国際取引での商品分類に使用され、グローバルな団体や企業などがこのコードを使用しています(最大 6 桁)。
従業員	<p>住所録レコードが従業員であるかどうかを示します。有効な値は次のとおりです。</p> <p style="padding-left: 40px;">オン 従業員 オフ 従業員ではない</p> <p>このオプションは参照用のみで、住所録システムでの用途は事前定義されていません。</p>
売掛金/買掛金相殺	<p>この住所録レコードに対して売掛金と買掛金の相殺を行うかどうかを示すオプション。</p>
顧客	<p>住所録レコードが顧客であるかどうかを示します。有効な値は次のとおりです。</p> <p style="padding-left: 40px;">オン 顧客 オフ 顧客ではない</p>
ユーザーコード	<p>住所を参照するようにデータ辞書で定義するオプション。このフィールドを使って必要な情報を指定することができます。あらかじめ設定された定義はありません。</p>
補助元帳非活動コード	<p>一般会計システムの補助元帳として住所番号が使用できるかどうかを示すオプション。補助元帳が有効でないことを示すブランク以外の値。</p> <p>完了した作業、退職した従業員、処分した資産などがその例です。補助元帳が使用可能になったら、フィールドをブランクに戻してください。</p> <p>テーブル内の補助元帳の情報をレポートに使用して、取引を勘定残高テーブル(F0902)のレコードへ転記されないようにするには、このフィールドにブランク以外の値を入力してください。有効な値は次のとおりです。</p> <p style="padding-left: 40px;">ブランクまたはオフ 補助元帳は使用可</p> <p style="padding-left: 40px;">オン 補助元帳は使用不可</p>

電子メール・ソフトウェア	<p>メッセージの送受信に使用するソフトウェアを指定するユーザー定義コード (01/EP)。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク 電子メールを使用しない。内部メッセージのみ送受信するユーザーに割り当てます。</p> <p>1 JDEM メッセージ・システム。この設定で送受信されるすべてのメッセージは J. D. Edwards データベースのローカルにあります。電子メール(インターネット)にはアクセスできません。</p> <p>2 Microsoft Exchange。Exchange を使って内部および外部メッセージを送受信するユーザーに割り当てます。ワークセンターから Exchange にアクセスすることができます。</p> <p>3 Microsoft Outlook。Outlook を使って内部および外部メッセージを送受信するユーザーに割り当てます。ワークセンターから Outlook にアクセスすることができます。</p> <p>4 その他。Lotus Notes など、Microsoft 以外のサードパーティの電子メールシステムを使って内部および外部メッセージを送受信するユーザーに割り当てます。</p>
ショートカット・クライアント・タイプ	<p>このユーザーに送信するメッセージに表示されるショートカットにより起動するアプリケーションのタイプを示すコード。有効な値は次のとおりです。</p> <p>ブランク = Windows クライアント 01 = HTML クライアント</p>
親住所 No.	<p>親会社の住所番号。特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。ここに入力した値は、住所録組織構造マスター(F0150)で構造タイプがブランクのレコードを更新します。住所録マスター(F0101)にある番号を使用してください。親番号のある住所録レコードの例には次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 親会社のある子会社 ○ 本社のある支店 ○ 請負業者が働く作業現場
第 1 住所 No.	<p>住所録システムの代替住所番号。この住所録レコードに関連するその他の住所録レコードの住所番号を入力できます。</p> <p>例:</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出荷先住所 ・ 法律事務所 ・ 会計士 ・ 証券会社 ・ 提携代理店 <p>このフィールドがブランクの場合、[住所 No.]フィールドの住所番号が自動的に入力されます。</p>
ファクター/代替支払先	<p>買掛金元帳で特定の支払先住所を識別する住所番号。この番号は住所録マスター(F0101)に登録されている必要があります。ブランクにした場合、基本住所 No.が使用されます。</p>

カテゴリ・コード 1

住所録システムで住所録レコードに割り当てることができる 30 のレポート・コードの 1 つ。各種レポートや宛名ラベルの作成などの目的で住所録レコードをグループ化するために使用します。カテゴリ・コードはユーザー定義コード（システム 01、タイプ 01 から 30 まで）です。カテゴリ・コードはたとえば次のように使用します。

- カテゴリ・コード 01 所在地または事業所
- カテゴリ・コード 02 営業担当者
- カテゴリ・コード 03 製品
- カテゴリ・コード 04 与信管理者

住所録レコードへの電話番号の追加

各住所録レコードには電話番号を数に制限なく入力し、各番号をビジネス、携帯電話、ファックスなどと指定できます。電話番号は、住所録 - 連絡先電話番号テーブル(F0115)に保存されます。

▶ 住所録レコードに電話番号を追加するには

〈日次処理〉メニュー(G01)から〈住所録の改訂〉を選択します。

1. 〈住所の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 住所 No.
2. レコードを選んで、[ロー]メニューから[電話番号]を選択します。

3. 〈電話番号〉で次のフィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。
 - 市外局番
 - 電話番号
 - 電話タイプ

フィールド記述

記述	用語解説
市外局番	市外局番。市外局番のデータ辞書項目のデフォルト形式は、米国のエリア・コードに設定されています。デフォルト形式ではカッコ内に3文字を入力します。たとえば、(303)となります。米国のデフォルト形式以外のエリア・コードを適用する場合は、データ辞書のデータ表示規則を変更してください。
電話番号	市外局番や特殊文字(ハイフンやピリオド)を使用しない自由形式の電話番号。国ごとの電話番号形式を使用できます。[市外局番]フィールド(AR1)と組み合わせてこのフィールドを使用してください。電話番号で住所録を検索する場合、住所録システムに登録されているとおりに電話番号を入力してください。
電話タイプ	電話番号の属する場所や用途を示すユーザー定義コード(01/PH)。たとえば、ファックス、携帯電話、自宅用、自宅緊急連絡先、職場緊急連絡先といった電話番号タイプを設定します。

住所フォーマットの検討

〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)のフォーム・エグジットの〈住所フォーマット〉フォームを使って、宛名ラベルの作成前に郵送先住所を検討できます。住所フォーマットは、国別固定情報マスター(F0070)の住所フォーマットIDに相応します。郵送先住所の検討時には、電話番号も確認できます。ただし、〈住所フォーマット〉フォームでは郵送先や電話番号を変更することはできません。〈住所録の改訂〉プログラムを使用する必要があります。

▶ 住所フォーマットを検討するには

〈日次処理〉メニュー(G01)から〈住所録の改訂〉を選択します。

1. 〈住所の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 住所 No.
2. [ロー]メニューから[住所録の改訂]を選択します。
3. 〈住所録の改訂〉で、[フォーム]メニューから[住所フォーマット]を選択します。

4. 〈住所フォーマット〉で、宛先ラベルなどに使用する住所形式になっていることを確認します。
- 〈住所フォーマット〉フォームの情報は変更できません。住所を変更するには、〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)を使用します。フォーマットを変更するには、〈国別固定情報の改訂〉プログラム(P0070)を使用します。

セルフサービス

住所録システムのセルフサービス機能を利用すると、顧客および仕入先は各住所録情報をオンラインで検討および改訂できます。顧客と仕入先は Web インターフェイスを介して次の住所録情報にアクセスできます。

- 名前
- 住所
- 電話番号
- 人名録情報
- 有効日付

セルフサービス機能を有効にするには、〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)の[処理]タブの[セルフサービス]処理オプションを設定します。

処理オプション:住所録の改訂(P01012)

入力

これら処理オプションを使って、〈住所録の改訂〉プログラムの使用時に表示するフォームとフィールドを指定します。フィールドを表示することで、住所録レコードの税 ID の入力が許可されます。

1. 仕入先マスターフォーム

blank = 表示しない

1 = 表示する

住所録レコードを追加する際、〈仕入先マスター情報〉フォームを表示するかどうかを指定します。仕入先マスターフォームを表示するには、この処理オプションをアクティブにして[仕入先]フィールドに Y を入力してください。このフィールドは、〈住所録の改訂〉フォームの[追加情報]タブにあります。有効な値は次のとおりです。

blank 表示しない

1 表示する

2. 顧客マスターフォーム

blank = 表示しない

1 = 表示する

住所録レコードを追加する際、〈得意先マスター情報〉フォームを表示するかどうかを指定します。得意先マスターフォームを表示するには、この処理オプションをアクティブにして、〈住所録の改訂〉フォームの[追加情報]タブにある[得意先]フィールドを選択してください。有効な値は次のとおりです。

blank 表示しない

1 表示する

3. サービス/ワランティ管理フォーム

blank = 表示しない

1 = 表示する

住所録レコードを追加する際、CSMS(カスタマーサービス管理システム)フォームを表示するかどうかを指定します。このフォームを表示するには、この処理オプションをアクティブにしてカスタマーサービス固定情報テーブル(F1701)の CSF フラグをアクティブにしてください。

ブランク 表示しない

1 表示する

4. 税 ID フィールド

ブランク = 表示する

1 = 表示しない

2 = グレー表示する

〈住所録の改訂〉フォームの税 ID フィールドを表示するかどうか、または無効にするかを指定します。このフィールドを無効にした場合、フィールドはグレー表示されデータを入力することはできません。有効な値は次のとおりです。

ブランク 税 ID フィールドを表示する

1 税 ID フィールドを表示しない

2 税 ID フィールドを無効にする

デフォルト

これら処理オプションを使って、住所録レコードに組み込まれるデフォルトの検索タイプとデフォルトのタイプ・コードを指定します。

1. 検索タイプ

〈住所の処理〉フォームの[検索タイプ]フィールドのデフォルトを指定します。検索タイプ一覧表示するにはビジュアルアシストを使用してください。ブランクにすると、*がデフォルトになります。

*はすべての住所録レコードを検索します。

2. タイプコード

人名録テーブルへの入力時の[タイプ・コード]フィールドのデフォルト値(UDC 01/W0)を指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

郵送住所に宛名行を表示しない

A

宛名。他のタイプ・コードが使用された場合以外は、郵送住所の宛名行に表示されます。

B

請求先。請求書の送付時に住所の宛名行に表示されます。

C

連絡先名。1099 処理で使用する IRS 連絡先の名前。

E

緊急時連絡先。住所録レコードの会社/個人の緊急時に連絡する先の人です。

O

その他。その他、すべての場合に使用します。

T

1099 用の正式名。IRS 用の正式名が住所録テーブルの郵送宛名と異なる場合に、1099 処理で使用する名前です。

バージョン

これら処理オプションを使って、住所録レコードの入力時に使用する住所録 MBF、仕入先マスター、顧客マスターのデフォルトのバージョンを指定します。

1. 住所録 MBF(P0100041)バージョン

ブランク = ZJDE0001

住所録 MBF(P0100041)のバージョンを指定します。ブランクの場合、デフォルトは ZJDE0001 です。

2. 顧客マスター(P03013)バージョン

ブランク = ZJDE0001

住所録情報の追加や変更使用する〈得意先マスター〉プログラム(P03013)のバージョンを指定します。

ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

3. 仕入先マスター(P04012)バージョン

ブランク = ZJDE0001

住所録情報の追加や変更使用する〈仕入先マスター〉プログラム(P04012)のバージョンを指定します。

ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

処理

これら処理オプションを使って、〈住所録の改訂〉フォームで有効にする機能を指定します。

1. セルフサービス

ブランク = アクティブにしない

- 1 = 顧客に対してアクティブにする
- 2 = 仕入先に対してアクティブにする

JAVA/HTML によるセルフサービス機能をアクティブにするかどうかを指定します。これは、得意先と仕入先がインターネットで住所や郵送先住所を変更することができる機能です。有効な値は次の通りです。

ブランク	セルフサービスをアクティブにしない
1	得意先のみアクティブにする
2	仕入先のみアクティブにする

2. 郵便番号チェック

ブランクまたは 0 = チェックしない

- 1 = チェックする

郵便番号チェックを行うかどうかを指定します。入力した郵便番号が郵便番号テーブルにあるかどうかチェックされます。郵便番号がテーブルにあり、国と州(都道府県)、郡、市町村がブランクの場合、郵便番号テーブルからデフォルトの情報が自動的に設定されます。一致する郵便番号がテーブルにない場合、警告メッセージが表示されます。有効な値は次のとおりです。

ブランクまたは 0

郵便番号チェックを行わない

1

郵便番号チェックを行う

3. 郵便番号による住所の自動取込み

ブランクまたは 0 = 取り込まない

1 = 複数の住所を取り込む

2 = 1 つの住所を取り込む

郵便番号から住所を自動的に取り込むかどうかを指定します。有効な郵便番号を入力して住所行 1 から 4 をブランクにした場合、郵便番号テーブル(F0118)から住所が取り込まれます。処理オプションで 1(複数の住所を取り込む)を指定した場合、複数の住所がある場合は郵便番号選択ウィンドウが表示されます。有効な値は次のとおりです。

ブランクまたは 0

郵便番号から住所を自動的に取り込まない

1

郵便番号から住所を取り込む(複数の住所がある場合は選択ウィンドウを表示)

2

郵便番号から住所を取り込む(住所が 1 つの場合のみ)

処理オプション:住所録 MBF (P0100041)

送信タブ

これら処理オプションを使って、送信トランザクションの作成時のトランザクション・タイプとトランザクション・イメージを指定します。インタオペラビリティ機能を使う場合のトランザクション・タイプを指定するには、トランザクション・タイプの処理オプションを使用します。このフィールドをブランクにすると、送信インタオペラビリティ処理は実行されません。トランザクション・タイプコードを検索するには ビジュアル・アシストを使用してください。

1. トランザクションタイプ

インタオペラビリティ機能を使用する際のトランザクションタイプを指定します。ブランクの場合、送信インタオペラビリティ処理は実行されません。トランザクションタイプコードを検索するにはビ

ジュアルアシストを使用してください。

2. 変更トランザクションの書込み

ブランク = 変更後トランザクションを書き込む

1 = 変更前トランザクションと変更後トランザクションを書き込む

レコード変更の前後のトランザクションを書き込むかどうかを指定します。変更前トランザクションとは変更前のレコードのことです。変更後トランザクションとは変更後のレコードのことです。有効な値は次のとおりです。

ブランク 変更後トランザクションを書き込む

1 変更前後両方のトランザクションを書き込む

デフォルト

これら処理オプションを使って、住所録レコードの作成時のデフォルトのビジネスユニットを指定します。

1. デフォルトのビジネスユニット

ブランク = デフォルトのビジネスユニット 1

〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)でビジネスユニットを指定しなかった場合に使用するビジネスユニットを指定します。〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)でビジネスユニットを指定せず、ここでも指定しなかった場合、住所録には 1 が入力されます。

人名録レコード

住所録レコードの作成後、人名録レコードでその住所に関連する個人の名前を指定することができます。人名録のレコードごとには、人名録の項目を識別する業務関係や個人の情報、郵送先の情報、およびタイプ・コードを保管できます。この情報は人名録テーブル(F0111)に保存されます。

個々の人名録レコードごとに、個人と住所の関係を表すタイプ・コードを指定することができます。たとえば、請求書の担当者を入力する場合、タイプ・コードとして“B”を入力します。

タイプ・コードを使用して、ラベルに印刷し、郵送先住所に使用する人名録の項目を指定できます。

人名録レコードに情報を入力すると、住所番号と人名録の項目の関係を示す組織構造が作成されます。

電話番号および人名録

人名録項目には、1 つまたは複数の電話番号を入力できます。電話番号を入力すると、人名録行 ID が適切な住所録番号に割り当てられます。

人名録項目の電話番号は、住所録 - 連絡先電話番号テーブル(F0115)に保存されます。

人名録の電子メール・アドレス

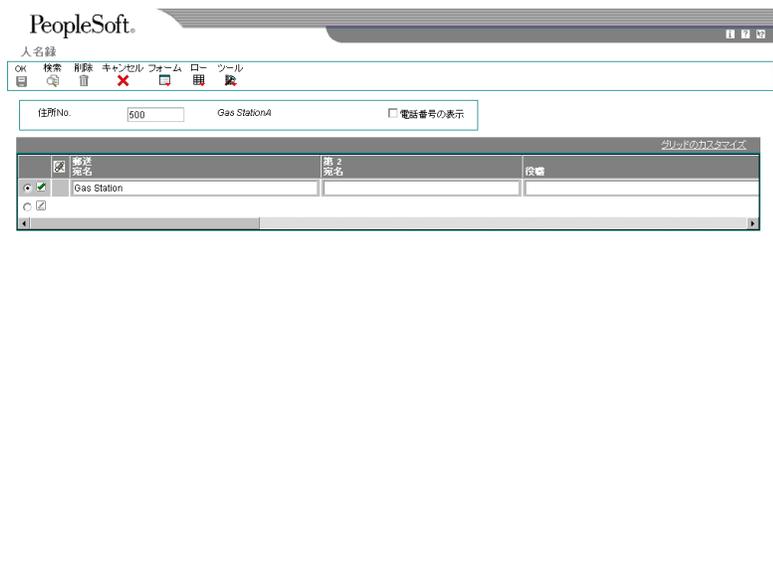
人名録レコードには、1 つまたは複数の電子メール・アドレスおよびインターネット・アドレスを登録することができます。電子メール情報を入力すると、人名録行 ID が適切な住所録番号に割り当てられます。

人名録レコードの電子メール情報は、電子メール・アドレス・テーブル(F01151)に保存されます。

▶ 人名録レコードを追加するには

〈日次処理〉メニュー(G01)から〈住所録の改訂〉を選択します。

1. 〈住所の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 住所 No.
2. 住所録レコードを選んで、[ロー]メニューから[人名録]を選択します。



住所録システムが、各人名録項目に行 ID を割り当てます。住所番号の最初の人名録レコードには、行 ID "0" (ゼロ) が割り当てられます。

人名録の行 ID "0" (ゼロ) には、ワークフローまたはコールエントリの電子メール情報は入力しないでください。[備考]フィールドに電子メール・アドレスまたはポケベル番号を入力します。

3. 人名録で、行“0”(ゼロ)の次のフィールドに電子メール・アドレスまたはポケベル番号を入力します。
 - 備考電子メール・アドレスは、ワークフロー管理システムやサービス管理システムなどの他のシステムでも使用されます。
4. 人名録レコードを追加するには、グリッドに表示される最初の空白行で次の必須フィールドに値を入力します。
 - 郵送宛名
5. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
 - 役職
 - 名称
 - 備考
 - 敬称
 - 名前
 - ミドルネーム
 - 名字
 - 人名録タイプ
 - 表示順序
6. [OK]をクリックします。

▶ **人名録項目にカテゴリ・コードを追加するには**

〈日次処理〉メニュー(G01)から〈住所録の改訂〉を選択します。

1. 〈住所の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 住所 No.
2. 住所録レコードを選んで、[ロー]メニューから[人名録]を選択します。
3. [人名録]で、グリッドの人名録レコードをハイライトして[ロー]メニューから[詳細]を選択します。
4. [詳細人名録]で[カテゴリ・コード]タブをクリックします。

PeopleSoft

人名録詳細

OK キャンセル ツール

住所No. 500 Gas StationA
 人名録行 0

詳細 カテゴリ・コード

カテゴリ・コード 001	125	.
カテゴリ・コード 002		.
カテゴリ・コード 003		.
カテゴリ・コード 004		.
カテゴリ・コード 005		.
カテゴリ・コード 006		.
カテゴリ・コード 007		.
カテゴリ・コード 008		.
カテゴリ・コード 009		.
カテゴリ・コード 010		.

5. 〈人名録カテゴリ・コード〉で、次のフィールドに値を入力します。

- カテゴリ・コード 1
- カテゴリ・コード 002
- カテゴリ・コード 003
- カテゴリ・コード 004
- カテゴリ・コード 005
- カテゴリ・コード 006
- カテゴリ・コード 007
- カテゴリ・コード 008
- カテゴリ・コード 009
- カテゴリ・コード 010

6. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
郵送宛名	請求書その他の郵送物の宛先とする会社や個人の名前
役職	人名録の氏名の肩書き
備考	テキスト入力フィールドで、40文字まで入力できます。
敬称	書面で氏名に追加して使用する文字で、たとえば次のようになります(参照用のみ)。 MS. GREEN DR. STRASHEIM MR. PITT
名前	個人の名前です(参照用のみ)。
ミドルネーム	個人のミドル・ネームです。
名字	個人の名字です(参照用のみ)。
人名録タイプ	人名録レコードを識別するユーザー定義コード(01/W0)。たとえば、次のような値を設定します。 A = 宛名 B = 請求先 C = 連絡先 E = 緊急連絡先 O = その他 T = 1099 法定名称
表示順序	フォーム上のレコードグループを再順序付けするための数値。
カテゴリ・コード 1	人名録レコードを分類するためのユーザー定義コード(01/W0 から W9 まで)。特別な郵送先リストや電話帳などの名前を登録するのに使用できます。 例： 1 新規連絡先または従業員住所 2 クリスマスカード送付先リスト 3 退職者住所 4 信用調査機関

連絡先情報

連絡先情報は人名録レコードの拡張で、人名録項目に関する追加情報を入力できます。連絡先情報の行 ID 番号と人名録レコードの行 ID 番号は、同一の個人を示します。行 ID 番号に基づいて、連絡先レコードと住所録レコードの人名録レコードが関連付けられます。

人名録レコードごとに、関連先のリストを作成したり、連絡先項目と住所録レコードの関係を定義したりできます。連絡先情報を入力する際、住所番号と人名録レコードの関係を示す組織構造を作成することもできます。

連絡先情報を分類、整理するために、連絡先情報カテゴリ・コードが 10 種類用意されています。連絡先情報は、連絡先情報テーブル(F01111)に保存されます。

次の表では、連絡先情報の各タイプについて説明します。

連絡先情報タイプ	説明
関連先	個人名や個人情報を連絡先項目に関連付けることができます。 関連先情報の分類と整理用に 5 種類の関連先カテゴリ・コードが用意されています。 関連先情報は、関連先テーブル(F01112)に保存されます。
電話番号	連絡先項目に対して電話番号の追加、変更、削除ができます。 電話番号情報は、住所録 - 連絡先電話番号テーブル(F0115)に保存されます。
電子メール・アドレス	連絡先項目に対して電子メール・アドレス情報の追加と変更ができます。 電子メール・アドレス情報は電子メール・アドレス・テーブル(F01151)に保存されます。
代替住所	住所情報を連絡先項目に追加でき、住所行 4 行、郵便番号、有効日付を含むことができます。 人名録の住所情報は代替住所テーブル(F01161)に保存されます。

▶ 連絡先情報を入力するには

〈日次処理〉メニュー(G01)から〈住所録の改訂〉を選択します。

- 〈住所の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 住所 No.
- 住所録レコードを選んで、[ロー]メニューから[人名録]を選択します。
- 〈人名録〉でレコードを選んで、[ロー]メニューから[連絡先情報]を選択します。

4. 〈連絡先情報の処理〉でレコードを選んで、[ロー]メニューから[連絡先の改訂]を選択します。

5. 〈連絡先情報の改訂 - 詳細〉で、[住所録]タブをクリックして次のフィールドに値を入力します。
 - 郵送宛名
 - 名称
 - 名前
 - ミドル・ネーム
 - 名字
 - 敬称
 - ニックネーム
 - 性別
6. [カテゴリ・コード]タブで[カテゴリ・コード 01]から[カテゴリ・コード 10]までのうち必要なフィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。
 - カテゴリ・コード 1

関連先

7. 連絡先情報に関連先を追加するには、〈連絡先情報の処理〉でレコードを選択します。
8. [ロー]メニューから[関連先]を選択します。

PeopleSoft

関連先

OK 削除 キャンセル ロー ツール

住所No. 500 Gas Station4
 人名発行 0 Gas Station

関係先	関係タイプ	関係名	生年月日 (DD)	生年月日 (MM)	生年月日 (YY)	カテゴリ 01	カテゴリ 02	カテゴリ 03
1								

9. 〈関連先〉で、次のフィールドに値を入力します。。

- 関係タイプ
- 関係名

10. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。

- 生年月日(DD)
- MOB
- YEARBIRT
- カテゴリ 01
- カテゴリ 02
- カテゴリ 03
- カテゴリ 04
- カテゴリ 05

11. [OK]をクリックします。

電話番号

12. 連絡先情報に電話番号を追加するには、〈連絡先情報の処理〉でレコードを選択します。

13. [ロー]メニューから[電話番号]を選択します。

14. 〈電話番号〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。

- 市外局番
- 電話番号
- 電話タイプ

15. [キャンセル]をクリックします。

電子メール・アドレス

16. 連絡先情報に電子メール・アドレスを追加するには、〈連絡先情報の処理〉でレコードを選択します。

17. [ロー]メニューから[電子メールアドレス]を選択します。

18. 〈電子メール・アドレス〉で、次のフィールドに入力して[OK]をクリックします。

- 電子メールタイプ
- 電子メールアドレス

ワークフロー管理またはサービス管理用のシステムを使用する場合は、このフィールドには電子メール・アドレスまたはポケベル番号は入力せず、人名録行 ID“0”(ゼロ)の[備考]フィールドに入力してください。

代替住所

19. 連絡先情報に代替住所を追加するには、〈連絡先情報の処理〉でレコードを選択します。

20. [ロー]メニューから[代替住所]を選択します。

開始日付	住所タイプ	住所行	住所行	住所行
		1	2	3

21. 〈代替住所〉で、次のフィールドに入力して[OK]をクリックします。

- 開始日付
- 住所タイプ
- 住所行 1
- 住所行 2
- 住所行 3
- 住所行 4

- 市
- 都道府県
- 郡
- 国
- 郵便番号

フィールド記述

記述	用語解説
ニックネーム	個人の別称。人名録の住所番号にリンクされています。
性別	性別を示すコード。有効な値は次のとおりです。 M 男性 F 女性
カテゴリ・コード 1	レポート用として使用するユーザー定義コード(01/WN001)。連絡先情報テーブル(F01111)の氏名に割当可能な 10 のレポート用コード(WN001-WN010)の 1 つです。たとえば、これらのコードを使用してメーリングリストや電話番号リストを識別したり、信用調査部長といった役職を示すことができます。
関係タイプ	連絡先と関連氏名テーブル(F0112)の氏名との関係を示すユーザー定義コード(01/RT)
関係名	人名録レコードに関連付けられている人物の氏名を定義します。
生年月日(DD)	[生年月日]フィールドの日付部分を指定します。たとえば、生年月日が 1973 年 2 月 5 日の場合、このフィールドに 05 と入力します。
MOB	[生年月日]フィールドの月部分を指定します。たとえば、生年月日が 1973 年 2 月 5 日の場合、このフィールドに 02 と入力します。
YEARBIRT	[生年月日]フィールドの年部分を指定します。たとえば、生年月日が 1973 年 2 月 5 日の場合、このフィールドに "1973" と入力します。
カテゴリ 01	レポート用として使用するユーザー定義コード(01/CP001)。関連氏名テーブル(F0112)の氏名に割当可能な 5 つのレポート用コード(CP001-CP005)の 1 つです。たとえば、販売要員や地域などに対してこのコードを設定します。
市外局番	市外局番。市外局番のデータ辞書項目のデフォルト形式は、米国のエリア・コードに設定されています。デフォルト形式ではカッコ内に 3 文字を入力します。たとえば、(303)となります。米国のデフォルト形式以外のエリア・コードを適用する場合は、データ辞書のデータ表示規則を変更してください。
電話番号	市外局番や特殊文字(ハイフンやピリオド)を使用しない自由形式の電話番号。国ごとの電話番号形式を使用できます。[市外局番]フィールド(AR1)と組み合わせてこのフィールドを使用してください。電話番号で住所録を検索する場合、住所録システムに登録されているとおりに電話番号を入力してください。
電話タイプ	電話番号の属する場所や用途を示すユーザー定義コード(01/PH)。たとえば、ファックス、携帯電話、自宅用、自宅緊急連絡先、職場緊急連絡先といった電話番号タイプを設定します。

電子メールアドレス	個人または企業の電子メール・アドレスおよび URL。
電子メールタイプ	アドレスが電子メールアドレスか URL かを示します。
開始日付	住所、品目、取引、テーブルなどが有効になる日付。このフィールドの意味はプログラムによって異なります。たとえば、次のような日付として使用します。 <ul style="list-style-type: none"> ・住所の変更が有効になる日付 ・賃貸契約が有効になる日付 ・価格が有効になる日付 ・為替レートが有効になる日付 ・税率が有効になる日付
住所タイプ	自宅や勤務先などの住所タイプを識別するユーザー定義コード(01/AT)。

処理オプション: 連絡先情報(P01111)

バージョン

MBF バージョン

処理オプション: 連絡先情報 MBF(P0100069)

連絡先

1. 子レコードの処理(将来)

1: 子レコードを処理する

空白の場合、子レコードは処理されません。

代替住所

有効住所(F0116)と代替住所(F01161)を自動的に同期化するかどうかを指定します(将来)。

1 同期化する

空白 同期化しない

インタヘラビリティ

1. トランザクションのタイプを入力してください。

2. 変更前トランザクション処理(アウトバウンドのみの場合)

1 = 変更前後両方のトランザクションを書き込む

空白 = 変更後トランザクションのみ書き込む

補足データ

システム標準のマスター・テーブルにない情報も、補足データとして設定することにより管理できます。

補足データの設定にあたっては、カテゴリ・コードを定義して各カテゴリ別にトラッキングの対象となる情報をより詳細に定義します。たとえば、顧客の配送方法のトラッキングを行う場合、配送方法はマスター・テーブルのフィールドとして設定されていないので、補足データで“配送方法”というカテゴリを定義し、使用する各種の配送方法を設定することができます。

補足データベースは、次の各システムで提供されています。

- 住所録
- 一般会計
- 作業原価
- 固定資産
- 人事管理
- 給与計算
- 工場/設備管理
- 作業オーダー
- 在庫管理

システムで既に準備された補足データベース以外にも、必要に応じて補足データベースにデータ・タイプを作成することにより、情報を整理できます。補足データベースとデータ・タイプの設定すると、補足データを入力して利用できるようになります。

補足データベース・コードの情報は、次のテーブルに保管されます。

- 補足データベースの設定(F00090)
- 補足データベース・データ・タイプ(F00091)
- 補足データ(F00092)

住所録システムでは、必ずしも補足データを使用する必要はありません。

補足データ・タイプ・コードと形式

補足データ・タイプ・コードは、補足データ編成にユーザーが使用するユーザー定義コードです。必要に応じて、次の形式の補足データ・タイプ・コードを設定できます。

形式	説明
テキスト形式	<p>テキスト形式を使用すると、自由形式のテキストで情報を入力できます。たとえば、次の種類の情報をテキスト形式で入力できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 備考 • メモ欄 • メモ • 記述 • 従業員の業務評価 • 面接記録 • 仕事内容 • 法定表示法
メッセージ形式	<p>メッセージ形式はテキスト形式と類似しています。フォームに直接エグジットして、データ・タイプに関する説明情報を入力できます。</p>
コード形式	<p>コード形式を使用すると、細くデータを入力するフォームをカスタマイズできます。コード形式を使用する各データ・タイプごとに、データ入力フォームに表示されるカラム見出しをカスタマイズできます。たとえば、コード形式を使って次のカラム見出しをカスタマイズできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • コミュニケーション・スキル • トレーニング • 業務評価 • 付随記録 • 損害額 <p>コード形式を使用する各補足データ・タイプにユーザー定義コード・テーブルを関連付けることができます。既存のユーザー定義コード・テーブルを使って、新しいテーブルを作成できます。新しく作成する場合は 55 から 59 までのシステム・コードを使用してください。この範囲のシステム・コードを使用すると、再インストール時に上書きされることがありません。</p> <p>テキストを入力するには、コード形式を使用するデータ・タイプに添付できます。</p>
プログラム形式	<p>プログラム形式では、〈補足データ〉プログラム(P00092)から特定のプログラムやバージョン番号にアクセスできるようになります。メニューをカスタマイズせずに、プログラム形式を使用する補足データ・タイプを設定して、頻繁に使用するフォームにアクセスできます。1 回のメニュー選択でこれらのフォームにアクセスできるため、データ入力作業の時間短縮と省力化を図ることができます。</p>

補足データ・タイプ・コードは補足データ・テーブル(F00092)に保管されます。補足記述テキストは、汎用テキストの添付ファイルとして保管されます。

補足データ・タイプの設定

補足データベースの使用にあたっては、使用するデータの入力前に、データ・タイプを設定する必要があります。〈補足データの設定〉プログラム(P00091)を使用して次の操作を行うことができます。

- 住所録データベースの設定。データ・タイプを作成し、各データ・タイプに形式(テキスト、コード、プログラム形式)を割り当てます。コード形式では6種類、テキスト形式では2種類、プログラム形式では1種類のデータ・タイプを作成できます。
- 住所録システム用補足データベースの追加作成。データベースで提供されるデータ・タイプ別にデータを整理しない場合は、補足データベースの追加作成が必要となることがあります。
- キー・フィールドの指定およびデータ・タイプ用のカラム見出しのカスタマイズ。

補足データベースごとに、データ・タイプを作成して情報を整理できます。データベースとデータ・タイプの設定後、〈補足データ〉プログラム(P00092)を使って補足情報を入力できます。

▶ 補足データベース・コードを設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈CIF 補足データ〉メニュー(G01312)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈ビジネスユニット補足データ〉メニュー(G09312)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈品目補足データ/顧客情報ファイル〉メニュー(G4124)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈補足データ設定〉メニュー(G05BSD4)から〈補足データベースおよびデータ・タイプの設定〉を選択します。

〈補足データの設定〉メニュー(G1344)から〈補足データの設定〉を選択します。

1. 〈補足データベース設定の処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft
補足データベースの設定

OK キャンセル ツール

補足DBコード AB Address Book

キー・フィールドの選択 DDのエリア ロー記述

ビジネスユニット

会社

汎用英数字キー-1

汎用英数字キー-2

汎用数字キー-1 AN8 Address Book

汎用数字キー-2

データ選択の実行 関係名

2. 〈補足データの設定〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 補足 DB コード
 - 記述
3. キー・フィールドを指定するには、次のオプションをオンにします。
 - ビジネスユニット
 - 会社
 - 汎用英数字キー 1
 - 汎用英数字キー 2
 - 汎用数字キー 1
 - 汎用数字キー 2

キー・フィールドにより、〈補足データ〉プログラム(P00092)を使って補足データを入力する際に検索対象となるデータが制限されます。

4. 有効にする各キー・フィールドごとに、次のフィールドに値を入力します。
 - DD のエイリアス
 - ロー記述

DD のエイリアスに対するデータ辞書名を変更する場合は、キー・フィールドの[ロー記述]フィールドに値を入力します。このフィールドに入力する名前は、〈補足データ〉プログラムでキー・フィールドとして表示されます。

5. [OK]をクリックします。

新しいデータベース・コードがユーザー定義コード・テーブル(00/SD)に登録されます。

フィールド記述

記述	用語解説
補足 DB コード	関連する補足データ・タイプのグループに関するデータベースを設定するコード。このコードによって、各システムの補助データ・タイプを区別します。たとえば、従業員(E)の補足データベースには学歴や職能などの従業員追加情報をトラッキングするデータ・タイプが含まれます。
ビジネスユニット	補足データのキー・フィールドにビジネスユニットを使用するかどうかを示します。
	--- フォーム固有 --- ビジネスユニットを選択すると、〈補足データの処理〉フォームに[ビジネスユニット]フィールドがキーフィールドとして表示されます。対応する[ロー記述]フィールドにデータを入力すると、入力したデータが〈補足データの処理〉フォームにキーフィールド名として表示されます。

会社

補足データのキー・フィールドに会社を使用するかどうかを示します。

--- フォーム固有 ---

会社を選択すると、〈補足データの処理〉フォームに[伝票会社]フィールドがキーフィールドとして表示されます。対応する[ロー記述]フィールドにデータを入力すると、入力したデータが〈補足データの処理〉フォームにキーフィールド名として表示されます。

汎用英数字キー 1

補足データのキーフィールドとして英数字 1 に入力したデータを使用するかどうかを示すフラグ

--- フォーム固有 ---

汎用英数字キー1 を選択する場合、対応する[データ辞書エイリアス]フィールド(エイリアス SAL1)に有効なデータ辞書エイリアスを入力してください。データ辞書エイリアスは、使用する前に、ユーザー定義コードの有効英数字エイリアス(00/S2)に設定してください。
汎用英数字キー1 を選択して有効なエイリアスを入力すると、そのフィールドは、〈補足データの処理〉フォームにキーフィールドとして表示されます。対応する[ロー記述]フィールド(SBD1)にデータを入力すると、入力したデータは、〈補足データの処理〉フォームにキーフィールドとして表示されます。

汎用英数字キー 2

補足データのキーフィールドとして英数字 2 に入力したデータを使用するかどうかを示すフラグ

--- フォーム固有 ---

汎用英数字キー2 を選択する場合、対応する[データ辞書エイリアス]フィールド(エイリアス SALA2)に有効なデータ辞書エイリアスを入力してください。データ辞書エイリアスは、使用する前に、ユーザー定義コードの有効英数字エイリアス(00/S2)に設定してください。
汎用英数字キー2 を選択して有効なエイリアスを入力すると、そのフィールドは、〈補足データの処理〉フォームにキーフィールドとして表示されます。対応する[ロー記述]フィールド(SBD2)にデータを入力すると、入力したデータは、〈補足データの処理〉フォームにキーフィールドとして表示されます。

汎用数字キー 1

補足データのキーフィールドに、数字 1 に対して入力するデータを使用するかどうかを示すフラグ

--- フォーム固有 ---

汎用数字キー1 を選択する場合、対応する[データ辞書エイリアス]フィールド(エイリアス SAL3)に有効なデータ辞書エイリアスを入力してください。データ辞書項目エイリアスは、使用する前に、ユーザー定義コードの有効数字エイリアス(00/S1)に設定してください。

汎用数字キー1 を選択して有効なエイリアスを入力すると、そのフィールドは、〈補足データの処理〉フォームにキーフィールドとして表示されます。対応する[ロー記述]フィールド(SBD3)にデータを入力すると、入力したデータは、〈補足データの処理〉フォームにキーフィールドとして表示されます。

--- フォーム固有 ---

汎用数字キー2を選択する場合、対応する[データ辞書エイリアス]フィールド(エイリアス SAL4)に有効なデータ辞書エイリアスを入力してください。データ辞書項目エイリアスは、使用する前に、ユーザー定義コードの有効数字エイリアス(00/S1)に設定してください。

汎用数字キー2を選択して有効なエイリアスを入力すると、そのフィールドは、〈補足データの処理〉フォームにキーフィールドとして表示されます。対応する[ロー記述]フィールド(SBD4)にデータを入力すると、入力したデータは、〈補足データの処理〉フォームにキーフィールドとして表示されます。

▶ テキスト形式で補足データ・タイプ・コードを設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈CIF 補足データ〉メニュー(G01312)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈ビジネスユニット補足データ〉メニュー(G09312)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈品目補足データ/顧客情報ファイル〉メニュー(G4124)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈補足データ設定〉メニュー(G05BSD4)から〈補足データベースおよびデータ・タイプの設定〉を選択します。

〈補足データの設定〉メニュー(G1344)から〈補足データの設定〉を選択します。

1. 〈補足データベース設定の処理〉で、[検索]をクリックして既存のデータベース・コードを表示します。
2. テキスト形式に定義するデータベース・コードを選んで、[ロー]メニューから[データ・タイプの処理]を選択します。
3. 〈データ・タイプの処理〉で、[追加]をクリックします。

4. 〈データ・タイプの改訂〉で次のフィールドに“N”と入力します。

- 表示形式

5. 次のフィールドに値を入力します。

- データ・タイプ
- 記述

6. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。

- データ・タイプ分類
- 表示順序
- 検索タイプ

テキスト形式の補足データ・タイプの場合、上記以外のフィールドは空白にしておきます。

7. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
表示形式	データタイプの形式を指定するコード。補足データの表示形式を決定します。有効なコードは次のとおりです。 C = コード形式。コード特定情報の入力フォームを表示します。ユーザー定義コード・テーブル(F0005)と関連している場合もあります。 N = テキスト形式。説明テキストの入力フォームを表示します。 P = プログラム・エグジット。[プログラム ID]フィールドで指定したプログラムを起動できます。 M = メッセージ形式。コード特定情報の入力フォームを表示します。入力したコードを汎用メッセージ/レート・テーブル(F00191)の値と比較することができます。このコードは人事管理システムや会計システムでは使用されません。
	--- フォーム固有 --- データタイプの設定に使用する必須フィールド。
データ・タイプ	カテゴリ別にデータを分類するために、補足データに割り当てるコード。 --- フォーム固有 --- データ・タイプの設定に使用する必須フィールド。既存のデータ・タイプを使用するか、1文字または2文字のコードを入力して新しいデータ・タイプを作成することもできます。
記述	ユーザー定義名称または備考。

表示順序	フォーム上のレコードグループを再順序付けするための数値。
データ・タイプ分類	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>データタイプの設定に使用する任意フィールド。各データタイプの表示順序番号を指定します。データタイプは、ここで指定した順序で〈補足データの処理〉フォームに表示されます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>データタイプの設定に使用する任意フィールド。使用する前に、ユーザー定義コード(00/CL)にデータ分類コードを設定してください。このフィールドは、情報の種類別にデータ・タイプを分類する場合に使用します。たとえば、テキスト形式とコード形式のデータ・タイプがあり、その両方が購入製品に関するものであった場合、両方のデータ・タイプに同じデータ分類コードを割り当てます。</p>
検索タイプ	<p>検索する住所録レコードのタイプを指定するユーザー定義コード(01/ST)</p> <p>E = 従業員 X = 元従業員 V = 仕入先 C = 顧客 P = 見込顧客 M = 郵送先一覧 TAX = 納税先</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>データタイプの設定に使用する任意フィールド。使用する前に、ユーザー定義コード(01/ST)に検索タイプを設定する必要があります。</p>

▶ コード形式で補足データ・タイプ・コードを設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈CIF 補足データ〉メニュー(G01312)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈ビジネスユニット補足データ〉メニュー(G09312)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈品目補足データ/顧客情報ファイル〉メニュー(G4124)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈補足データ設定〉メニュー(G05BSD4)から〈データベースおよびデータ・タイプ〉を選択します。

〈補足データの設定〉メニュー(G1344)から〈補足データの設定〉を選択します。

1. 〈補足データベース設定の処理〉で、[検索]をクリックして既存のデータベース・コードを表示します。
2. コード形式に定義するデータベース・コードを選んで、[ロー]メニューから[データ・タイプの処理]を選択します。
3. 〈データ・タイプの処理〉で、[追加]をクリックします。

PeopleSoft
データタイプの改訂

OK キャンセル フォーム ツール

SDBコード	AG	表示形式	C	表示順序	2.00
データタイプ	PP	データクラス	PUR	検索タイプ	C
記述	Products Purchased		カラム見出し		
ユーザー定義コード見出し/データ検証			金額2		
ユーザー定義コード	Prod Type		数量		
システムコード	ISS	UDCタイプ	開始日付	Number	
備考見出し/データ検証			終了日付	Sale Start	
備考1	Summary Description		ユーザー日付	Sale End	
システムコード		レコードタイプ	Available	Completed	
備考2			ユーザー住所	Bill To	
システムコード		レコードタイプ	ユーザー広票	Pur Order	
備考3			ユーザー特記		

4. <データ・タイプの改訂>で次のフィールドに“C”を入力します。
 - 表示形式
5. 次のフィールドに値を入力します。
 - データ・タイプ
 - 説明
6. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
 - 表示順序
 - データ・タイプ分類
 - 検索タイプ
7. <一般記述の入力>フォームに表示するユーザー定義コードのカラム見出しをカスタマイズするには、[ユーザー定義コード見出し/データ検証]グループ・ボックスで次のフィールドに値を入力します。
 - 表示形式
8. ユーザー定義コード・フィールドにユーザー定義コード・テーブルを関連付けるには、次のフィールドに値を入力します。
 - システム・コード
 - UDC タイプ
9. <一般記述の入力>フォームに表示する[備考]のカラム見出しをカスタマイズするには、[備考見出し/データ検証]グループ・ボックスで次のフィールドに値を入力します。
 - 備考 1
 - 備考 2

10. [備考]フィールドをレコード・タイプに関連付けるには、次の対応するフィールドに値を入力します。
- システム・コード
 - レコード・タイプ
11. 〈一般記述の入力〉フォームに表示するカラム見出しをカスタマイズするには、[カラム見出し]グループ・ボックスで次のフィールドに値を入力します。
- 金額 1
 - 金額 2
 - 数量
 - 開始日付
 - 終了日付
 - ユーザー日付
 - ユーザー日数
 - ユーザー住所
 - ユーザー伝票
12. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述 表示名	用語解説
	<p>ユーザー定義コードに関連した補足データカラムのタイトル。たとえば、従業員の学位(学士、修士、博士など)に関連した補足データタイプには、「学位」という見出しが使用できます。このカラムには、ユーザー定義コードが含まれます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>[ユーザー定義コード]フィールド(エイリアス GDC1)に入力したデータは、〈一般記述の入力〉フォームのグリッドにある[ユーザー定義コード]フィールド(KY)のカラム見出しに使用されます。このフィールドは、汎用フィールド、またはユーザー定義コードの関連フィールドとして設定できます。対応する[システムコード]フィールド(SY)と[レコードタイプ]フィールド(RT)をブランクにすると、〈一般記述の入力〉フォームに表示されるユーザー定義コード(KY)カラムのデータ入力フィールドに、サイズ制限内であれば、どのようなデータでも入力できます。対応する[システムコード]フィールド(SY1)と[レコードタイプ]フィールド(TR1)に値を入力した場合、〈一般記述の入力〉フォームに表示されるユーザー定義コード(KY)カラムのデータ入力フィールドに入力したデータは、システムによって検証されます。このフィールドは、補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p>

--- フォーム固有 ---

データ・タイプに関連するユーザー定義コード用のシステム・コード。この値とタイプ・コード RT との組合せにより、データ・タイプを検証するコード・タイプ・テーブルが決まります。SY または RT がブランクの場合、データ・タイプは検証されません。たとえば、データ・タイプ「技能」として有効なコードは、システム 08/コード・タイプ SK に定義します。定義されていない技能コードをアプリケーションで入力すると、エラーになります。このフィールドは、データ・タイプがコード形式(C)の場合にのみ適用されます。

UDC タイプ

ユーザー定義コードを含むテーブルを示すコード。このテーブルは UDC(ユーザー定義コード)タイプともいいます。

--- フォーム固有 ---

[レコードタイプ]フィールド(エイリアス RT)と[システムコード]フィールド(SY)の値をもとにして、[ユーザー定義コード]フィールド(GDC1)にユーザー定義コードテーブルが関連付けられます。(一般記述の入力)フォームの[ユーザー定義コード]フィールド(KY)に入力したデータは、ユーザー定義コードテーブルを使用して検証されます。たとえば、[システムコード]フィールド(SY)に“08”、[レコードタイプ]フィールド(RT)に“SK”と入力した場合、(一般記述の入力)フォームの[ユーザー定義コード]フィールド(KY)には、人事管理システム(08)の技能に関するユーザー定義コードテーブル(SK)に定義されている値を入力します。

[システムコード]フィールド(SY)と[レコードタイプ]フィールド(RT)をブランクにすると、(一般記述の入力)フォームに表示される[ユーザー定義コード]カラム(KY)のデータ入力フィールドには、どのようなデータでも入力できます。このフィールドは、補足データ・タイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。

備考 1

補足データカラムのタイトル

--- フォーム固有 ---

[備考]フィールド(エイリアス GDC3)に入力したデータは、(一般記述の入力)フォームの詳細域にある[備考]フィールド(RMK)のカラム見出しに使用されません。このフィールドは、汎用フィールド、またはユーザー定義コードテーブルの関連フィールドとして設定できます。対応する[システムコード]フィールド(SY1)と[レコードタイプ]フィールド(RT1)をブランクにすると、(一般記述の入力)フォームに表示される[備考]カラム(RMK)のデータ入力フィールドに、サイズ制限内であれば、どのようなデータでも入力できます。対応する[システムコード]フィールド(SY1)と[レコードタイプ]フィールド(RT1)に値を入力した場合、(一般記述の入力)フォームに表示される[備考]カラム(RMK)のデータ入力フィールドに入力したデータは、システムによって検証されます。このフィールドは、補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。

備考 2**補足データカラムのタイトル**

--- フォーム固有 ---

[備考 2]フィールド(エイリアス GDC4)に入力したデータは、〈一般記述の入力〉フォームの詳細域にある[備考行 2]フィールド(RMK2)のカラム見出しに使用されます。このフィールドは、汎用フィールド、またはユーザー定義コードテーブルの関連フィールドとして設定できます。対応する[システムコード]フィールド(SY2)と[レコードタイプ]フィールド(RT2)をブランクにすると、〈一般記述の入力〉フォームに表示される[備考行 2]カラム(RMK2)のデータ入力フィールドに、サイズ制限内であれば、どのようなデータでも入力できます。対応する[システムコード]フィールド(SY2)と[レコードタイプ]フィールド(RT2)に値を入力した場合、〈一般記述の入力〉フォームに表示される[備考行 2]カラム(RMK2)のデータ入力フィールドに入力したデータは、システムによって検証されます。このフィールドは、補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。

システム・コード

システム・コードを識別するユーザー定義コード(98/SY)。

--- フォーム固有 ---

[システムコード](SY1)と[レコードタイプ]フィールド(RT1)の組合せにより、ユーザー定義コードテーブルが[備考 1]フィールド(GDC3)に関連付けられます。〈一般記述の入力〉フォームの[備考]フィールド(RMK)に入力したデータは、ユーザー定義コードテーブルを使用してチェックされます。[システムコード]フィールド(SY1)に"08"、[レコードタイプ]フィールド(RT1)に"SK"を入力した場合、一般記述の入力フォームの[備考]フィールド(RMK)に入力したデータが人事管理システム(08)、ユーザー定義コードテーブルのスキル(SK)になければいけません。[システムコード](SY1)と[レコードタイプ]フィールド(RT1)をブランクにした場合、〈一般記述の入力〉フォームの[備考]カラム(RMK)データ入力フィールドで任意のデータを入力することができます。このフィールドは、コード形式で補足データタイプを設定するための任意フィールドです。

金額 1

補足データの金額カラムの見出しを指定します。たとえばデータが入札金額を記録する場合は「入札金額」とすることができます。データカラムには、統計情報または測定可能情報が含まれます。

--- フォーム固有 ---

[金額 1]フィールド(エイリアス GDC1)に入力したデータは、〈一般記述の入力〉フォームのグリッドにある[ユーザー定義金額]フィールド(AMTU)のカラム見出しに使用されます。このフィールドは、補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。

金額 2

金額を表す補足データ・カラムのタイトル。たとえば、データ・タイプがストックオプションの場合、「行使する価格」などにできます。このカラムには数値/金額データが入ります。

--- フォーム固有 ---

[金額 2]フィールド(エイリアス GDC7)に入力したデータは、〈一般記述の入力〉フォームのグリッドにある[ユーザー定義金額 2]フィールド(AMTV)のカラム見出しに使用されます。補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。

数量	<p>数量に関連した補足データカラムのタイトル。たとえば、仕損となる数量をトラッキングする場合、この場合のカラム見出しは「仕損済み」となります。</p>
開始日付	<p>--- フォーム固有 --- [数量]フィールド(エイリアス GDC0)に入力したデータは、〈一般記述の入力〉フォームの詳細域にある[発注済数量]フィールド(UORG)のカラム見出しに使用されます。このフィールドは、補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p>
終了日付	<p>日付に関連した補足データカラムのタイトル。たとえば、教育データ・タイプとリンクする日付フィールドのカラム見出しとして「卒業」と付けることができます。</p> <p>--- フォーム固有 --- [有効開始日付]フィールド(エイリアス GDC5)に入力したデータは、〈一般記述の入力〉フォームの詳細域にある[有効日付]フィールド(EFT)のカラム見出しに使用されます。補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p>
ユーザー日付	<p>日付に関連した補足データカラムの表示名。たとえば、レコードタイプが技能免許の日付フィールドには、「失効日付」というカラム表示名を付けることができます。</p> <p>--- フォーム固有 --- [有効期限]フィールド(エイリアス GDC6)に入力したデータは、〈一般記述の入力〉フォームのグリッドにある[終了日付]フィールド(EFTE)のカラム名として使用されます。このフィールドは、補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p>
ユーザー日数	<p>日付に関連した補足データカラムの表示名。たとえば、教育データタイプとリンクする日付フィールドに「卒業」というカラム名を付けることができます。</p> <p>--- フォーム固有 --- ここに入力したテキストは、〈一般記述の入力〉フォームのグリッドにある[ユーザー定義日数]フィールド(DYUD)のカラム名として使用されます。このフィールドは、補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p> <p>[ユーザー定義日数]フィールド(エイリアス DYUD)に対する補足データカラム見出しの表示名。たとえば、スケジューリング・データタイプとリンクする日数フィールドには、「リードタイム」というカラム名を付けることができます。このカラムのデータは数値です。</p> <p>--- フォーム固有 --- ここに入力したテキストは、〈一般記述の入力〉フォームのグリッドにある[ユーザー定義日数]フィールド(DYUD)のカラム名として使用されます。このフィールドは、補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p>

ユーザー住所	住所に関連した補足データカラムの表示名。たとえば、教育データタイプとリンクする住所フィールドには、「大学住所」というようなカラム名を付けることができます。
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>ここに入力したテキストは、〈一般記述の入力〉フォームのグリッドにある[ユーザー住所]フィールド(AN8)のカラム名として使用されます。このフィールドは、補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p>
ユーザー伝票	伝票番号に関連した補足データ・カラムの表示名。たとえば、売掛金管理に使用する場合は「請求書 No.」というカラム名を付けることができます。
	<p>--- フォーム固有 ---</p> <p>[ユーザー伝票]フィールド(エイリアス GDC8)に入力したデータは、〈一般記述の入力〉フォームの詳細域にある[購買／受注オーダー番号]フィールド(RORN)のカラム見出しに使用されます。</p> <p>補足データタイプをコード形式で設定する際に使用する任意フィールドです。</p>

▶ プログラム形式で補足データ・タイプ・コードを設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈CIF 補足データ〉メニュー(G01312)から〈補足データの設定〉を選択します。

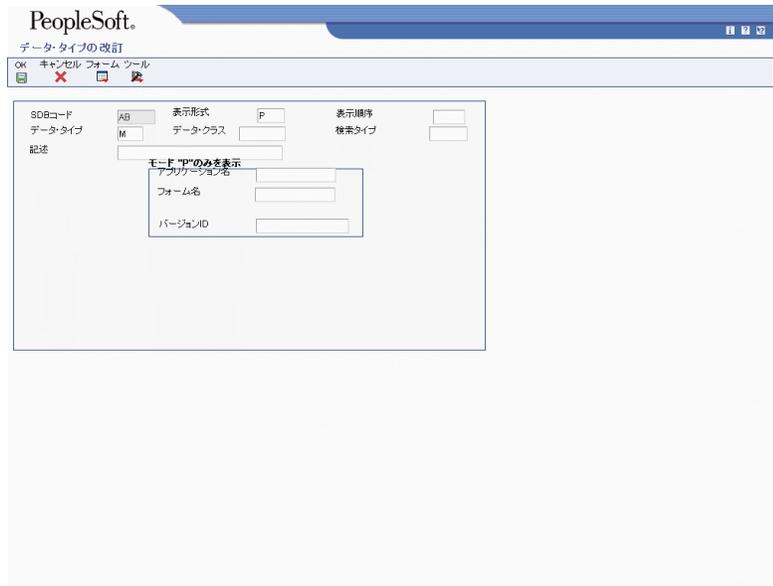
〈ビジネスユニット補足データ〉メニュー(G09312)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈品目補足データ/顧客情報ファイル〉メニュー(G4124)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈補足データ設定〉メニュー(G05BSD4)から〈データベースおよびデータ・タイプ〉を選択します。

〈補足データの設定〉メニュー(G1344)から〈補足データの設定〉を選択します。

1. 〈補足データベース設定の処理〉で、[検索]をクリックして既存のデータベース・コードを表示します。
2. プログラム形式に定義するデータベース・コードを選んで、[ロー]メニューから[データ・タイプの処理]を選択します。
3. 〈データ・タイプの処理〉で、[追加]をクリックします。
4. 〈データ・タイプの改訂〉で、次のフィールドに“P”と入力します。
 - 表示形式
5. 次のフィールドに値を入力します。
 - データ・タイプ



6. 必要に応じて次の任意フィールドに値を入力します。
 - データ・タイプ分類
 - 表示順序
 - 検索タイプ
 - 説明
7. [OK]をクリックして次のステップで説明するフィールドを表示します。
8. このデータ・タイプからアクセスするプログラムを指定するには、[モード "P"のみを表示]グループ・ボックスの次のフィールドに値を入力します。
 - プログラム名
 - フォーム名
 - バージョン
9. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
プログラム名	呼び出すプログラムの ID
フォーム名	フォーム ID。
	--- フォーム固有 --- プログラムの実行時に開くフォームの ID を指定します。フォーム ID を確認するには、フォームを表示して[ヘルプ]メニューから[J.D. Edwards 情報]を選択します。

バージョン ID

アプリケーションやレポートの実行方法の指定に使用するユーザー定義のスペックです。バージョンを使用することで、ユーザー定義の処理オプション値やデータ選択、順序オプションなどをグループ化して保存します。対話型バージョンは(通常、タスクレベルで)アプリケーションと関連付けられています。バッチバージョンはバッチ・プログラムまたはレポートと関連付けられています。バッチ・プログラムを実行する場合はバージョンを選択する必要があります。

▶ 言語の一時変更を設定するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈CIF 補足データ〉メニュー(G01312)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈ビジネスユニット補足データ〉メニュー(G09312)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈品目補足データ/顧客情報ファイル〉メニュー(G4124)から〈補足データの設定〉を選択します。

〈補足データ設定〉メニュー(G05BSD4)から〈補足データベースおよびデータ・タイプの設定〉を選択します。

〈補足データの設定〉メニュー(G1344)から〈補足データの設定〉を選択します。

1. 〈補足データベース設定の処理〉で[フォーム]メニューから[使用言語の処理]を選択します。
2. 〈使用言語の一時変更の処理〉で、[追加]をクリックします。
3. 〈補足データベース使用言語の一時変更〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 補足 DB コード
 - 言語
4. 次の任意フィールドのいずれかに値を入力します。
 - ビジネスユニット・ロー記述
 - 会社ロー記述
 - 英数字キー 1 ロー記述
 - 英数字キー 2 ロー記述
 - 数字キー 1 ロー記述
 - 数字キー 2 ロー記述



5. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
補足 DB コード	関連する補足データ・タイプのグループに関するデータベースを設定するコード。このコードによって、各システムの補助データ・タイプを区別します。たとえば、従業員(E)の補足データベースには学歴や職能などの従業員追加情報をトラッキングするデータ・タイプが含まれます。
言語	フォームおよびレポートで使用する言語を指定するユーザー定義コード(01/LP)。指定する言語は、システム・レベルまたはユーザー使用言語に設定されている必要があります。
ビジネスユニット・ロー記述	補足データベースの照会プログラムと入力プログラムに設定されているビジネスユニットのデフォルト記述を一時変更できます。このフィールドをブランクにすると、データ辞書のデフォルト記述が使用されます。
会社ロー記述	補足データベースの照会プログラムと入力プログラムに設定されている伝票会社のデフォルトの記述を一時変更できます。このフィールドをブランクにすると、データ辞書のデフォルトの記述が使用されます。
英数字キー 1 ロー記述	補足データベースの照会プログラムと入力プログラムのキーフィールドとして入力した、データ辞書エイリアスのデフォルト記述の一時変更を可能にするフィールド。このフィールドをブランクにすると、データ辞書のデフォルト記述が使用されます。
英数字キー 2 ロー記述	補足データベースの照会プログラムと入力プログラムのキーフィールドとして入力した、データ辞書エイリアスのデフォルト記述の一時変更を可能にするフィールド。このフィールドをブランクにすると、データ辞書のデフォルト記述が使用されます。

数字キー 1 ロー記述	補足データベースの照会プログラムと入力プログラムのキーフィールドとして入力した、データ辞書エイリアスのデフォルト記述の一時変更を可能にするフィールド。このフィールドを空白にすると、データ辞書のデフォルト記述が使用されます。
数字キー 2 ロー記述	補足データベース照会／入力プログラムのキーフィールドとして入力した、データ辞書エイリアスのデフォルト記述の一時変更を可能にするフィールド。このフィールドを空白にすると、データ辞書のデフォルト記述が使用されます。

補足データの入力

補足データベースとデータ・タイプを設定した後、実際の補足データを入力できます。補足データベースを使用することにより、標準マスター・テーブルにはない情報もトラッキングできるようになります。補足データベースには、従業員の学歴、経験、堪能な外国語などの従業員情報を、必要に応じて設定できます。たとえば、次のような情報を設定できます。

- 購入した製品
- 年間売上金額
- 契約請求
- 納入方法
- 提案書の要求
- 社内格付
- 緊急時連絡先
- 技能
- 職歴

システムのセットアップ時に、トラッキングの対象とする補足データのタイプを指定します。各データ・タイプについて、トラッキングの情報形式を指定します。有効な情報形式を次に示します。

- テキスト形式。データ・タイプにテキスト形式を指定した補足情報の入力にあたっては、テキストを入力します。テキスト形式は通常、注記、コメント、計画の他、従業員、顧客、仕入先などを対象としたトラッキングする必要がある情報を入力する場合に使用します。たとえば、ある仕入先との取引で、仕入先の製品数量に関する注記にテキスト形式を使用できます。
- コード形式。データ・タイプにコード形式を指定した補足情報の入力にあたっては、特定のフィールドに適切な補足情報を入力します。通常、コード形式は、カテゴリ、金額、日付といった情報のトラッキングに使用します。たとえば、ある仕入先と取引がある場合に、コード形式を使用して製品の種類、原価、販売日付などの情報をトラッキングできます。
- プログラム。データ・タイプにプログラム形式を指定した補足情報の入力にあたっては、ユーザーに便利な方法でプログラムをグループ化できます。たとえば、応募者の補足データを入力する時に、〈雇用要求情報〉プログラム(P08102)へのアクセスを可能にするプログラム形式を設定できます。

補足データは、補足データ・テーブル(F00092)に保存されます。

はじめる前に

- 住所録システムのデータ・タイプを〈CIF 補足データ〉メニュー(G01312)に表示するには、〈補足データ〉プログラム(P00092)の[補足データベース・コード]の処理オプションに“AB”と入力します。
- 〈補足データ〉プログラムの処理オプションで有効日付を使用するかどうかを指定します。

▶ テキスト形式で補足データを入力するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈CIF 補足データ〉メニュー(G01312)で〈補足データ〉を選択します。

〈品目補足データ/顧客情報ファイル〉メニュー(G4124)から〈品目別補足データ〉または〈品目/事業所別補足データ〉を選択します。

〈従業員補足データ〉メニュー(G05BSDE1)から〈従業員補足データ入力〉を選択します。

〈ビジネスユニット補足データ〉メニュー(G09312)から〈補足データ〉を選択します。

〈補足データ〉メニュー(G1318)から〈データ入力〉を選択します。

1. 〈補足データの処理〉で次のフィールドを検討し、適切なコードを使用しているかどうかを確認します。

- 補足データベース・コード

〈補足データ〉プログラム(P00092)の処理オプションで指定したデータベース・コードを基に、このフィールドが更新され、キー・フィールドが表示されます。

補足データで使用可能なデータ・タイプが表示されます。[データ・モード]カラムの N は、データ・タイプがテキスト形式であることを意味します。テキストのある各ローの左にクリップ・アイコンが表示されます。

2. 使用する補足データベース・コードに応じて次のフィールドの 1 つに値を入力して、[検索]をクリックします。

- 住所 No.
- 品目 No.
- 事業所
- ビジネスユニット
- 固定資産の識別

3. [データ・モード]カラムが N のローを選んで、[選択]をクリックします。

4. [メディア・オブジェクト・ビューア]で、テキストを入力して[保存]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
補足データベース・コード	関連する補足データ・タイプのグループに関するデータベースを設定するコード。このコードによって、各システムの補助データ・タイプを区別します。たとえば、従業員(E)の補足データベースには学歴や職能などの従業員追加情報をトラッキングするデータ・タイプが含まれます。

品目 No.	システムが品目に割り当てる番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第 3 品目番号などのフォーマットがあります。
事業所	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。
ビジネスユニット	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
住所 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
ユーザー定義コード	ユーザー定義コードテーブルの有効なコードのリスト
有効開始日付	通常、有効日付が使用されます。リース有効日付、価格や原価の有効日付、通貨有効日付、税率有効日付などとして使用されます。
ユーザー定義金額	データタイプに定義されたコードに関連する、統計あるいは計測可能情報を表す数量。たとえば、データタイプが入札提出コードと関連する場合、このフィールドは入札金額に使用できます。データタイプが人事福利厚生管理に関連する場合は選択した保険プランへの加入費用、賞与に関連する場合は賞与金額に使用できます。
備考	備考、記述、名前、住所などに使用する汎用フィールド --- フォーム固有 --- [備考]フィールド(エイリアス RMK)に入力するデータは、〈データタイプの改訂〉フォームの [備考 1]フィールド(GDC2)、および対応する[システムコード]フィールド(SY1)と[レコードタイプ]フィールド(RT1)の設定によって異なります。[備考 1]フィールド(GDC3)をあるレコードと関連付けた場合、[備考]フィールド(RMK)には、関連付けられたレコードにおいて有効な値を入力します。[備考 1]フィールド(GDC3)をレコードと関連付けていない場合は、サイズ制限内であればどのようなデータでも入力できます。
備考 2	備考、記述、名前、または住所を入力する汎用フィールド --- フォーム固有 --- [備考行 2]フィールド(エイリアス RMK2)に入力するデータは、〈データタイプの改訂〉フォームの [備考 2]フィールド(GDC4)、および対応する[システムコード]フィールド(SY2)と[レコードタイプ]フィールド(RT2)の設定によって異なります。[備考 2]フィールド(GDC4)をあるレコードと関連付けた場合、[備考行 2]フィールド(RMK2)には、関連付けられたレコードにおいて有効な値を入力します。[備考 1]フィールド(GDC3)をレコードと関連付けていない場合は、サイズ制限内であればどのようなデータでも入力できます。

ユーザー定義金額 2	2 番目の金額は、この補足データタイプに定義されたコードに関連付けられません。 たとえば、ストックオプションプランの場合、ユーザー定義済みの金額で株式数を、金額番号 2 で株価をトラッキングできます。
追加日付	補足データ情報とともに使用する日付。たとえば、このフィールドに検証日付を入力して、情報が前回検討および更新された日付を表示することができます。
終了日付	項目、取引、テーブルが非活動となる日付、または取引を表示する最終日付。このフィールドはシステム全体で使用されます。賃貸有効日付、価格または原価有効日付、通貨有効日付、税率有効日付などとして使用できます。
ユーザー定義日数	この補足データ・タイプに定義されたコードに関連する日数。たとえば、設計変更オーダーのリードタイム日数などの関連する日数を設定します。

▶ コード形式で補足データを入力するには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈CIF 補足データ〉メニュー(G01312)で〈補足データ〉を選択します。

〈品目補足データ/顧客情報ファイル〉メニュー(G4124)から〈品目別補足データ〉または〈品目/事業所別補足データ〉を選択します。

〈従業員補足データ〉メニュー(G05BSDE1)から〈従業員補足データ入力〉を選択します。

〈ビジネスユニット補足データ〉メニュー(G09312)から〈補足データ〉を選択します。

〈補足データ〉メニュー(G1318)から〈データ入力〉を選択します。

1. 〈補足データの処理〉で次のフィールドを検討し、適切なコードを使用しているかどうかを確認します。

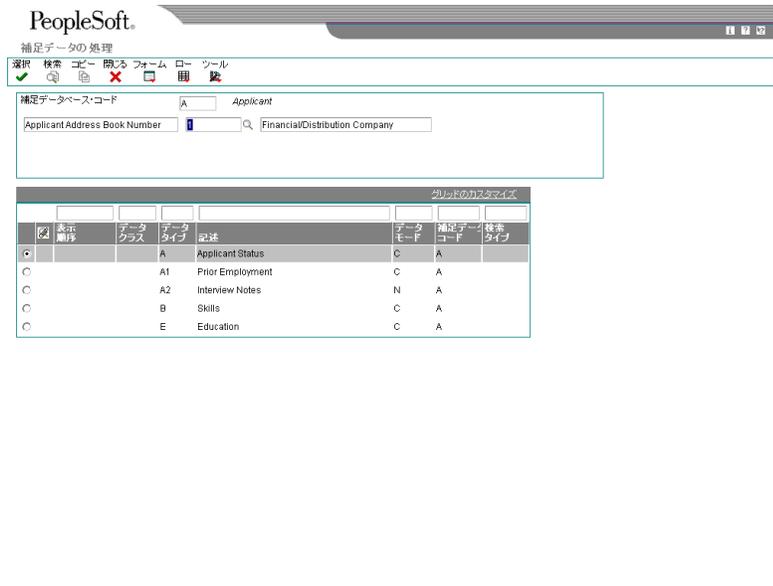
- 補足データベース・コード

〈補足データ〉プログラム(P00092)の処理オプションで指定したデータベース・コードを基に、このフィールドが更新され、キー・フィールドが表示されます。

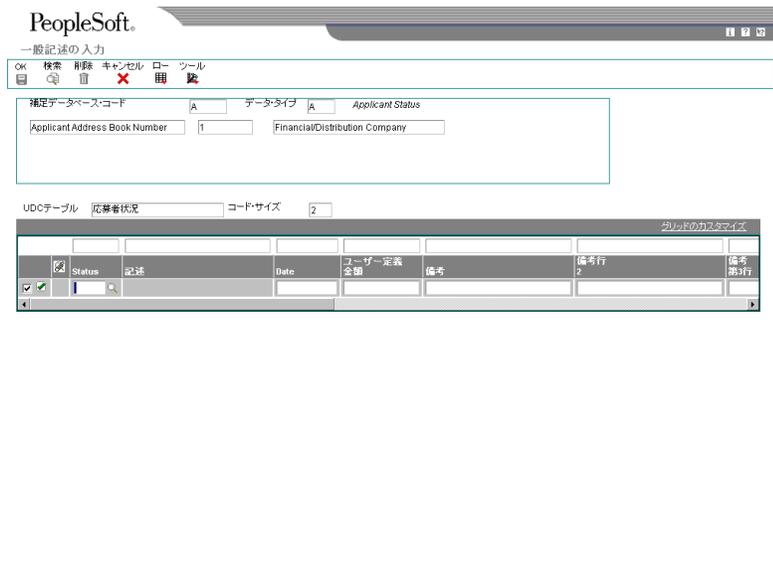
補足データで使用可能なデータ・タイプが表示されます。[データ・モード]フィールドの C の場合、データ・タイプがコード形式であることを意味します。データ・タイプの行見出しにチェック・マークが表示されている場合は、そのデータ・タイプにコード形式が存在していることを示しています。

2. 使用する補足データベース・コードに応じて次のフィールドの 1 つに値を入力して、[検索]をクリックします。

- 住所 No.
- 品目 No.
- 事業所
- ビジネスユニット
- 固定資産の識別



3. [データ・モード]カラムが C のローを選んで、[選択]をクリックします。



グリッドのカラム見出しとフィールドは、それぞれのデータ・タイプの設定により異なります。

4. データ・タイプがユーザー定義コード・テーブルと関連付けられている場合は、〈一般記述の入力〉で次のフィールドに値を入力します。
 - ユーザー定義コード
 - 有効開始日付

5. データ・タイプに該当するフィールドに値を入力します。入力対象となるフィールドの例を次に示します。

- ユーザー定義金額
- 備考
- 備考 2
- ユーザー定義金額 2
- 追加日付
- 終了日付
- ユーザー定義日数

[終了日付]フィールドをブランクにするとシステムが終了日付を割り当てるように<補足データ>プログラムで指定した場合は、このフィールドをブランクにすると、日付別住所テーブル(F0116)の終了有効日が使用されます。

6. [OK]をクリックします。

注:

<データ・タイプの改訂>フォームの[ユーザー定義コード見出し/データ検証]と[備考見出し/データ検証]で各フィールドに関連付けた情報を追加または変更する場合は、<補足データの設定>プログラム(P00091)を使用することをお勧めします。<補足データ>プログラム(P00092)を使って情報を変更すると、別のユーザー定義コード・テーブルを使ってデータが検証されるため、レコードを次回表示する際にエラーが発生します。

▶ プログラム形式で補足データにアクセスするには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

<CIF 補足データ>メニュー(G01312)で<補足データ>を選択します。

<品目補足データ/顧客情報ファイル>メニュー(G4124)から<品目別補足データ>または<品目/事業所別補足データ>を選択します。

<従業員補足データ>メニュー(G05BSDE1)から<従業員補足データ入力>を選択します。

<ビジネスユニット補足データ>メニュー(G09312)から<補足データ>を選択します。

<補足データ>メニュー(G1318)から<データ入力>を選択します。

1. <補足データの処理>で次のフィールドを検討し、適切なコードを使用しているかどうかを確認します。

- 補足データベース・コード

<補足データ>プログラム(P00092)の処理オプションで指定したデータベース・コードを基に、このフィールドに値が自動入力され、キー・フィールドが表示されます。

補足データで使用可能なデータ・タイプが表示されます。[データ・モード]カラムの P は、データ・タイプがプログラム形式であることを意味します。

2. [データ・モード]フィールドが P のレコードを選んで、[選択]をクリックします。

データ・タイプのプログラム形式を設定した時に指定したプログラムのフォームが表示されます。

処理オプション: 補足データ(P00092)

処理

1. 中枢情報インデックスを作成するときの補足データベース・コードを選択してください。
 2. フィールドが空白の場合に有効期間終了日が割り当てられないようにするには、“1”を入力してください。
-

補足データ・タイプのコピー

補足データを別のレコードにコピーすることにより、データ入力時間を短縮して入力ミスを減らすことができます。たとえば、既存の住所番号に類似した住所番号の補足データを入力する場合、1つのレコードから別のレコードに情報をコピーできます。コピー後に、必要に応じてデータを変更できます。

補足データをコピーする際には、次のガイドラインに従います。

- コード形式の補足データに限りコピーが可能です。テキスト形式の情報はコピーできません。
- コード形式の情報は異なるデータ・タイプ間でコピーが可能です。たとえば、コード形式のデータ・タイプが技能と免許で異なる場合でも、ある従業員の技能関連の情報をコピーして別の従業員の免許データ・タイプに使用することができます。
- 補足データのコピーは、同じ補足データベース・コードの中だけに限られます。たとえば、AB と SU の 2 つの住所録補足データベース・コードがある場合を考えてみます。データベース・コード AB 内に限り、異なるデータ・タイプ間で情報のコピーが可能です。データベース AB の情報をデータベース SU にコピーする場合は、データベースの情報を個別に入力する必要があります。

▶ 補足データ・タイプをコピーするには

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈CIF 補足データ〉メニュー(G01312)で〈補足データ〉を選択します。

〈品目補足データ/顧客情報ファイル〉メニュー(G4124)から〈品目別補足データ〉または〈品目/事業所別補足データ〉を選択します。

〈従業員補足データ〉メニュー(G05BSDE1)から〈従業員補足データ入力〉を選択します。

〈ビジネスユニット補足データ〉メニュー(G09312)から〈補足データ〉を選択します。

1. 〈補足データの処理〉で次のフィールドを検討し、適切なコードを使用しているかどうかを確認します。
 - 補足データベース・コード〈補足データ〉プログラム(P00092)の処理オプションで指定したデータベース・コードを基に、このフィールドが更新され、キー・フィールドが表示されます。
2. 次の中から該当するフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 品目 No.
 - 事業所
 - ビジネスユニット
 - 住所 No.
3. コピーする補足データ・タイプを含むレコードをグリッドで選んで、[コピー]をクリックします。
4. 〈一般記述の入力〉で、次の中から該当するフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 品目 No.
 - 事業所
 - ビジネスユニット
 - 住所 No.

補足データの検討

さまざまな形式で補足データを検討することができます。たとえば、補足データをデータ・タイプ別に表示し、従業員のトレーニング情報など、特定のタイプの補足データを複数のビジネスユニットや項目を対象に検討することができます。また、補足データを項目別に表示して、特定の従業員や作業オーダー、ビジネスユニットの情報など、項目のマスター情報とそれに関連する補足情報を検討することもできます。

〈補足データ・プロファイルの処理〉フォーム(Key1)と〈補足データ・プロファイルの処理〉フォーム(MCU/Key1)に2つのタブが表示されます。それぞれのタブは、フォームのグリッドにあるカラムのソート順序と表示順序を示します。

データ・タイプ: まずデータ・タイプ別、次に略式品目番号順にソートする

項目番号 まず略式品目番号順、次にデータ・タイプ別にソートする

グリッド行のカラム表示順序は変更できます。また、変更したカラム表示順序は新しいフォーマットとして保存できます。グリッドに新しくフォーマットを追加すると、そのフォーマットに設定した名称のタブが追加されます。

▶ **補足データを検討するには**

次のいずれかのナビゲーションを使用します。

〈品目補足データ/顧客情報ファイル〉メニュー(G4124)から〈品目別プロフィール照会〉または〈品目/事業所別プロフィール照会〉を選択します。

〈作業オーダー補足データ〉メニュー(G4813)から〈オーダー別照会〉を選択します。

〈ビジネスユニット補足データ〉メニュー(G09312)から〈ビジネスユニット別照会〉を選択します。

1. 〈補足データ・プロフィールの処理〉、〈補足データ・プロフィールの処理〉(Key 1)、〈補足データ・プロフィールの処理〉で、次のフィールドの 1 つに値を入力します。
 - 品目 No.
 - データ・タイプ
2. さらに検索対象を絞るには、QBE ローのフィールドに値を入力してから[検索]をクリックします。

住所の親/子関係

仕入先、顧客、潜在顧客の住所録レコード間の親/子関係は、家族関係に似ています。1つの住所録レコードが親になり、1つまたは複数の住所録レコードがその子になります。親/子関係を作成することで、業務の効率性を高めることができます。たとえば、親/子関係を設定すると、現地オフィスや子会社(子)に対する請求書を本社(親)に送ることができます。

住所録システムに住所録レコードを入力した後、その住所に親/子関係を設定することができます。親/子関係は次の構造に合わせて設定できます。

- 売掛管理構造
- 買掛管理構造
- 組織報告構造

親/子関係の作成

住所録システムに住所録レコードを入力した後、次の親/子関係を設定することができます。

- 売掛管理構造
- 買掛管理構造
- 組織報告構造

▶ **親/子関係を作成するには**

〈住所録組織構造〉メニュー(G01311)から〈構造の改訂〉を選択します。

1. 〈親/子構造の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈親住所/子住所の改訂〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 親住所 No.
 - 構造タイプ

売掛管理システムの親/子関係を作成する場合は、[構造タイプ]フィールドを空白にします。

PeopleSoft

親住所/子住所の改訂

OK 削除 キャンセル フォーム ツール

親住所No. 3001 Global Enterprises 初回答
 構造タイプ Accounts Receivable 高レベル時変更
 関連データ項目 権限必須

グリッドのカスタマイズ

<input checked="" type="checkbox"/>	グループ	住所 No.	名称	規定値	エスカレーション時間(hr)	エスカレーション時間(min)	備考	有効開始日付
<input checked="" type="checkbox"/>		3002	Atlantic Corporation					
<input type="checkbox"/>			3003 CSC Corporation					
<input type="checkbox"/>			3004 Pacific Company, The					
<input type="checkbox"/>	1.00							

3. <親住所/子住所の改訂>で、関連する子レコードごとにグリッドの次のフィールドに値を入力します。
 - 住所 No.
4. 関連する子レコードごとに次の任意フィールドに値を入力します。
 - グループ
 - 有効開始日付

<構造の改訂>プログラム(P0150)で階層記述の処理オプションを有効にした場合は、次のフィールドに値を入力します。
 - 有効終了日付
5. [OK]をクリックします。

注:

[エスカレーション時間(hr)]と[エスカレーション時間分(min)]フィールドは、住所録システムでは使用しません。

フィールド記述

記述	用語解説
親住所 No.	親会社の住所番号。特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。ここに入力した値は、住所録組織構造マスター(F0150)で構造タイプがブランクのレコードを更新します。住所録マスター(F0101)にある番号を使用してください。親番号のある住所録レコードの例には次のようなものがあります。 <ul style="list-style-type: none">○ 親会社のある子会社○ 本社のある支店○ 請負業者が働く作業現場
	--- フォーム固有 --- 階層またはレポート関係の第一レベルの住所録番号。ある階層内での親が別の階層では子になる場合もあります。階層はビジネスユニット、従業員、または職種で構成されます。たとえば、従業員と監督者間のレポート関係を示す階層などがあります。
構造タイプ	電子メールなどのように、住所録システムに独自の階層がある組織構造のタイプを識別するユーザー定義コード(01/TS)。売掛管理システムに親子関係を作成する場合は、構造タイプをブランクにしてください。
	--- フォーム固有 --- WFS(ワークフロー)、ORG(グループ)、EML(電子メール)など配布リストのタイプを識別します。
住所 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
グループ	フォーム上のレコードグループを再順序付けするための数値
有効開始日付	住所番号が構造で表示される日付。[有効日付]フィールドに日付を入力すると、その日付以前は住所番号が構造に表示されません。ブランクにした場合、終了日付までの間、構造に住所番号が表示されます。
有効終了日付	この日付以降は、住所録レコードが組織構造に表示されなくなります。

処理オプション: 構造の改訂(P0150)

処理タブ

1. ワークフロー情報

blank = 表示しない

1 = 表示する

ワークフロー処理情報を表示するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank

表示しない

1

表示する

2. 階層記述

blank = 使用不可

1 = 使用可能(重複する複数の親は無効)

ルート親住所の有効日付に基づいて階層構造を定義することを許可するかどうかを指定します。ルート親住所とは親/子構造の最上位の住所レコードで、親をもちません。有効な値は次のとおりです。

blank

階層構造の定義を許可しない

1

階層構造の定義を許可する

デフォルト・タブ

1. 日付のデフォルト

blank = デフォルトなし

1 = 有効日付フィールドにデフォルト日付を表示する

有効開始日付と有効終了日付がblankの場合、〈親住所/子住所の改訂〉フォーム(W0150A)に

日付をデフォルト入力するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

デフォルト入力しない

1

デフォルト入力する

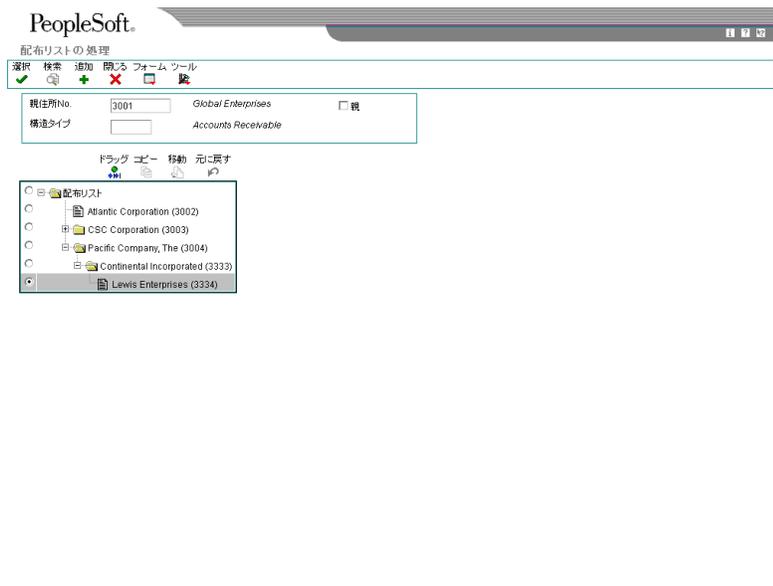
2. デフォルト組織構造タイプ

ブランク = デフォルトなし

〈住所録組織構造の表示〉プログラム(P0150)プログラムを最初に行ったときに、[組織構造]フィールドに入力する値を指定します。

▶ 親/子関係を検討するには

〈住所録組織構造〉メニュー(G01311)から〈構造の照会〉を選択します。



1. 〈配布先リストの処理〉で、次のフィールドに値を入力して、[検索]をクリックします。

- 親住所 No.
- 構造タイプ

デフォルトの組織構造タイプは、処理オプションを使って指定します。構造タイプを変更することも可能です。

2. すべての子関係を表示するには、詳細域で左に+記号が表示されているフォルダをクリックします。
3. 子の親を表示するには、次のステップを実行します。
4. [親]オプションをクリックします。
5. 次のフィールドに子住所番号を入力し、[検索]をクリックします。
 - 親住所 No.

処理オプション: 構造の照会(P02150)

デフォルト

1. デフォルトの構造タイプを入力してください。
2. 組織構造改訂のバージョンを入力してください。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

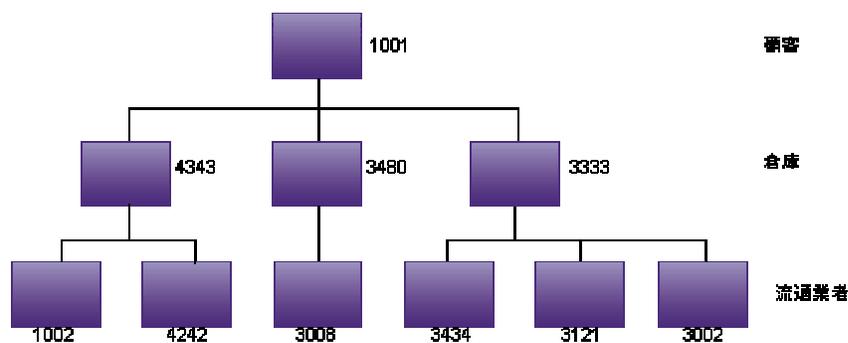
親/子の組織構造の階層記述

J.D. Edwards では、親/子関係の構造を管理する方法として階層記述を提供しています。階層記述を設定する際に、次の情報を指定します。

- 日付ごとに子に対して親を 1 つ
- 親と子の関係の有効日付の開始および終了日
- 組織構造の階層名。たとえば、CEO はレベル 1、副社長はレベル 2、マネージャーはレベル 3 などと指定します。階層では、有効日付の開始および終了日も指定できます。

次の図の組織構造は階層を使って設定されています。親(1001)には 3 つの子(4343, 3480, 3333)が設定されています。それぞれの子は、他の子の親になっています。親 4343 には子が 2 つ(1002、4242)、親 3480 には子が 1 つ(3008)、親 3333 には子が 3 つ(3434、3121、3002)設定されています。

階層を使った住所の親子関係



階層を使って組織構造を作成するには、〈構造の改訂〉プログラム(P0150)の処理オプションをオンにする必要があります。処理オプションがオンになっている場合にのみ階層は有効になります。階層では、それぞれの子に親は1つしか設定できません。

注意:

階層の処理オプションをオンにして階層記述を使って親/子の組織構造を作成した後で、処理オプションをオフにする場合、潜在的なリスクを伴うことに留意してください。その場合、エラーで1つの子に複数の親を設定されたり、親/子関係または階層構造に対して重複する有効日付が入力されることがあります。

組織構造タイプは構造タイプ・テーブル(01/TS)で定義します。

はじめる前に

- ユーザー定義コード・テーブル(01/TS)で組織構造タイプを定義します。

▶ 階層を使って組織構造を作成するには

〈住所録組織構造〉メニュー(G01311)から〈構造の改訂〉を選択します。

1. 〈親/子構造の処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 見出し域にある次のフィールドに値を入力します。
 - 親住所 No.
 - 構造タイプ
3. グリッドの次のフィールドに値を入力します。
 - 住所 No.
 - 有効開始日付
 - 有効終了日付
4. [親住所 No.]で指定された親の子それぞれに対して、ステップ3を繰返し実行します。
5. [住所 No.]フィールドで指定した子を他の子の親として使い、次に別の子を他の子の親に使用して組織構造の作成を続けます。
6. [OK]をクリックします。

▶ 特定の日付の組織構造においてルートとなる親を識別するには

〈住所録組織構造〉メニュー(G01311)から〈構造の改訂〉を選択します。

1. 〈親/子構造の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 構造タイプ
2. 次のQBEフィールドに値を入力して、[検索]をクリックします。
 - 住所 No.
3. [ロー]メニューから[階層記述]を選択します。

4. 〈有効日付親住所レコードの検索〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 有効開始日付
5. 次のオプションをクリックします。
 - 親住所 No.の検索

[親住所 No.]フィールドに親住所番号が表示されます。

▶ **組織構造の階層記述を入力するには**

〈住所録組織構造〉メニュー(G01311)から〈構造の改訂〉を選択します。

1. 〈親/子構造の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 構造タイプ
2. グリッドでレコードを選びます。
3. [ロー]メニューから[階層記述]を選択します。
4. 〈有効日付親住所レコードの検索〉で、次のフィールドの日付を確認し、必要に応じて変更します。
 - 有効開始日付

このフィールドの値は、〈構造の改訂〉プログラム(P0150)で設定します。
5. 次のオプションをクリックします。
 - 親住所 No.の検索
6. [OK]をクリックします。
7. 〈階層記述の改訂〉で、組織構造内の各階層に対して次のフィールドに値を入力し、[OK]をクリックします。
 - 階層 No.
 - 記述
 - 有効開始日付
 - 有効終了日付

これらフィールドは、すべての親ではなく、選択したルートの子のみを対象に記入します。

参照

- 価格管理システムにおける階層の使用方法については『価格管理』ガイドの「購買グループ」

親/子関係(上級)

〈親/子関係(上級)〉プログラム(P01501)を使用して、住所番号と人名録の項目の間の組織構造を作成できます。この組織構造では住所番号を親として指定し、人名録の項目に関連する1つまたは複数の住所番号を子として指定します。たとえば、あるプロジェクトを設定する高度な親/子関係の組織構造を作成できます。特定の住所番号を親に設定し、個人(人名録の項目)をプロジェクトメンバーとして識別できます。人名録レコードは、親の住所番号と別の住所番号に関連付けることができます。

親/子関係(上級)は、親/子関係(上級)テーブル(F01501)に保存されます。

はじめる前に

- UDC テーブル 01/TS で親/子関係(上級)の構造タイプを設定してください。

▶ 親/子関係(上級)を作成するには

〈日次処理〉メニュー(G01)から〈住所録の改訂〉を選択します。

1. 〈住所の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 名称
 - 検索タイプ
2. レコードを選び、[ロー]メニューから[人名録]を選択します。
3. 〈人名録〉で、[フォーム]メニューから[連絡先]を選択します。
4. 〈連絡先情報の処理〉で、[フォーム]メニューから[親住所]を選択します。
5. 〈親/子住所の処理(上級)〉で、[追加]をクリックします。

<input type="checkbox"/>	住所 No.	人名録行	郵便宛名	関連タイプ	備考	開始日付	終了日付
<input checked="" type="checkbox"/>	1001	0					
<input type="checkbox"/>	1001	1		E			
<input type="checkbox"/>	1001	2		F			
<input type="checkbox"/>	3001	1		D			
<input type="checkbox"/>	3001	2		E			

6. 〈親/子住所の改訂(上級)〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 構造タイプ
 - 親住所 No.
7. グリッドの次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 住所 No.
 - 人名録行
 - 関係タイプ
 - 備考
 - 開始日付
 - 有効終了日付

フィールド記述

記述	用語解説
親住所 No.	<p>住所録レコードを識別するユーザー定義の名前または番号。詳細住所や税IDなど、住所番号(AN8)以外の値を入力した場合、住所録固定情報で定義した記号を前につける必要があります。詳細住所番号でレコードを検索すると、住所番号フィールドに住所番号が表示されます。</p> <p>たとえば、住所番号 1001(J.D. Edwards)の詳細住所番号を JDEDWARDS と設定して、住所録固定情報で詳細住所番号を区別する記号をアスタリスクと定義した場合、このフィールドに“*JDEDWARDS”と入力して検索すると住所番号 1001 が表示されます。</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>詳細な親/子組織構造を作成する際、親会社の住所番号を入力してください。</p>
住所 No.	<p>住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。</p>
人名録行	<p>このフィールドは行 ID 番号を識別するために使用されます。</p>
関係タイプ	<p>連絡先と関連氏名テーブル(F0112)の氏名との関係を示すユーザー定義コード(01/RT)</p> <p>--- フォーム固有 ---</p> <p>詳細な親子関係を作成する際に、このフィールドを使用して人名録の該当する行に関連のある人物の役職や関係を指定できます。役職および関係をユーザー定義コード(01/RT)で定義する必要があります。</p>

住所録レポートと宛名ラベル

各種のレポートを出力することにより、住所録情報に関する妥当性の検証や、変更状況の追跡を行うことができます。さらに、宛先行、住所番号、電話番号など各種の郵送情報を含むラベルを印刷できます。

はじめる前に

- 有効日付を使用する場合は、〈有効住所更新〉プログラム(R01840)を実行して、住所録レポートに必ず最新の住所が印刷されるようにしてください。『住所録』ガイドの「有効日付による住所録レコードの更新」を参照してください。

住所録レポートの印刷

住所および人名録レポートでは、次のテーブルの情報を使用します。

- 住所録マスター(F0101)
- 人名録(F0111)
- 日付別住所(F0116)

レポートによっては、住所に割り当てた連絡先の数により、1つの住所が何度も印刷されることがあります。

住所/人名録レポートで使用する処理オプションはありません。その代わりに、各レポートはバージョンで独自のメニューがあります。

次の表に、住所録レポートの一覧を示します。

レポート	説明
住所別レポート (R014021)	このレポートでは住所の一覧がリストされ、各住所番号ごとに詳細情報が1行印刷されます。
〈人名録別〉レポート (R01402W)	このレポートでは人名録の住所の一覧がリストされ、住所番号に関連付けられた各人名録レコードごとに詳細情報が1行印刷されます。
コード付き詳細住所 (R01403)	このレポートでは全住所番号に対する郵送先住所とカテゴリ・コードを示す一覧が印刷されます。
コード付き詳細住所(人名録)(R01403W)	このレポートでは全住所番号に対する人名録の名前および郵送先住所、カテゴリ・コードを示す一覧が印刷されます。

重複チェックレポートの印刷

〈定期処理〉メニュー(G0121)で〈重複レコードのチェック〉を選択します。

住所録システムに重複するレコードがないか確認するには、〈重複チェック〉レポート(R014052)を印刷します。J.D.Edwards システムの導入後は、システムの初期設定の段階でこのレポートを印刷して、重複レコードが作成されていないかどうかを検証します。このレポートを検討して、重複レコードがあれば削除してください。取引明細のあるレコードは削除できません。

名称のみ、あるいは、同一の名称に対して重複する郵便番号および電話番号を対象に重複情報を印刷するように処理オプションを設定できます。

このレポートは次のテーブルの情報を使用します。

- 住所録マスター(F0101)
- 日付別住所(F0116)

処理オプション: 重複チェック(R014052)

名称

1. 重複名称を検索する際に使用する入力文字数を、25文字以内で指定してください。

重複名称

重複

2. 同じ名称で郵便番号や電話番号が重複していないかどうかをチェックするには、“1”を入力してください。ブランクの場合、そのフィールドは重複チェックの基準としては使用されません。

郵便番号または電話番号

人名録

3. 人名録連絡先タイトルフィールドを印刷するには、“1”を入力してください。ブランクの場合は印刷されません。

人名録情報

重複チェックレポートのデータ順序設定

名称によるデータの順序設定では、大文字と小文字が区別されます。重複がないかどうか確認するには、次のいずれかの順序で比較することをお勧めします。

順序	カラム記述
名称のみの場合	圧縮記述
名称と郵便番号の場合	圧縮記述 Postal Code (郵便番号)

〈重複チェック〉レポート(R014052)のデータの順序設定は、J.D. Edwards の Windows 環境でのみ提供されています。

宛名ラベルの印刷

住所録レコードとして設定されている個人や会社宛に郵便物を郵送する場合、住所録システムを使用して宛名ラベルを印刷することができます。Cheshire (宛名ラベル) または標準フォーマットを使用して、宛名ラベルを印刷できます。いずれのラベルにも、名称と住所の情報が記載されます。宛名ラベルには次の追加情報を印刷できます。

- 住所番号
- 電話番号
- 住所と電話番号

ラベルは、国別に指定した形式で印刷されます。〈国別固定情報〉テーブル(F0070)で設定されていない国の場合、ラベルはデフォルトとして設定されている国の形式で印刷されます。

Cheshire 宛名ラベル

〈定期処理〉メニュー(G0121)から〈宛名ラベルの印刷〉を選択します。

ラベルを Cheshire (宛名ラベル) フォーマットで印刷します。Cheshire マシンを使用している場合、または宛名ラベルの印刷をアウトソーシングする場合は、〈宛名ラベルの印刷〉プログラム(R01401)を使用してください。

これらのラベルは接着剤の付いていない白の用紙に印刷することもできます。〈宛名ラベルの印刷〉プログラムでは、横 3.2 インチ、縦 0.9 インチのラベルが横 4 列に印刷されます。1 枚の Cheshire ラベルには、最大 9 行まで印刷できます。

Cheshire ラベルの用紙のサイズは、横 147/8 インチ、縦 12 インチです。Cheshire マシンを使ってラベル用紙を個々のラベルにカットできます。カットしたラベルは郵便物に貼り付けます。

標準宛名ラベル

〈定期処理〉メニュー(G0121)から〈標準宛名ラベル〉を選択します。

標準宛名ラベルは、標準ラベル・フォーマットで印刷されます。標準ラベル用紙でユーザー独自の宛名を記入する場合も、〈標準宛名ラベル〉プログラム(R01401A)で宛名ラベルを印刷できます。レーザープリンタ、またはドット・マトリックスプリンタを次の設定で使用できます。

- レーザープリンタの場合は、横 2 ラベル、Avery Laser Printer Labels #5163 (2 インチ × 4 インチ)
- ドット・マトリックスプリンタの場合は、横 3 ラベル、データ文書番号#35023-3 (3 1/2 インチ × 1 7/16 インチ)

ドット・マトリックスプリンタの場合は、10 文字/インチ、または 15 文字/インチの印字密度を選択できます。10 文字/インチを選択すると、32 文字のラベルが印刷されます。15 文字/インチを選択すると、40 文字のラベルが印刷されます。

ドット・マトリックスプリンタによっては、1 インチあたり 15 文字以上は印刷できない場合があるため、ラベルのセット全体を印刷する前に、まず一定数のラベル(たとえば 4 ラベル程度)を使用してプリンタをテストすることをお勧めします。ドット・マトリックスプリンタで 15 文字/インチ以上を印刷できない場合は、1 ページにつき 1 セット(横 3 ラベル)の印刷後、改ページされます。印刷のテスト時に、1 セットのラベル(横方向に 3 ラベル)ごとに改ページされない場合は、このプリンタは 1 インチあたり 15 文字を印刷できることとなります。

はじめる前に

- 有効日付別の住所を使用する場合は、〈有効住所更新〉プログラム(R01840)を実行して宛名ラベルに最新の住所が印刷されることを確認してください。『住所録』ガイドの「有効日付による住所録レコードの更新」を参照してください。
- 〈コード付き詳細住所〉レポート (R01403)を印刷して、住所録の情報が正しいことを確認してください。
- プリンタにラベル用紙をセットしてください。

処理オプション: 宛名ラベルの印刷 (R01401)

ラベルタイプ

1. CHESHIRE ラベルを印刷するには“1”を入力し、DUN/BRADSTREET ラベルを印刷するには“2”を入力してください(将来使用)。

ラベルタイプ

2. CHESHIRE ラベルの形式タイプを指定してください。標準形式で印刷するには“1”、住所録番号を含めるには“2”、電話番号を含めるには“3”、住所録番号と電話番号の両方を含める場合は“5”、メモ(将来使用)を含める場合は“5”を入力してください。

CHESHIRE ラベルタイプ

3. DUN/BRADSTREET ラベルの形式タイプを指定してください。標準形式で印刷するには“1”、住所録番号を含めるには“2”、電話番号を含めるには“3”、住所録番号と電話番号の両方を含める場合は“5”、メモを含める場合は“5”を入力してください。

DUN/BRADSTREET ラベルタイプ(将来使用)

処理オプション: 標準住所録ラベル (R01401A)

形式

1. 印刷形式を選択してください。
 1. 宛名ラベル
 2. 住所番号と電話番号あり
 3. 住所番号あり
 4. 電話番号あり
-

住所録の更新と除去

住所録の情報は、定期的に更新または除去する必要があります。住所録レコードを個別に改訂するには、〈住所録の改訂〉プログラム(P01402)を使用します。複数の住所録レコードを同時に更新する場合は、〈有効住所の更新〉プログラム(R01840)または〈カテゴリ・コード一括更新〉プログラム(R01490)を使用します。

住所録レコードを除去するには、〈住所録レコードの除去〉プログラム(R01800P)を使用します。

有効日付による住所録レコードの更新

〈住所録上級/技術的操作〉メニュー(F0131)から〈有効住所更新〉を選択します。

〈住所録固定情報〉プログラム(P0000)の[有効日付別住所の設定]を有効にした場合は、定期的に〈有効住所の更新〉プログラム(R01840)を実行して、通信文、請求書、支払、その他の郵便物の郵送先として、最新の住所が使用されるようにする必要があります。〈有効住所の更新〉プログラム(R01840)を実行しなければ、住所録マスターの住所録レコードは基準日時点で有効なものに更新されません。

〈有効住所の更新〉プログラムを実行すると、住所録マスター(F0101)の情報が日付別住所テーブル(F0116)の有効日付を基に現在有効な住所に更新されます。すべての住所を基準日時点のものに更新する必要がない場合は、データ選択を使用して、更新する住所録レコードを限定することができます。このプログラムには処理オプションはありません。

今日以外の日付を基準日として住所を更新するようなバージョンを設定することもできます。たとえば、郵送日に有効な住所を出力する場合に、今日以外の日付を基準日とした住所を生成します。

はじめる前に

- 〈住所録固定情報〉プログラム(P0000)で[有効日付別住所の設定]がオンになっていることを確認します。『住所録』ガイドの「住所録固定情報の設定」を参照してください。

カテゴリ・コードの更新

〈住所録上級/技術的操作〉メニュー(G0131)から〈カテゴリ・コード一括更新〉を選択します。

住所録レコードを入力した後、カテゴリ・コード情報の変更が必要になることがあります。住所録システム全体に変更を反映させる場合は、〈カテゴリ・コード一括更新〉プログラム(R01490)を使用します。変更したカテゴリ・コードの住所録レコードすべてを更新するか、特定の住所録レコードとカテゴリ・コードを更新することができます。

特定の住所録レコードだけを更新する場合は、処理オプションを使用してカテゴリ・コードごとに更新対象レコードを指定するか、処理オプションは空白にして、データ選択によって更新対象レコードを指定できます。

変更されたレコードを示すレポートを作成する処理オプションを設定します。この処理オプションを設定しない場合は、バッチ完了に関するメッセージがワークフローを介して送信されます。

はじめる前に

- 住所録マスター(F0101)をバックアップしてください。

処理オプション:カテゴリ・コードの一括更新(R01490)

選択基準

1. 住所番号
2. 従業員
3. 顧客
4. 仕入先
5. レポートを作成するには、“1”を入力してください。
6. カテゴリコードを更新するには、“1”を入力してください。更新しない場合は、ブランクのままにしてください。

住所フィールド

5. ビジネスユニット
 6. 与信メッセージ
 7. 検索タイプ
カテゴリ・コード 1-15
 8. カテゴリコード 01
 9. カテゴリコード 02
 10. カテゴリコード 03
 11. カテゴリコード 04
 12. カテゴリコード 05
 13. カテゴリコード 06
 14. カテゴリコード 07
-

-
15. カテゴリコード 08
 16. カテゴリコード 09
 17. カテゴリコード 10
 18. カテゴリコード 11
 19. カテゴリコード 12
 20. カテゴリコード 13
 21. カテゴリコード 14
 22. カテゴリコード 15
カテゴリコード 16-30
 23. カテゴリコード 16
 24. カテゴリコード 17
 25. カテゴリコード 18
 26. カテゴリコード 19
 27. カテゴリコード 20
 28. カテゴリコード 21
 29. カテゴリコード 22
 30. カテゴリコード 23
 31. カテゴリコード 24
 32. カテゴリコード 25
 33. カテゴリコード 26
 34. カテゴリコード 27
-

35. カテゴリコード 28

36. カテゴリコード 29

37. カテゴリコード 30

住所録レコードの除去

〈住所録上級/技術的操作〉メニュー(G0131)から、〈住所録レコードの除去〉を選択します。

〈住所録レコードの除去〉プログラム(R01800P)を使って、住所録マスター(F0101)と次の関連テーブルからレコードを除去します。

- F0030 - 銀行/支店マスター
- F0030W - 銀行口座/仕入先番号ワークテーブル
- F01092 - 補足データベース - コード
- F01093 - 補足データベース - 説明
- F0111 - 人名録
- F0115 - 住所録 - 連絡先電話番号
- F00151 - 電子メール・アドレス
- F01112 - 関連先
- F0116 - 日付別住所
- F01161 - 代替住所
- F0150 - 組織構造マスター
- F03012 - 会社別顧客マスター
- F0401 - 仕入先マスター
- F01815 - 住所録検索マスター

トランザクション・テーブルで支払人になっていたり、関連付けられている場合、その住所録レコードは除去されません。

レポートを最終モードで実行する処理オプションを設定すると、他のテーブルに対応するレコードがない場合、レコードはデータベースから削除されます。対応するテーブルがあるかどうか不明な場合は、このレポートを最終モードで実行する前に、テストモードで実行できます。

はじめる前に

- 〈メッセージ・ログの除去〉プログラムを実行する前に、すべてのユーザーがサインオフしていることを確認してください。

処理オプション:住所録の除去 (R01800P)

デフォルト

1. レポート

ブランク = レポートにレコードを表示しない

1 = レポートにレコードを表示する

除去したレコードを住所録除去レポート(R01800P)に出力するかどうかを指定します。除去したレコードを出力しないように指定した場合、結果レポートに出力されるのは処理されたレコード数と除去されたレコード数のみです。有効な値は次のとおりです。

ブランク

除去したレコード一覧を表示しない

1

除去したレコード一覧を表示する

2. 処理モード

ブランク = テスト・モード

1 = 最終モード

警告:最終モードでこのレポートを実行すると、住所録および関連するテーブルのレコードが削除されます。レコードを削除してよいかわからない場合は、テスト・モードで実行してください。

<住所録の除去>プログラムを最終モードで実行するか、テスト・モードで実行するかを指定します。

プログラムを最終モードで実行すると、住所録マスター(F0101)および関連テーブル(F0030, F0030W, F01092, F01093, F0111, F0115, F01151, F01112, F0116, F01161, F0150, F0301, F03012, F0401, F01815)のレコードが除去されます。その後、処理したレコード数と除去したレコード数が表示されます。

テスト・モードで実行すると、処理したレコード数と除去することになるレコード数が表示されます。有効な値は次のとおりです。

ブランク

テスト・モードで実行する

1

最終モードで実行する

メッセージ・ログ・レコードの除去

〈住所録上級/技術的操作〉メニュー(G0131)から〈メッセージ・ログの除去〉を選択します。

電子メール・システムを使用している場合は、〈メッセージ・ログの除去〉プログラム(R01131P)を実行することで、メッセージ・ログファイル(F0113)から定期的にメッセージ・ログ・レコードを除去する必要があります。

処理オプションで、メッセージの状況に関わらず日付によりメッセージを除去するかどうかを指定し、除去する場合はその日付範囲を指定します。日付範囲を指定しない場合は、削除済みの処理だけを対象に除去します。

はじめる前に

- 〈メッセージ・ログの除去〉プログラムを実行する前に、すべてのユーザーがサインオフしていることを確認してください。

処理オプション:メッセージ・ログの除去(R01131P)

処理

1. 状況に関係なく日付によりタスクを除去するには、“1”を入力します。空白にすると、削除されたタスクだけ除去されます。
2. 日付による削除を選択した場合は、使用する日付範囲を入力してください。日付範囲が入力されない場合は現在の日付が使用されます。

開始日付

終了日付

住所録レコードのアップロード

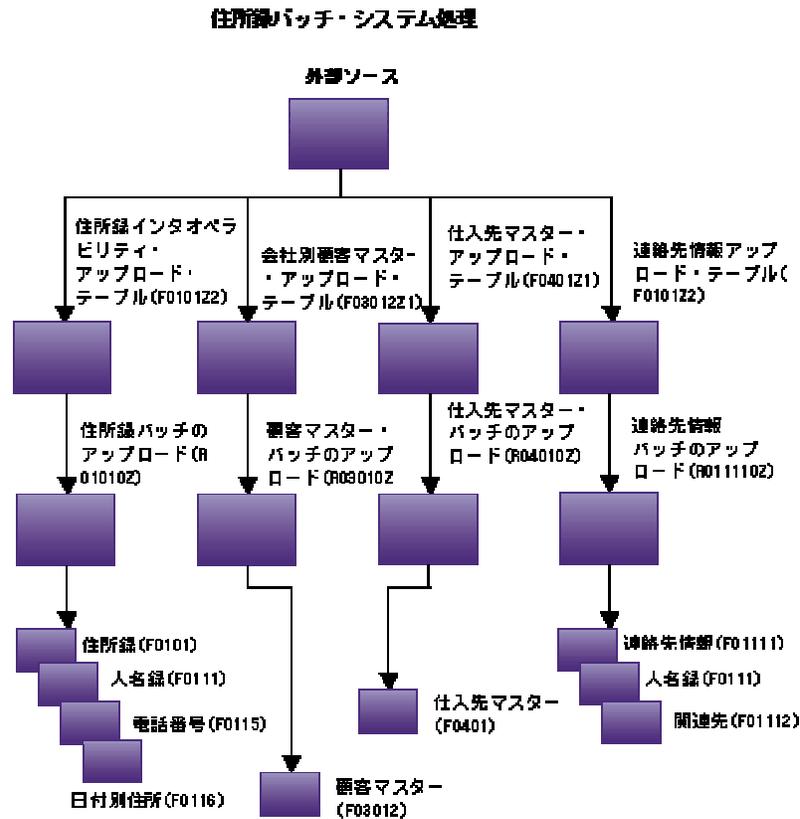
外部ソースにある住所録、顧客、仕入先、連絡先(人名録)情報は、住所録システムにアップロードすることができます。外部ソースの住所情報を EnterpriseOne で使用できるように変換するには、外部ソースのデータをアップロード・テーブルに読み込むカスタム・プログラムを作成する必要があります。

外部システムから適切なアップロード・テーブルにデータをインポートした後は、住所録システムの照会プログラムを使って、住所録、顧客マスター、仕入先マスター、住所録連絡先(人名録)レコードの検討、追加、改訂、削除を行うことができます。データ検証が完了したら、アップロード・プログラムを実行して、適切なテーブルに情報を読み込みます。

住所録システムへのアップロードが適切に処理されると、次のテーブルが更新されます。

- 住所録マスター(F0101)
- 会社別顧客マスター(F03012)
- 仕入先マスター(F0401)
- 人名録(F0111)
- 連絡先情報(F01111)
- 関連先(F01112)
- 電子メール・アドレス(F01151)
- 代替住所(F01161)

次の図は、住所録システムのバッチ処理の流れを示します。



アップロード・テーブルへのフィールドのマッピング

PC やサードパーティ・システム、EDI(電子データ交換)などの外部ソースの住所録レコードを EnterpriseOne 形式に変換するには、次のアップロード・テーブルの各フィールドに適切なデータを読み込むカスタム・プログラムを作成する必要があります。

- 住所録インタオペラビリティ・アップロード・テーブル(F010122)
- 会社別得意先マスター・アップロード・テーブル(F0301221)
- 仕入先マスター・アップロード・テーブル(F040121)
- 連絡先情報アップロード・テーブル(F011121)
- 関連先アップロード・テーブル(F011221)
- 電子メール・アドレス・アップロード・テーブル(F0115121)
- 代替住所アップロード・テーブル(F0116121)

アップロード・テーブルには、住所録レコードをアップロードするために入力が必須のフィールドと、入力が省略可能な補足フィールドがあります。これ以外のフィールドは、無視されるか、ユーザー用として予約されています。

参照

- アップロード・テーブル中の情報の表示については、『開発ツール』ガイドの「テーブルのデータ表示」

住所録インタオペラビリティ・アップロード・テーブル(F0101Z2)のフィールド

このセクションでは、住所録インタオペラビリティ・アップロード・テーブル(F0101Z2)のフィールドの一覧を記載します。一部は〈住所録バッチ・アップロード〉プログラム(R01010Z)の実行において必須フィールドとなります。その他は省略可能です。すべてのフィールドが住所録フォームで表示されたり、住所録システムで使用されるわけではありません。

住所録(F0101Z2)の必須フィールド

F0101Z2 テーブルの必須フィールドを次に記載します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - ユーザーID	SZEDUS	文字	10	ユーザー定義の ID 番号。R01010Z プログラムの実行者のユーザーID、または従業員ワーク・センターでのメッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドと、SZEDTN および SZEDBT の各フィールドを組み合わせることにより、トランザクションを一意に識別できます。
EDI - バッチ番号	SZEDBT	文字	15	〈住所録バッチ・アップロード〉プログラムの実行者により各バッチに割り当てられる番号。このフィールドが変更されると、J.D. Edwards では新しいバッチ番号を割り当てます。処理する各トランザクション・グループに 1 つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上することができます。
EDI - トランザクション番号	SZEDTN	文字	22	各トランザクションを識別する番号。各トランザクション番号ごとに、異なる住所録レコードを示します。1 つのバッチの中で、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。このフィールドには、送信者がトランザクションを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれることが多くあります。
EDI - 行番号	SZEDLN	数字	7	バッチジョブが受信処理、送信処理のどちらかを示す番号。受信処理の場合は、“0”(ゼロ)を入力します。 送信処理の場合は、このフィールドはブランクにします。レコードが変更前トランザクションであれば 1、変更後トランザクションであれば 2 に自動的に更新されます。住所録 MBF (P0100041)の処理オプションにより、テーブルに変更前トランザクションの書込みを行うかどうかを指定します。
EDI - 処理済み	SZEDSP	文字	1	トランザクションが正常に処理されたかどうかを示す値。このフィールドはブランクにしてください。N は、トランザクションがエラーになったという意味です。 トランザクションが正常に終了すると、値が Y に変わります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・アクション	SZTNAC	文字	1	実行すべきトランザクションを示す値。A は新しいトランザクションを示します。C は既存の伝票の変更を意味します。変更処理は、追加処理後に行う必要があります。 送信処理の場合、このフィールドは UA(変更後トランザクション)または UB(変更前トランザクション)のいずれかに自動的に更新されます。住所録 MBF (P0100041)の処理オプションがオンになっている場合にのみ、このフィールドに UB が使用されます。
ビジネスユニット	SZMCU	文字	12	セキュリティの保護のために使用するビジネスユニットを識別する値。このフィールドの値は、トランザクション入力プログラムでも使用されます。特定の AAI(自動仕訳)の主科目に関連付けて、勘定科目コードを導出することもできます。このフィールドをブランクにすると、自動的に 1 が割り当てられます。 ビジネスユニット・マスター(F0006)にある値でなければなりません。
Tax ID(税 ID)	SZTAX	文字	20	さまざまな納税先が必要とする税 ID コード。これは、ソーシャルセキュリティ番号(米国)、国税、州税、または法人用の税 ID、売上税番号などです。 このフィールドは、[検索タイプ]フィールド(SZAT1)が E で、国コードが US または CAN の場合に限って必須になります。
名称	SZALPH	文字	40	検索機能を最適化するため通常は姓、名の形式で入力する名称。〈住所録の検索〉プログラム (P01BDWRD) では、このフィールドが使用されます。
検索タイプ	SZAT1	文字	3	レコードを仕入先、顧客、従業員、会社など特定のグループの一部として識別する値。このフィールドには、UDC テーブル 01/ST(検索タイプ)で定義されている値を入力する必要があります。

F0101Z2 の任意フィールド

F0101Z2 テーブルの任意フィールドを次に記載します。これらのフィールドにより、トランザクションに関する追加情報を記述します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	SZTYTN	文字	8	トランザクションのタイプを識別する値。このフィールドをブランクにすると、住所録 MBF(P0100041)の処理オプション [トランザクション・タイプ]の値が使用されます。 送信処理を使用する場合の必須フィールドです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
送受信インジケータ	SZDRIN	文字	1	<p>トランザクションが受信と送信のどちらであるかを指定する値。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ブランク - 受信 • 2 - 送信
EDI - 明細行処理済み	SZEDDL	数字	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数。これは参考用のフィールドです。
取引先 ID	SZPNID	文字	15	電子データ交換(EDI)で、取引先を識別するために使用する値。
住所番号	SZAN8	数字	8	<p>仕入先、顧客、従業員、会社などを識別する固有の値。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、住所録システムの自動採番テーブル(F0002)を基に自動的に番号が割り当てられます。</p> <p>このフィールドに値を入力する場合、SZTNAC フィールドの値が C(既存レコードの変更)に指定されている場合を除き、住所録マスター(F0101)にある値は使用できません。住所録マスターに値が存在する場合は、トランザクションが重複しているとみなされ、処理は実行されません。</p>
詳細住所 No.	SZALKY	文字	20	J.D. Edwards システムで割り当てられたフォーマット以外の住所録レコードを識別する値。通常、J.D. Edwards が割り当てる住所番号との相互参照用にレガシーシステムの住所番号を入力します。このフィールドに値を入力する場合は、他の住所録レコードで使用されている値は使用できません。他の住所録レコードで使用されている値を使用すると、重複レコードと見なされ、処理されません。
業種分類コード	SZSIC	文字	10	標準産業コード(SIC)など商品とサービスを分類するコード。
言語	SZLNGP	文字	2	<p>フォームおよびレポートで使用する言語を示すコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 01/LP(使用言語)に存在している必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、プロセスを実行しているユーザーのプロファイルに指定された言語が使用されます。言語が指定されていない場合は、システムのデフォルト言語が使用されます。</p>
与信メッセージ	SZCM	文字	2	顧客、または仕入先に関する特定の情報を表示するコード。このフィールドには、UDC テーブル 00/CM(与信メッセージ)で定義されている値を入力する必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
個人/法人コード	SZTAXC	文字	1	<p>納税者のタイプを示すコード。米国ユーザーの場合、SZTAX フィールドと合わせて次のいずれかのコードを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • C - 企業 • P - 個人 • N - 非企業 <p>1099 レポートについては、P と N のコードの仕入先が選択されます。</p> <p>米国ユーザー以外は、SZTAX フィールドと合わせて次のいずれかのコードを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1 - 個人 • 2 - 企業
売掛金/買掛金 相殺インジケータ	SZAT2	文字	1	将来使用のために予約されたコード。
住所タイプ 3	SZAT3	文字	1	将来使用のために予約されたコード。
住所タイプ 4	SZAT4	文字	1	将来使用のために予約されたコード。
住所タイプ - 売掛金	SZATR	文字	1	住所録レコードが顧客かどうかを示すコード。有効な値は Y と N です。
住所タイプ 5	SZAT5	文字	1	将来使用のために予約されたコード。
住所タイプ - 買掛金	SZATP	文字	1	住所録レコードが仕入先かどうかを示すコード。有効値は Y(はい)、N(いいえ)、M(その他、1 回限りの仕入先)、F(海外の仕入先)です。このフィールドには、UDC テーブル H01/AS(住所タイプ - 買掛金)で定義されている値を入力する必要があります。
住所タイプ - コード、購買者	SZATPR	文字	1	住所録レコードの参照用としてデータ辞書に定義できるコード。
その他のコード	SZAB3	文字	1	将来使用のために予約されたコード。
住所タイプ - 従業員	SZATE	文字	1	住所録レコードが従業員のものかどうかを示すコード。有効な値は Y と N です。
補助元帳非アクティブコード	SZSBLI	文字	1	ブランクは住所番号を補助元帳として使えることを示します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
開始有効日	SZEFTB	日付	6	住所録レコードが始めて有効になる日付。データベースが受け入れる形式で指定してください。データベースによっては、グレゴリオ暦の日付形式(mmddyy または yymmdd)が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式が必要な場合があります。 ユリウス暦の日付は、cyyddd(c は世紀数下 1 桁)という形式で表します。21 世紀のトランザクションには“1”を入力します。たとえば、6/1/2005(2005 年 6 月 1 日)はユリウス暦では 105152 になります。6/1/04(2004 年 6 月 1 日)は 104153 になります(2000 年は 2 月 29 日があるうるう年のためです)。
住所番号 - 第 1	SZAN81	数字	8	関連住所番号(販売担当者、法律事務所、会計士など)。多くの住所録プログラムでは、関連住所番号を基にレコードを照会できます。 このフィールドの入力値は、バッチ処理の実行前にテーブルにある値でなければなりません。したがって、関連住所番号を入力する場合は、先に関連住所レコードを処理する必要があります。
住所番号 - 第 2	SZAN82	数字	8	SNAN81 フィールドの説明を参照してください。
住所番号 - 第 3	SZAN83	数字	8	SNAN81 フィールドの説明を参照してください。
住所番号 - 第 4	SZAN84	数字	8	SNAN81 フィールドの説明を参照してください。
住所番号 - 第 5	SZAN86	数字	8	SNAN81 フィールドの説明を参照してください。
ファクター/代替支払先	SZAN85	数字	8	買掛金元帳で代替支払先の住所を識別する住所番号。 このフィールドの入力値は、バッチ処理の実行前に F0101 テーブルにある値でなければなりません。
住所録カテゴリ・コード 01 - 30	SZAC01 - SZAC30	文字	3	カテゴリ・コード。カテゴリ・コード・フィールドには、対応する UDC テーブル 01/01-01/30 で定義されている値を入力する必要があります。 買掛管理システムでは、カテゴリ・コード 07 は 1099 の報告用に使用されます。
銀行勘定科目	SZGLBA	文字	8	住所録レコードに関連付けられた銀行勘定科目を識別する値。このフィールドは情報用で、会計処理で使用されることはありません。会計処理で使用する銀行勘定科目は、AAI(自動仕訳)に基づいて決まります。
戻り時刻	SZPTI	数字	6	ユーザーが戻る予定時間。必須フォーマットは、HH.MM です。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
戻り日付	SZPDI	日付	6	ユーザーが戻る予定の日付。データベースが受け入れる形式で指定してください。データベースによっては、グレゴリオ暦の日付形式が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式が必要な場合があります。 詳細は、SZEBDT フィールドの説明を参照してください。
アクション - メッセージ制御	SZMSGGA	文字	1	ワークフローのメッセージを表示するかどうかを示すコード。Y を指定すると、クリアまたは処理されたメッセージも含め、すべてのメッセージが表示されます。Y 以外の値は、現在のメッセージのみが表示されることを意味します。
備考	SZRMK	文字	30	注記、説明、名前などを記述する情報フィールド。住所録システムではどのフォームでもこのフィールドは表示されません。
免税証明	SZTXCT	文字	20	免税される個人と会社に対して納税先が交付する許可証明書または免税証明書を識別する番号。
追加税 ID - 個人	SZTX2	文字	20	個人に対して納税先が割り当てる追加識別番号。
名称(カナ)	SZALP1	文字	40	ダブルバイトのコーディングに対応する代替名。
郵送宛名	SZMLNM	文字	40	郵送用のレポートやラベルに記載する名前。このフィールドをブランクにすると、SZALPH フィールドに入力した値が使用されます。
補助郵送宛名	SZMLN1	文字	40	ダブルバイトのコーディングに対応する代替名。
住所行 1、住所行 2、住所行 3、住所行 4	SZADD1 SZADD2 SZADD3 SZADD4	文字	40	住所録レコードの郵送先住所を識別する英数字の値。
郵便番号	SZADDZ	文字	12	郵便物の配達用に各国の郵便局によって住所に関連して割り当てられたコード。
市	SZCTY1	文字	25	住所に関連する市。
国	SZCTR	文字	3	住所に関連する国。このフィールドには、UDC テーブル 00/CN(国コード)で定義されている値を入力する必要があります。
州	SZADDS	文字	3	住所に関連する都道府県。このフィールドには、UDC テーブル 00/S(都道府県)で定義されている値を入力する必要があります。
郡	SZCOUN	文字	25	住所の表記に関連する群、地域、行政上の特別区で、郵便物の配達または税務上の目的で住所に関連する区域。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
市外局番	SZAR1	文字	6	電話番号の市外局番。米国で必須のフォーマットは、カッコで囲んだ3桁の文字です。 米国以外の市外局番で代替フォーマットを使用する場合は、項目 AR1 に関するデータ辞書の[表示ルール]フィールドを変更する必要があります。
電話番号	SZPH1	文字	20	住所録レコードに関連する電話番号。
電話番号タイプ 1	SZPHT1	文字	4	SZPH1 フィールドに対応する電話番号タイプを指定するコード。たとえば FAX、CELL、HOME、WORK などを指定します。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 01/PH (電話タイプ)に存在している必要があります。
電話番号 2	SZPH2	文字	20	住所録レコードに関連する第 2 の電話番号。
電話番号タイプ 2	SZPHT2	文字	4	SZPH2 フィールドに対応する電話番号タイプを指定するコード。たとえば FAX、CELL、HOME、WORK などを指定します。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 01/PH (電話タイプ)に存在している必要があります。

F0101Z2 の無視されるフィールド

F0101Z2 テーブルで無視されるフィールドを次に記載します。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 伝票タイプ	SZEDCT	文字	2	これらのフィールドは無視されます。
EDI - 換算形式	SZEDFT	文字	10	
EDI - アップロード 日付	SZEDDT	日付	6	
圧縮記述	SZDC	文字	40	
トランザクション入 力者	SZTORG	文字	10	
ユーザーID	SZUSER	文字	10	
プログラムID	SZPID	文字	10	
ワークステーション ID	SZJOBN	文字	10	
更新日付	SZUPMJ	日付	6	
時刻	SZTDAY	日付	6	
最終更新時刻	SZUPMT	数字	6	

F0101Z2 のユーザー予約フィールド

F0101Z2 テーブルのユーザー予約フィールドを次に記載します。これらのフィールドは、J. D. Edwards プログラムでは更新されません。住所録システムではどのフォームでもこれらのフィールドは表示されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ユーザー予約コード	SZURCD	文字	3	3 文字以内の英数字からなるユーザー定義の値。
ユーザー予約日付	SZURDT	日付	6	データベースが受け入れる形式のユーザー定義の日付。
ユーザー予約金額	SZURAT	数字	15	データベースが受け入れる形式のユーザー定義の金額。
ユーザー予約番号	SZURAB	数字	8	8 桁までのユーザー定義の番号。
ユーザー予約参照	SZURRF	文字	15	15 文字以内の英数字からなるユーザー定義の値。

会社別得意先マスター・アップロード・テーブル(F0301Z21)のフィールド

このセクションでは、会社別得意先マスター・アップロード・テーブル(F0301Z21)のフィールドの一覧を記載します。一部は<顧客マスター・バッチのアップロード>プログラム(R03010Z)の実行において必須フィールドとなります。その他は必須ではありません。

F0301Z21 の必須フィールド

F0301Z21 テーブルの必須フィールドを次に記載します。フィールドによっては、ブランクが有効な値となることもあります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - ユーザー ID	VOEDUS	文字	10	ユーザー定義の ID 番号。プロセスの実行者のユーザー ID、または<従業員ワーク・センター>プログラム(P012501)でのメッセージの受信者のユーザー ID を入力します。このフィールドと、VOEDTN および VOEDBT の各フィールドを組み合わせることにより、トランザクションを一意に識別できます。
EDI - バッチ番号	VOEDBT	文字	15	VOEDTN および VOEDUS の各フィールドと組み合わせることにより、バッチ内のトランザクションを一意に識別するコード。このフィールドはレベル区切りとしても使用され、この値が変わるごとに J. D. Edwards のバッチ番号が新しく割り当てられます。各トランザクション・グループに 1 つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上することができます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - トランザクション番号	VOEDTN	数字	22	各トランザクションを識別するコード。各トランザクション番号ごとに、異なる住所録レコードを示します。1つのバッチの中で、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。このフィールドには、トランザクションを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれることが多くあります。
EDI - 行番号	VOEDLN	数字	7	バッチジョブが受信処理、送信処理のどちらかを示す番号。 受信処理の場合は、“0”(ゼロ)を入力します。 送信処理の場合は、このフィールドはブランクにします。レコードが変更前トランザクションであれば1、変更後トランザクションであれば2に自動的に更新されます。顧客マスターMBF (P0100042)の処理オプションにより、テーブルに変更前トランザクションの書込みを行うかどうかを指定します。
EDI - 処理済み	VOEDSP	文字	1	このフィールドはブランクにしてください。このフィールドには、トランザクションが正常に終了したかどうかを示す値が自動的に入力されます。Nは、トランザクションがエラーになったという意味です。トランザクションが正常に終了すると、値がYに変わります。 送信処理の場合、この値はNに更新されます。
トランザクション・アクション	VOTNAC	文字	2	新しいトランザクションを処理している場合は、このフィールドに“A”と入力します。既存の伝票の変更を処理する場合は、“C”と入力します。変更処理はすべて、追加処理後に実行する必要があります。 送信処理の場合、このフィールドは変更後トランザクション(UA)または変更前トランザクション(UB)のいずれかに更新されます。顧客マスターMBF (P0100042)の処理オプションがオンになっている場合にのみ UB に更新されます。
住所番号	VOAN8	数字	8	サブスライバを識別する数値。 このフィールドに入力する値は、F0101 テーブルに存在している必要があります。この値がないと、レコードは処理されません。
会社	VOCO	文字	5	顧客に関連する会社を識別する値。会社番号は会社別処理で使用します。顧客に対して入力したすべての会社に加えて、会社 00000 のレコードが処理されます。このフィールドをブランクにすると、会社 00000 が使用されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
通貨コード - 住所録の金額	VOGRCA	文字	3	<p>このフィールドは、多通貨がオンになっている場合に限り、表示されます。</p> <p>VOASTY と VOSPYE フィールドの通貨を識別するコード。このフィールドに入力する値は、UDC (F0013)に存在している必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、顧客マスター(P03013)の処理オプションで入力した値が使用されます。処理オプションをブランクにすると、このフィールドは、F0101 テーブルのビジネスユニットの会社に対応する通貨コードで更新されます。</p>

売掛管理システム(03B)で使用される F03012Z1 の任意フィールド

次に、買掛管理システムで使用される F03012Z1 の任意フィールドを記載します。これらのフィールドにより、トランザクションに関する追加情報を記述します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	VOTYTN	文字	2	トランザクションのタイプを識別する値。このフィールドをブランクにすると、顧客マスター-MBF(P0100042)のトランザクション・タイプの処理オプションの値が使用されます。
送受信インジケータ	VODRIN	文字	1	トランザクションが受信か送信かを識別する番号。ブランクの場合は、受信トランザクションになります。値が 2 の場合は、送信トランザクションになります。
EDI - 明細行処理済み	VOEDDL	数字	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数を示す番号。これは参考用のフィールドです。
取引先 ID	VOPNID	文字	15	電子データ交換(EDI)で、取引先を識別するために使用する値。
元帳クラス	VOARC	文字	4	<p>VOCO フィールドを組み合わせることにより、トランザクションを転記する先の売掛金勘定を指定する値。</p> <p>AAI PCxxxx (xxxx は[元帳クラス]フィールドの値)で設定した勘定科目は、後処理で使用します。</p> <p>取引によって異なる勘定科目を割り当てる場合を除き、このフィールドには値を入力する必要はありません。</p>
ビジネスユニット - 売掛金デフォルト	VOMCUR	文字	12	<p>VOOBAR および VOAIDR フィールドと組み合わせることにより、請求書の入力時に使用される収益勘定を定義する番号。</p> <p>モデル仕訳のフィールド (VOCKOR、VODCAR、VODTAR)に値を入力する場合は、このフィールドには値を入力しないでください。このフィールドの値は、モデル仕訳に割り当てられる収益勘定によって変更されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
主科目 - 売掛金 デフォルト	VOOBAR	文字	6	VOMCUR および VOAIDR フィールドと組み合わせることにより、請求書の入力時に使用されるデフォルトの収益勘定を定義する番号。 モデル仕訳のフィールド (VOCKOR、VODCAR、VODTAR)に値を入力する場合は、このフィールドには値を入力しないでください。このフィールドの値は、モデル仕訳に割り当てられる収益勘定によって変更されます。
補助科目 - 売掛金 デフォルト	VOAIDR	文字	8	VOOBAR フィールドと組み合わせることにより、請求書の入力時に使用されるデフォルトの収益勘定を定義する番号。 モデル仕訳のフィールド (VOCKOR、VODCAR、VODTAR)に値を入力する場合は、このフィールドには値を入力しないでください。このフィールドの値は、モデル仕訳に割り当てられる収益勘定によって変更されます。
伝票会社 - 売掛金 モデル	VOKCOR	文字	5	VODCAR および VODTAR フィールドと組み合わせることにより、請求書の入力時に使用されるデフォルトの収益勘定を定義する番号。 デフォルトの収益勘定について各フィールドに値を入力する場合は、モデル仕訳のフィールド(VOMCUR、VOOBAR、VOAID)は指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、この値がデフォルトの収益勘定よりも優先されます。
伝票番号 - 売掛金 モデル	VODCAR	文字	8	VOKCOR および VODTAR フィールドと組み合わせることにより、請求書の入力時に使用されるデフォルトの収益勘定を定義する番号。入力した値は、検証されません。 デフォルトの収益勘定について各フィールドに値を入力する場合は、モデル仕訳のフィールド(VOMCUR、VOOBAR、VOAID)は指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、この値がデフォルトの収益勘定よりも優先されます。
伝票タイプ - 売掛金 モデル	VODTAR	文字	2	VOKCOR および VODCAR フィールドと組み合わせることにより、請求書の入力時に使用されるモデル仕訳を示す番号。入力した値は、検証されません。 デフォルトの収益勘定について各フィールドに値を入力する場合は、モデル仕訳のフィールド(VOMCUR、VOOBAR、VOAID)は指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、この値がデフォルトの収益勘定よりも優先されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
通貨コード	VOCRCD	文字	3	このフィールドは、多通貨がオンになっている場合に限り、表示されます。 請求書の入力時にこの顧客に対して使用するデフォルトの通貨を示す値。このフィールドには、F0013 テーブルにある値を入力してください。 このフィールドをブランクにすると、請求書に入力された会社に対応する通貨が使用されます。
税率/税域	VOTXAI	文字	10	この顧客の請求書に使用するデフォルトの税率/税域を示す値。税域テーブル(F4008)にある値を入力してください。
税目コード	VOEXR1	文字	2	この顧客に対して入力する請求書に使用するデフォルトの税目コードを示す値。このフィールドには、UDC テーブル 00/EX(税目コード)にある値を入力してください。
金額 - 与信限度額	VOACL	数字	15	データベースが受け入れる形式の与信限度額を示す値。データベースによっては小数点以下桁数を使用できます。このフィールドの更新は与信管理者が設定し、ワークフロー処理をオフにする必要があります。 ワークフロー処理をオフにしないと、与信限度の承認メッセージが VOCMG フィールドで指定されるユーザーに送信され、このフィールドは自動的に更新されません。与信限度額の承認は、デフォルトによりワークフロー処理でオンになります。
請求書保留	VOHDAR	文字	1	顧客への請求書をすべて保留にできるコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Y - 請求書保留。新規の請求書の入力はできません。受注オーダーと入荷情報は入力できます。 N - 請求書を保留しません。新規請求書の入力ができます。 このフィールドをブランクにすると、N が使用されます。
支払条件	VOTRAR	文字	3	顧客請求書の支払条件を定義する値。このフィールドに入力する値は、支払条件テーブル(F0014)に存在している必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
計算書の送付先	VOSTTO	文字	1	<p>計算書の送付先の住所を示すコード。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • C - 顧客 • P - 親 • 1 - 第 1 住所番号 • 2 - 第 2 住所番号 • 3 - 第 3 住所番号 • 4 - 第 4 住所番号 • 5 - 第 5 住所番号 • 6 - 第 6 住所番号(ファクター/代替支払先)
支払手段	VORYIN	文字	1	顧客への支払方法を指定するコード。UDC テーブル 00/PY(支払手段)にある値を入力してください。
計算書の印刷 (Y/N)	VOSTMT	文字	1	顧客が、計算書または請求書を受け取る資格があるかどうかを指定するコード。デフォルトの Y は、請求書または計算書を印刷します。
代替支払人	VOARPY	文字	1	PYR フィールドに割り当てられた顧客以外の個人または会社。このフィールドをブランクにすると、レコードを処理し際に顧客番号で更新されます。このフィールドには、F0101 テーブルにある値を入力してください。
自動入金(Y/N)	VOATCS	文字	1	この顧客が、自動入金(ロックボックス)を使用して入金処理できるかどうかを示すコード。このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Y に更新されます。
請求書の送付先	VOSITO	文字	1	<p>請求書の送付先の住所を示すコード。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • C - 顧客 • P - 親 • 1 - 第 1 住所番号 • 2 - 第 2 住所番号 • 3 - 第 3 住所番号 • 4 - 第 4 住所番号 • 5 - 第 5 住所番号 • 6 - 第 6 住所番号(ファクター/代替支払先)
計算書サイクル	VOCYCN	文字	2	顧客の計算書を印刷する期間を識別するコード。このコードを使用して、具体的な請求サイクルを指定することもできます。このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で顧客名のイニシャル文字が自動入力されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
暫定与信メッセージ	VOTSTA	文字	2	顧客に対する一時的な与信警告条件を表すコード。このフィールドには、UDC テーブル 01/CM(与信メッセージ)にある値を入力する必要があります。
最終与信検討日	VODLC	日付	6	顧客の最終与信検討日。データベースが受け入れる形式で指定してください。データベースによっては、グレゴリオ暦の日付形式(mmddyy または yymmdd)が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式が必要な場合があります。 ユリウス暦の日付は、cyydd(c は世紀数下 1 桁)という形式で表します。21 世紀のトランザクションには“1”を入力します。たとえば、6/1/2005(01.06.01)はユリウス暦では 101152 になります。6/1/04(01.06.00)は 100153 になります(2000 年は 2 月 29 日があるうるう年のためです)。
延滞通知(Y/N)	VODNLT	文字	1	顧客が、延滞通知を受け取る資格があるかどうかを指定するコード。ブランクは顧客が延滞通知を受け取る資格があることを示しています。
最終与信検討の担当者	VOPLCR	文字	10	顧客の最終的な与信検討を完了した担当者を示すコード。入力する値とテーブルとの照合は行いません。
日付 - 検討要求	VORVDJ	日付	6	顧客の与信状況を検討すべき時期を示す日付。 検討要求日付は、データベースが受け入れる形式で指定してください。例としてデータ項目 VODLC を参照してください。
与信管理者	VOCMGR	文字	10	ワークフロー・メッセージの送信先の与信管理者を示すコード。 ワークフロー・メッセージを受信するには、与信管理者の住所録レコードが F0101 テーブルにあり、このフィールドの指定値が UDC テーブル 01/CR にあり、記述 2 のフィールドに割り当てられた住所番号が使用されている必要があります。
回収管理	VOCLMG	文字	10	ワークフロー・メッセージの送信先の回収管理を示すコード。 ワークフロー・メッセージを受信するには、回収管理の住所録レコードが F0101 テーブルにあり、このフィールドの指定値が UDC テーブル 01/CR にあり、記述 2 のフィールドに割り当てられた住所番号が使用されている必要があります。
回収レポート(Y/N)	VOCOLL	文字	1	顧客の住所番号が、回収レポートに印刷する資格があるかどうかを指定するコード。このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Y に更新されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
延滞利息金の適用(Y/N)	VOAFC	文字	1	顧客に、延滞利息金が適用されるかどうかを指定するコード。このフィールドに“N”と入力すると、手数料処理の間に顧客がバイパスされます。このフィールドをblankにすると、レコードを処理した時点で、Nに更新されます。
開始請求書日付	VODFIJ	日付	6	最初の請求書をシステムに入力した日付。データベースが受け入れる形式で指定してください。例としてデータ項目 VODLC を参照してください。 このフィールドをblankにして<売掛金統計実績>プログラム(R03B16)を実行することにより情報を更新することもできます。
最終請求書日付	VODLIJ	日付	6	最後の請求書をシステムに入力した日付。データベースが受け入れる形式で指定してください。例としてデータ項目 VODLC を参照してください。 このフィールドをblankにして<売掛金統計実績>プログラム(R03B16)を実行することもできます。
Date Last Paid(前回支払日付)	VODLP	日付	6	前回支払を受け取った日付。データベースが受け入れる形式で指定してください。例としてデータ項目 VODLC を参照してください。 このフィールドをblankにして<売掛金統計実績>プログラムを実行することにより情報を更新することもできます。
Dun & Bradstreet 格付	VODDB	文字	3	Dun & Bradstreet による格付を示す値。
Dun & Bradstreet 日付	VODNBJ	日付	6	Dun & Bradstreet 格付が提供された日付。データベースが受け入れる形式で指定してください。例としてデータ項目 VODLC を参照してください。
TRW 格付	VOTRW	文字	3	TRW (Experian)による格付を示す値。
TRW 日付	VOTWDJ	日付	6	TRW 格付が提供された日付。データベースが受け入れる形式で指定してください。例としてデータ項目 VODLC を参照してください。
未決済請求額	VOAD	数字	15	将来使用に予約されています。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
金額 - 前年度延滞利息金	VOAFCP	数字	15	<p>当年度と前年度の延滞利息金。データベースが受け入れる形式で指定してください。データベースによって、小数点以下桁数が指定できる場合とできない場合があります。</p> <p>多通貨を使用している場合、入力する金額は〈顧客マスター情報〉プログラム(P03013)の[通貨コード住所録金額]フィールド(VOCRCA)に対応する通貨で表す必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにして〈売掛金統計実績〉プログラムを実行することにより情報を更新することもできます。</p>
金額 - 年累計延滞利息金	VOAFCY	数字	15	<p>当年度と前年度の延滞利息金を表す数字。データベースが受け入れる形式で指定してください。データベースによって、小数点以下桁数が指定できる場合とできない場合があります。</p> <p>多通貨を使用している場合、入力する金額は〈顧客マスター情報〉プログラムの[通貨コード住所録金額]フィールド(VOCRCA)に対応する通貨で表す必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにして〈売掛金統計実績〉プログラムを実行することにより情報を更新することもできます。</p>
金額 - 本年度請求済み	VOASTY	数字	15	<p>当年度と前年度の請求済み金額を表す数字。データベースが受け入れる形式で指定してください。データベースによって、小数点以下桁数が指定できる場合とできない場合があります。</p> <p>多通貨を使用している場合、入力する金額は P03013プログラムの[通貨コード住所録金額]フィールド(VOCRCA)に対応する通貨で表す必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにして〈売掛金統計実績〉プログラムを実行することにより情報を更新することもできます。</p>
請求済み金額	VOSPYE	数字	15	<p>当年度と前年度の請求済み金額を表す数字。データベースが受け入れる形式で指定してください。データベースによって、小数点以下桁数が指定できる場合とできない場合があります。</p> <p>多通貨を使用している場合、入力する金額は[通貨コード住所録金額]フィールド(VOCRCA)の値に対応する通貨で表す必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにして〈売掛金統計実績〉プログラムを実行することにより情報を更新することもできます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
前回入金	VOALP	数字	15	この顧客から最後に入金した金額を表す数字。データベースが受け入れる形式で指定してください。データベースによって、小数点以下桁数が指定できる場合とできない場合があります。 このフィールドをブランクにして〈売掛金統計実績〉プログラムを実行することにより情報を更新することもできます。
情報設定日付	VODAOJ	日付	6	顧客レコードをシステムに入力した日付。データベースが受け入れる形式で指定してください。例としてデータ項目 VODLC を参照してください。このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した日付に更新されます。
方針番号(内部用)	VOPLY	数字	5	売掛管理の延滞方針を表す内部コード。このフィールドは、〈顧客マスター情報〉フォームに方針名が入力された時点で更新されます。売掛金延滞方針が決定されている場合、売掛金延滞処理方針マスター(F03B25)に保存された方針名に関連する方針 ID 番号(RFPLY)でこのフィールドを更新することができます。このフィールドに入力する値は、このテーブルの項目に対して検証されます。
損金管理者	VOMAN8	文字	1	損金管理の責任者の住所番号。このフィールドには、F0101 テーブルにある値を入力してください。
自動入金実行リスト	VOARL	文字	10	入金と請求書を特定の順序で照合する自動入金処理のアルゴリズムのリストを表す値。このフィールドに入力する値は、入金消込アルゴリズム実行リスト・テーブル(F03B50)に存在している必要があります。
住所録カテゴリ・コード 01 - 30	VOAC01 - VOAC30	文字	3	住所録システムで定義され、売掛管理システムでレポート用を使用されるコード。これらのフィールドに入力する値はいずれも、対応する UDC テーブル 01/01 - 01/30(住所録カテゴリ・コード)に存在している必要があります。 住所録マスター(ABAC01 - ABAC30)の各カテゴリ・コードに入力する値は、これらのフィールドでは更新されません。

受注管理システム(42)で使用される F03012Z1 の任意フィールド

次に、受注管理システムで使用される F03012Z1 テーブルの任意フィールドを記載します。これらのフィールドにより、トランザクションに関する追加情報を記述します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ABC コード販売	VOABC1	文字	1	顧客または在庫品目の売上レベルを示すコード。このフィールドは 8 割 2 割の法則(利益の 80%は全体の 20%の製品によって生み出される)を使用していることを示すものです。A(最高)から F(最低)までのレベルがあります。 このフィールドをブランクにして<ABC 分析>プログラム(R4164)を実行することによりコードを割り当てることもできます。
ABC コード在庫	VOABC2	文字	1	平均的な投資額によって品目のランク付けを表すコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • A - 第 1 金額ランクに割り当てます。 • B - 第 2 金額ランクに割り当てます。 • C - 第 3 金額ランクに割り当てます。 • D - ABC 分析の対象から除外します。 このフィールドをブランクにして<ABC 分析>プログラムを実行することにより次のような値に基づいてコードを割り当てることもできます。 <ul style="list-style-type: none"> • 平均投資総額をビジネスユニットの平均値で除算した値。 <ul style="list-style-type: none"> • 投資額つまり品目の計算価値の合計と一致する場合。
ABC コード平均日数	VOABC3	文字	1	顧客が請求書の支払に要する平均日数を表すコード。このフィールドは 8 割 2 割の法則(利益の 80%は全体の 20%の製品によって生み出される)を使用していることを示すものです。A(最高)から F(最低)までのレベルがあります。 このフィールドをブランクにして<ABC 分析>プログラムを実行することによりコードを割り当てることもできます。
未決済オーダー金額	VOAPRC	数字	15	この顧客で未決済になっているオーダーの合計金額を表す値。データベースが受け入れる形式で指定してください。データベースによって、小数点以下桁数が指定できる場合とできない場合があります。
最大オーダー金額	VOMAXO	数字	15	入力可能なオーダーの最大金額を示す値。オーダーの金額がこのフィールドの値を上回ると、エラーが返されません。
最小オーダー金額	VOMINO	数字	15	入力可能なオーダーの最小金額を示す値。オーダーの金額がこのフィールドの値を下回ると、エラーが返されません。
年累計オーダー	VOOYTD	数字	3	現行年度のオーダー数。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
前年度オーダー	VOOPY	数字	3	前年度のオーダー数。
関連住所番号	VOAN8R	数字	8	出荷先住所と販売先住所を関連付ける値。たとえば、受注オーダー入力で出荷先住所のみを入力すると、システムはこのフィールドの値を使って、関連住所番号のリストから[販売先]フィールドの値である住所番号を選択します。 このフィールドには 1~7 の値を指定でき、この値は UDC テーブル 40/RA(関連住所番号)に存在している必要があります。
請求住所タイプ	VOBADT	文字	1	指定した住所を販売先、出荷先、またはその両方の住所として使用するよう指示するコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • X - 請求先住所と出荷先住所を指定します。 • S - 出荷先住所のみを指定します。 • B - 請求先住所のみを指定します。 このフィールドに入力する値は、UDC テーブル H42/BA(請求先住所タイプ)に存在している必要があります。
顧客価格グループ	VOCPGP	文字	8	顧客のグループを識別するコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/PC(顧客価格グループ)に存在している必要があります。
オーダー・テンプレート	VOORTP	文字	8	最も頻繁に注文される品目のリストを示すコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/OT(オーダー・テンプレート)に存在している必要があります。
取引値引	VOTRDC	数字	7	システムが各品目に適用する値引率のパーセント値。値引には、このパーセントだけが適用されます。価格を入力すると、値引率が一時的に変更されます。値引率は、整数(5%であれば 5)で指定します。
印刷メッセージ	VOINMG	文字	10	購買オーダーに印刷されるメッセージに割り当てられるコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/PM(印刷メッセージ)に存在している必要があります。
与信チェック	VOEXHD	文字	1	顧客が、受注オーダー処理サイクルで与信チェックを行うかどうかを示すコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - この顧客の与信チェックを実施しない。 • N - この顧客の与信チェックを実施する。受注オーダー入力処理オプションで与信チェックをオンにすると、顧客がその制限を超えた時点で、オーダーが保留になります。
保留オーダーコード	VOHOLD	文字	2	オーダーが保留された理由を示すコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 42/HC(コード保留)に存在している必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
承認経路コード	VOROUT	文字	3	<p>顧客の配送経路を示すコード。このフィールドは、運賃集計機能がオーダーにかかる輸送費の計算時に使用するフィールドの1つです。</p> <p>ピッキングの場合は、配送経路/中継点コードおよび区域コードを使用して特定の経路を使う配送車両に積載する品目を分類します。</p> <p>このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 42/RT (経路コード)に存在している必要があります。</p> <p>このフィールドのデフォルトは、〈顧客請求指示〉フォームで設定します。</p>
中継点コード	VOSTOP	文字	3	<p>特定の配送経路上の中継点を示すコード。このフィールドは、運賃集計機能がオーダーにかかる輸送費の計算時に使用するフィールドの1つです。</p> <p>ピッキングの場合は、中継点コードと配送経路/区域コードを使用して特定の経路を使う配送車両に積載する品目を分類します。</p> <p>このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 42/SP (中継点コード)に存在している必要があります。</p> <p>このフィールドのデフォルトは、〈顧客請求指示〉フォームで設定します。</p>
配送区域番号	VOZON	文字	3	<p>顧客の配送区域を示すコード。このフィールドは、運賃集計機能がオーダーにかかる輸送費の計算時に使用するフィールドの1つです。</p> <p>ピッキングの場合は、区域コードと配送経路/中継点コードを使用して特定の経路を使う配送車両に積載する品目を分類します。</p> <p>このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/ZN (配送区域番号)に存在している必要があります。</p> <p>このフィールドのデフォルトは、〈顧客請求指示〉フォームで設定します。</p>
運送業者番号	VOCARS	数字	8	<p>運送業者の住所番号を表す値。</p> <p>このフィールドには、F0101 テーブルにある値を入力してください。</p>
配送指示行 1	VODEL1	文字	30	このフィールドを使用して、配送指示を入力します。
配送指示行 2	VODEL2	文字	30	このフィールドを使用して、配送指示を入力します。
日数	VOLTDT	数字	5	<p>商品の配送にかかる日数を表す値。このフィールドに値を入力すると、〈受注オーダー明細〉プログラム(P4210)は、約束配送日付からこの値を減算して、ピッキングリリース日付を計算します。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
貨物取扱コード	VOFRTH	文字	5	顧客の入荷方法を指定するコード。このコードで、運賃の責任者を指定します。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 42/FR(貨物取扱コード)に存在する必要があります。
運賃の適用(Y/N)	VOAFT	文字	1	システムが処理中に運賃計算を実行するかどうかを示すコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Y - 処理中に運賃計算を実行する。 N - 処理中に運賃計算を実行しない。 このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Yに更新されます。
部分出荷可能(Y/N)	VOAPTS	文字	1	顧客が行全体の一括出荷を要求しているか、複数の部分出荷を認めているかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Y - 顧客が一括出荷を要求している。 N - 部分出荷を許可している。 このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Yに更新されます。
代替品許可(Y/N)	VOSBAL	文字	1	顧客が代替品を受け入れるかどうかを示すコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Y - 顧客が代替品を許可している。 N - 顧客が代替品を許可していない。 このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Yに更新されます。
バックオーダー許可(Y/N)	VOBACK	文字	1	顧客が、特定の品目のバックオーダーを認めるかどうかを示すコード。バックオーダーは、〈品目マスター〉プログラム(P4101)または〈事業所品目〉プログラム(P41012)を使用して品目別に行ったり、〈得意先請求指示〉プログラム(P03013)を使用して得意先別に、または〈事業所固定情報〉プログラム(P41001)を使用して事業所別に行うことができます。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Y - この品目のバックオーダーを認めます。 N - 顧客に割り当てられたバックオーダーコードにかかわらず、この品目のバックオーダーを認めます。
顧客購買オーダー必須(Y/N)	VOPORQ	文字	1	顧客に購買オーダーが必要かどうかを示すコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Y - 顧客の購買オーダー番号が必要 N - 顧客の購買オーダー番号は不要

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
優先順位処理	VOPRIO	文字	1	<p>顧客のオーダーに優先順位を付けるコード。この値によってピッキング・リスト印刷の優先順序が決定されます。また、〈バックオーダー〉レポート(R42118)で、このコードにより、優先順位の高いオーダーから順にリリースするように指定することもできます。</p> <p>このフィールドに入力する値は、UDC テーブル H40/PR (優先順位処理コード)に存在している必要があります。</p>
与信チェック・レベル	VOARTO	文字	1	<p>与信チェックの実行形式を制御するコード。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • P - 顧客の親番号に従って与信チェックを実行します。 • C - 顧客の番号だけに従って与信チェックを実行します。 • S - 顧客の番号だけに従って与信チェックを実行します。 <p>P の実行形式を使用すると、未決済の売掛金と受注オーダーを比較して、親子の合計と親番号の与信限度額を照合します。たとえば、複数の事業所を持つ顧客が個別の与信チェックをすべて1つの勘定科目にまとめることを要求する場合は、P の実行形式を使用できます。</p> <p>注: 親番号、または顧客番号のレベルで与信チェックが実行可能な場合でも、〈顧客売上更新〉プログラム(R42800)の実行時に売掛金勘定トランザクションはすべて[顧客No.]フィールド(SDAN8)に転記されます。</p>
請求書のコピー	VOINVC	数字	2	印刷する請求書コピーの部数。
請求書の連結	VOICON	文字	1	<p>顧客の請求書を連結するかどうかを示すコード。有効な値は次のとおりです。</p> <p>Y - 複数の受注オーダーから単一の請求書を生成 ブランク - レコードを処理した時点で N に更新</p>
請求頻度	BOBLFR	文字	1	<p>請求書を発行する形式を決めるときに、請求書の頻度を定義するコード。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • M - 月次 • W - 週次 • D - 日次 <p>このフィールドに入力する値は、UDC テーブル H42/BL (請求頻度)に存在している必要があります。ただし、システムでは上記の値だけが認識されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
次の請求書日付	VONIVD	日付	6	顧客の請求書を次回印刷する日付。データベースが受け入れる形式で指定してください。例としてデータ項目 VODLC を参照してください。 このフィールドと VOBLFR フィールドを組み合わせ、請求書の印刷頻度と印刷日が決まります。
ライセンス失効日	VOLEDJ	日付	6	ライセンスが失効する日付。
ピッキング・リストの印刷(Y/N)	VOPLST	文字	1	顧客のピッキング・リスト、購買オーダー、または受注オーダーに価格情報を表示するかどうかを示すコード。このフィールドを空白にすると、レコードを処理した時点で、Y に更新されます。
オーダーのマーヅ(Y/N)	VOMORD	文字	1	倉庫管理システムによる顧客オーダーの一括出荷とマーヅを防止するコード。
コミッションレート 1	VOCMR1	数字	7	コミッションを計算するときに、オーダー、またはオーダー行の総売上高、または売上総利益のいずれに適用するパーセント値。このパーセント値は、顧客請求指示によって提供される場合とオーダーに直接入力する場合があります。このフィールドの値は、COVMR2 フィールドと組み合わせ使用されます。
コミッション・コード 2	VOCMR2	数字	2	顧客への販売に対してクレジットを受け取るべき販売担当者を指定するコード。このコードは〈住所録の改訂〉プログラム(P01012)または〈関連販売担当者〉プログラム(P42100)を使って作成します。VOCMR2 フィールドと組み合わせ使用します。
コミッションレート 2	VOCMR2	数字	2	コミッションを計算するときに、オーダー、またはオーダー行の総売上高、または売上総利益のいずれに適用するパーセント値。このパーセント値は、顧客請求指示によって提供される場合とオーダーに直接入力する場合があります。VOCMR1 フィールドと組み合わせ使用します。
パレット・コントロール	VOPALC	文字	1	パレットの出荷を認めている顧客を識別するコード。
計量単位 - 容量表示	VOVUMD	文字	2	オーダーの数量を表す計量単位を示すコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 00/UM(計量単位)に存在している必要があります。このフィールドを空白にすると、在庫固定情報テーブル(F41001)に入力された値に更新されます。
計量単位 - 重量表示	VOWUMD	文字	2	オーダーの重量を表示するために計量単位を表すコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 00/UM(計量単位)に存在している必要があります。このフィールドを空白にすると、F41001 テーブルの値に更新されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
バッチ処理モード	VOEDPM	文字	1	顧客のバッチ処理を禁止するか、または顧客がテスト・モード/本稼働モードのいずれで実行するかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • I - 禁止。顧客はバッチ処理を実行できません。 • T - テスト・モード。レコードの処理時にレポートの作成だけをテストします。 • P - 本稼働用モード。レコードの処理時にレポートの作成とオーダーの処理を実行します。
品目タイプ ID	VOEDII	文字	1	電子データ交換(EDI)トランザクション用に転送する品目番号のタイプを指定するコード(たとえば UPC コードや仕入先部品番号など)。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/II(品目タイプ ID)に存在している必要があります。
顧客 ID	VOEDCI	文字	1	EDIトランザクション用に転送する番号のタイプを指定するコード(たとえば DUNS 電話番号など)。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/CI(顧客タイプ ID)に存在している必要があります。
数量の表示小数点以下桁数	VOEDQD	数字	1	この顧客の EDIトランザクションで使用するすべての数量フィールドに設定する表示小数点以下桁数。
金額の表示小数点以下桁数	VOEDAD	数字	1	この顧客の EDIトランザクションで使用するすべての金額フィールドに設定する表示小数点以下桁数。
配送票	VOEDF1	文字	1	顧客の配送票を印刷するかどうかを指定するコード。このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、N に更新されます。
品目の制約	VOEDF2	文字	2	仕入先に品目を発注するときに特定の制約を適用するかどうかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • I -〈品目制約〉フォームで設定されている場合のみ、品目を購入できます。 • E -〈品目制約〉フォームで設定されている場合は、品目を購入できません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
部分出荷可能(Y/N)	VOSI01	文字	1	顧客がオーダー全体の一括出荷を要求しているか、複数の部分出荷を認めているかを指定するコード。 このフィールドをブランクにすると、レコードを処理した時点で、Yに更新されます。 注: 部分出荷可能は、〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)で引受可能数量チェックがオンの状態でオーダーを追加する場合にのみ有効になります。このプログラム以外では、すべての行をまとめて、1つのオーダーに一括することはできません。ピッキング・リスト、または出荷確認で実行した引受可能数量チェックでは、すべての行がオーダーに組み込まれているかどうかは保証されません。
COA 印刷(Y/N)	VOSI02	文字	1	分析証明を指定するコード。
特殊指示 03	VOSI03	文字	10	将来使用に予約されています。
特殊指示 04	VOSI04	文字	10	将来使用に予約されています。
特殊指示 05	VOSI05	文字	10	将来使用に予約されています。
販売価格基準日	VOCP01	文字	1	受注見出し(F4201)と受注明細(F4211)で価格有効日付を決定する方法を指定する値。受注管理システムでは、[価格有効日付]フィールド(PEFJ)を使用して品目基本価格(F4106)テーブルから基本価格、また価格調整明細(F4072)テーブルから調整価格を検索します。
価格および調整スケジュール	VOASN	文字	8	価格調整スケジュールを表すコード。価格調整スケジュールには、顧客または品目に該当する調整タイプが含まれます。スケジュールで指定された順序に従って調整されます。顧客請求指示を通じて、顧客と価格調整スケジュールを連結します。受注オーダーを入力すると、販売先住所に関連したスケジュールがオーダー見出しにコピーされます。明細行レベルでスケジュールを一時変更することができます。 契約管理の場合、これは契約ペナルティ・スケジュールとして使用されます。契約ペナルティ・スケジュールの情報により、ペナルティの条件を適用する基準が規定されます。 このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/AS (価格調整スケジュール)に存在している必要があります。
請求書の価格調整(Y/N)	VODSPA	文字	1	請求書に価格調整明細を印刷するかどうかを指定するコード。 上級価格調整システムを使用している場合にのみ、このフィールドが有効になります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
プログラム名 - 出荷ラベル	VOSLPG	文字	10	顧客宛の出荷ラベルを印刷するときに使用するプログラムの名前。
バージョン名 - 出荷ラベルプログラム	VOSLDW	文字	10	顧客宛の出荷ラベルを印刷するときに使用するプログラムのバージョン。
ピッキング/パッケージの構成	VOCFPP	文字	18	顧客で要求されるデフォルトのピッキング/パッケージ構成。
構成標準カートン・パック	VOCFSP	文字	18	顧客が要求するデフォルトの標準カートンパッケージ構成。
デフォルト構成	VOCDFD	文字	1	顧客が要求するデフォルトのカートンパッケージ構成。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1 - ピッキング/パッキングの構成 2 - 標準カートン構成 blank - この顧客には UCC128 処理は実行されません。
梱包コード必須	VORQ01	文字	1	顧客に梱包コードが必要かどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1 - 顧客に梱包コードが必要 blank - 梱包コードは不要
重量コード必須	VORQ02	文字	1	顧客に重量コードが必要かどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1 - 顧客に重量コードが必要 blank - 重量コードは不要
ID 必須 - コード 1	VORQ03	文字	1	顧客に ID コードが必要かどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1 - 顧客に ID コードが必要このフィールドに“1”を入力する場合は、CODR03 フィールドにも値を入力する必要があります。 blank - ID コードは不要
ID 必須 - コード 2	VORQ04	文字	1	顧客に ID コードが必要かどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1 - 顧客に ID コードが必要このフィールドに“1”を入力する場合は、CODR04 フィールドにも値を入力する必要があります。 blank - ID コードは不要
輸送方法必須	VORQ05	文字	1	顧客に輸送方法が必要かどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1 - 顧客に輸送方法が必要 blank - 輸送方法は不要

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
工程必須	VORQ06	文字	1	顧客に工程の記述が必要かどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1 - 顧客に工程の記述が必要 ブランク - 工程の記述は不要
設備指定必須	VORQ07	文字	1	顧客に設備コードが必要かどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1 - 顧客に設備コードが必要 ブランク - 設備コードは不要
参照番号 1 必須	VORQ08	文字	1	顧客に参照番号が必要かどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1 - 顧客に参照番号が必要このフィールドに“1”を入力する場合は、VODR08 フィールドにも値を入力する必要があります。 ブランク - 参照番号は不要
参照番号 2 必須	VORQ09	文字	1	顧客に参照番号が必要かどうかを示す値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1 - 顧客に参照番号が必要このフィールドに“1”を入力する場合は、VODR09 フィールドにも値を入力する必要があります。 ブランク - 参照番号は不要
デフォルト識別コード修飾子 1	VODR03	文字	2	この顧客に使用するデフォルトの ID コード修飾子の値。このコードは在庫管理システムで使用されます。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 41/X6 (X12 参照番号修飾子)に存在している必要があります。
デフォルト識別コード修飾子 2	VODR04	文字	2	この顧客に使用するデフォルトの ID コード修飾子の値。このコードは在庫管理システムで使用されます。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 41/X6 (X12 参照番号修飾子)に存在している必要があります。
デフォルト参照番号修飾子 1	VODR08	文字	2	この顧客に使用するデフォルト参照番号修飾子の値。このコードは在庫管理システムで使用されます。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 41/X6 (X12 参照番号修飾子)に存在している必要があります。
デフォルト識別コード修飾子 2	VODR09	文字	2	この顧客に使用するデフォルト参照番号修飾子の値。このコードは在庫管理システムで使用されます。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 41/X6 (X12 参照番号修飾子)に存在している必要があります。

F03012Z1 の無視されるフィールド

F03012Z1 テーブルで無視されるフィールドを次に記載します。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション 入力者	VOTORG	文字	10	これらのフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。これらのフィールドに値を入力すると、入力項目の処理時に値が上書きされます。
ユーザーID	VOUSER	文字	10	
プログラムID	VOPID	文字	10	
ワークステーションID	VOJOBN	文字	10	
最終更新時刻	VOUPMT	数字	6	
更新日付	VOUPMJ	日付	6	
時刻	VOTDAY	日付	6	
EDI - 伝票タイプ	VOEDCT	文字	2	
EDI - 換算形式	VOEDFT	文字	10	
EDI - アップロード日付	VOEDDT	日付	6	
元帳の照会順序	VOSQNL	文字	1	
自動入金アルゴリズム	VOALGM	文字	2	
繰越残高/オープン品目	VOBO	文字	1	
与信チェック取扱コード	VOCKHC	文字	1	
売掛金回収平均日数	VODSO	数字	5	
Dunning レター送付	VODLQT	数字	3	
前回の Dunning レター送付日付	VODLQJ	日付	6	
送付する延滞通知数	VONBRR	文字	1	

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
送付済み通知数 -1	VONBR1	数字	3	
送付済み通知数 -2	VONBR2	数字	3	
送付済み通知数 -3	VONBR3	数字	3	
延滞利息日数	VOFD	数字	3	
延滞利息金 - 項目の作成 (Y/N)	VOCFCE	文字	1	
入金の保留	VOAB2	文字	1	
日付 - 手持財 務諸表	VOFNDJ	日付	6	
売掛金回収遅延 平均日数	VOAVD	数字	3	
最高残高	VOAHB	数字	15	
送付方法	VOCRMD	文字	1	
最高残高	VOAHB	数字	15	
経営の与信限度 額	VOAMCR	数字	15	

F03012Z1 のユーザー予約フィールド

F03012Z1 テーブルのユーザー予約フィールドを次に記載します。これらのフィールドは、J. D. Edwards プログラムでは更新されません。住所録システム、売掛管理、受注管理の各システムのどのフォームでもこれらのフィールドは表示されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
金額 - 住所録	VOABAM	数字	15	ユーザー定義の金額フィールド。データベースが受け入れる形式で指定してください。
金額 - 住所録	VOABA1	数字	15	ユーザー定義の金額フィールド。データベースが受け入れる形式で指定してください。
ユーザー予約コ ード	VOURCD	文字	3	ユーザー定義のコード。3文字以内の英数字を使用できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ユーザー予約 日付	VOURDT	日付	6	日付を示す値。データベースが受け入れる形式で指定してください。 詳細はデータ項目 VOEBDT を参照してください。
ユーザー予約 金額	VOURAT	数字	15	ユーザー定義の金額フィールド。データベースが受け入れる形式で指定してください。
ユーザー予約 番号	VOURAB	数字	8	8桁までのユーザー定義の番号フィールド。
ユーザー予約 参照	VOURRF	文字	15	15桁までのユーザー定義の英数字フィールド。

仕入先マスター・アップロード・テーブル(F0401Z1)のフィールド

このセクションでは、仕入先マスター・アップロード・テーブル(F0401Z1)のフィールドの一覧を記載します。一部は〈仕入先マスター・バッチのアップロード〉プログラム(R04010Z)の実行において必須フィールドとなります。その他は必須ではありません。住所録システム、または買掛管理、調達管理システムで、すべてのフィールドが表示、使用されるわけではありません。

F0401Z1 の必須フィールド

F0401Z1 テーブルの必須フィールドを次に記載します。フィールドによっては、ブランクが有効な値となることもあります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - ユーザー ID	VOEDUS	文字	10	ユーザー定義の ID 番号。〈仕入先マスター・バッチのアップロード〉プログラムの実行者のユーザーID、またはワークフロー・メッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドと、VOEDTN および VOEBDT の各フィールドを組み合わせることにより、トランザクションを一意に識別できます。
EDI - バッチ番 号	VOEDBT	文字	15	〈仕入先マスター・バッチのアップロード〉プログラムの実行者が各バッチに割り当てる番号。このフィールドが変更されるたびに、新しいバッチ番号が割り当てられます。処理する各トランザクション・グループに1つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上することができます。
EDI - トランザク ション番号	VOEDTN	文字	22	各トランザクションを識別する番号。各トランザクション番号ごとに、異なる住所録レコードを示します。1つのバッチの中で、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。通常このフィールドには、送信者がトランザクションを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 行番号	VOEDLN	数字	7	<p>トランザクションが受信か送信かを識別する数値。</p> <p>受信処理の場合は、“0”(ゼロ)を入力します。</p> <p>送信処理の場合、レコードが変更前トランザクションであれば1、変更後トランザクションであれば2に更新されます。仕入先マスターMBF (P0400047)の処理オプションにより、テーブルに変更前トランザクションの書込みを行うかどうかを指定します。</p>
EDI - 処理済み	VOEDSP	文字	1	<p>トランザクションが正常に処理されたかどうかを示す値。このフィールドはブランクにしてください。Nは、トランザクションがエラーになったという意味です。</p> <p>トランザクションが正常に終了すると、値がYに変わります。</p>
トランザクション・アクション	VOTNAC	文字	2	<p>実行すべきトランザクションを示す値。Aは新しいトランザクションを示します。Cは既存の伝票の変更を意味します。変更処理は、追加処理後に行う必要があります。</p> <p>送信処理の場合、このフィールドはUA(変更後トランザクション)またはUB(変更前トランザクション)に自動的に更新されます。仕入先マスターMBF (P00400047)の処理オプションがオンになっている場合にのみ、このフィールドにUBが使用されます。</p>
住所番号	VOAN8	数字	8	<p>仕入先を識別する固有番号。このフィールドに入力する値は、F0101テーブルに存在している必要があります。この値がないと、レコードは処理されません。</p>
通貨コード - 住所録の金額	VOCRCA	文字	3	<p>このフィールドは、多通貨がオンになっている場合に限り、表示されます。</p> <p>住所録の通貨を示す文字コード。このフィールドに入力する値は、VOAYPDとOAPPDフィールドの通貨を示します。このフィールドに入力する値は、通貨コード・テーブル(F0013)に存在している必要があります。</p> <p>このフィールドをブランクにすると、仕入先マスター(P04012)の処理オプションで入力した値が使用されます。処理オプションをブランクにすると、このフィールドは、F0101テーブルのビジネスユニットの会社に対応する通貨コードで更新されます。</p>

買掛管理システム(04)で使用される F0401Z1 の任意フィールド

次に、買掛管理システムで使用される F0401Z1 テーブルの任意フィールドを記載します。これらのフィールドにより、トランザクションに関する追加情報を記述します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	VOTYTN	文字	2	トランザクションのタイプを識別する値。このフィールドを空白にすると、仕入先マスター-MBF(P0400047)のトランザクション・タイプの処理オプションの値が使用されます。 送信処理を使用する場合の必須フィールドです。
送受信インジケータ	VODRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを指定する値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 空白 - 受信 • 2 - 送信
EDI - 明細行処理済み	VOEDDL	数字	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数。これは参考用のフィールドです。
取引先 ID	VOPNID	文字	15	電子データ交換(EDI)で、取引先を識別するために使用する値。
元帳クラス	VOAPC	文字	4	会社番号と組み合わせることにより、トランザクションを転記する先の買掛金勘定を指定する値。AAI PCxxxx (xxxx は [元帳クラス] フィールドの値) で設定した勘定科目は、後処理で使用します。AAI は会社別に、またはデフォルトの会社 00000 に対して設定できます。 このフィールドの値は、仕入先用として入力するすべての買掛伝票のデフォルトとなります。 トランザクションが AAI PC での指定以外の勘定科目をオフセットするように指示する場合を除いては、このフィールドに値は入力しないでください。
ビジネスユニット - 買掛金デフォルト	VOMCUP	文字	12	VOOBAP および VOAIDP フィールドと組み合わせることにより、伝票を入力すると自動的に〈勘定科目情報〉フォームに供給されるデフォルトの経費勘定を指定する値。 モデル仕訳のフィールド (VOKCOP, VODCAP, VODTAP) に値を入力する場合は、デフォルトの費用勘定は指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、この値がデフォルトの費用勘定よりも優先されます。
主科目 - 買掛金デフォルト	VOOBAP	文字	6	VOMCUP および VOAIDP フィールドと組み合わせることにより、伝票を入力すると自動的に〈勘定科目情報〉フォームに供給されるデフォルトの経費勘定を指定する値。 モデル仕訳のフィールド (VOKCOP, VODCAP, VODTAP) に値を入力する場合は、デフォルトの費用勘定は指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、この値がデフォルトの費用勘定よりも優先されます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
補助科目 - 買掛金デフォルト	VOAIDP	文字	8	VOMCUP および VOOBAP フィールドと組み合わせることにより、伝票を入力すると自動的に〈勘定科目情報〉フォームに供給されるデフォルトの経費勘定を指定する値。 モデル仕訳のフィールド (VOKGOP, VODCAP, VODTAP) に値を入力する場合は、デフォルトの費用勘定は指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、この値がデフォルトの費用勘定よりも優先されます。
伝票会社 - 買掛金モデル	VOKGOP	文字	5	VODCAP および VODTAP フィールドと組み合わせることにより、取引明細テーブル(F0911)のモデル仕訳を指定する番号。この値は検証されません。 有効なモデル仕訳を入力すると、伝票を入力する際に〈勘定科目情報〉フォームで指定した勘定が使用されます。 デフォルトの費用勘定のフィールド(VOMCUP、VOOBAP、VOAIDP)に値を入力するときは、モデル仕訳のフィールドは指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、この値がデフォルトの費用勘定よりも優先されます。
伝票番号	VODCAP	数字	8	VOKGOP および VODTAP フィールドと組み合わせることにより、F0911 テーブルのモデル仕訳を指定する番号。有効なモデル仕訳を入力すると、伝票を入力する際に〈勘定科目情報〉フォームで指定した勘定が使用されます。 デフォルトの費用勘定のフィールド(VOMCUP、VOOBAP、VOAIDP)に値を入力するときは、モデル仕訳のフィールドは指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、この値がデフォルトの費用勘定よりも優先されます。
伝票タイプ - 買掛金モデル	VODTAP	文字	2	VOKGOP および VODCAP フィールドと組み合わせることにより、F0911 テーブルのモデル仕訳を指定する番号。入力する値の妥当性はチェックされません。 有効なモデル仕訳を入力すると、伝票を入力する際に〈勘定科目情報〉フォームで指定した勘定が使用されます。 デフォルトの費用勘定のフィールド(VOMCUP、VOOBAP、VOAIDP)に値を入力するときは、モデル仕訳のフィールドは指定しないでください。モデル仕訳を入力すると、この値がデフォルトの費用勘定よりも優先されます。
通貨コード	VOCRRP	文字	3	このフィールドは、多通貨がオンになっている場合に限り、表示されます。 この仕入先の伝票を入力する際に使用される通貨を表すコード。通貨コード・テーブル(F0013)にある値を入力してください。 このフィールドを空白にすると、買掛伝票に入力された会社に対応する通貨が使用されます。
税率/税域	VOTXA2	文字	10	この仕入先の伝票に使用する納税先を識別するコード。税域テーブル(F4008)にある値を入力してください。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
税目コード	VOEXR2	文字	2	この仕入先の伝票に使用する税金タイプを識別するコード。このフィールドには、UDC テーブル 00/EX(税目コード)にある値を入力してください。
支払保留コード	VOHDPY	文字	1	この仕入先に対する買掛伝票と支払を入力するかどうかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> 1 または Y - 未処理の買掛伝票の支払を保留し、新しい買掛伝票の入力を禁止します。 2 - 未処理の買掛伝票の支払を保留しますが、新しい買掛伝票の入力は許可します。 N - 買掛伝票と支払の入力を許可します。 このフィールドをブランクにすると、N が使用されます。
税域 - 源泉徴収	VOTXA2	文字	10	仕入先の源泉徴収税に使用する納税先を識別するコード。このフィールドの値は、仕入先マスター(F0401)に書き込まれます。このフィールドは、買掛管理システムでは表示されません。
税目コード - 源泉徴収	VOEXR3	文字	2	仕入先に使用される源泉徴収税のタイプを表す値。このフィールドに入力する値はいつでも、F0401 テーブルに書き込まれます。このフィールドは、買掛管理システムでは表示されません。
納税先	VOTAWH	数字	8	仕入先の源泉徴収税の納税先を指定する番号。このフィールドには、F0101 テーブルにある値を入力してください。
税率	VOPCWH	数字	5	仕入先への支払から留保する源泉徴収税の比率を指定する数値。この値は、小数点以下桁数を使って表します。たとえば 20%は“0.20”と表されます。
支払条件	VOTRAP	文字	3	仕入先に適用可能な割引の期日と金額を指定するコード。このフィールドの値は、仕入先用の伝票すべてに入力されます。このフィールドに入力する値は、支払条件テーブル(F0014)に存在している必要があります。
複数支払	VOSCK	文字	1	買掛伝票の支払項目ごとに個別の小切手を発行するかどうかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> Y - 買掛伝票の支払項目ごとに個別の小切手を発行します。 N - 支払項目の数に関係なく、この買掛伝票に対して 1 枚の小切手を発行します。 C - 契約ごとに小切手を 1 枚発行して、契約番号またはジョブ番号に従い各小切手を照合します。 このフィールドをブランクにすると、N が使用されます。
支払手段	VOPYIN	文字	1	仕入先への支払形式を指定するコード。UDC テーブル 00/PY(支払手段)に設定されている値を入力してください。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
承認者	VOSNTO	数字	8	仮伝票を使って記録された伝票の承認担当者を識別する番号。このフィールドには、F0101 テーブルにある値を入力してください。
事前通知コード	VOAB1	文字	1	仕入先の電子資金決済(EFT)処理のステータスがセットアップ中かどうかを示すコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • P - 事前通知ステータス。仕入先に対して小切手を発行し、検証用の銀行テープ・テーブルへの入力を行います。このステータスでは電子資金決済は実行されません。 • N - 銀行が仕入先の口座情報を受け取り、検証を完了しました。この仕入先への今後の支払は、EFT を使って行われます。 このフィールドを空白にすると、最初の支払の処理時に P が割り当てられます。
支払の浮動日数	VOFLD	数字	3	支払の支払日付に追加される日数を表す数値。この数値によって、自動支払が実行される際に買掛金支払明細(F0414)の決済日が更新されます。
年累計買掛伝票金額	VOAYPD	数字	15	現行年度中に作成された買掛伝票の金額を表す値。データベースによって、小数点以下桁数が指定できる場合とできない場合があります。 複数通貨を使用する場合は、金額には VOCRCA フィールドに入力した通貨が使われます。 このフィールドは、〈年累計伝票金額の更新〉プログラム(R04820A)を使って更新します。
前年度買掛伝票金額	VOAPPD	数字	15	前年度中に入力された伝票の金額を表す値。この値は〈年累計伝票金額の更新〉プログラムを実行すると更新されます。

調達管理システム(43)で使用される F0401Z1 の任意フィールド

次に、調達管理システムで使用される F0401Z1 テーブルの任意フィールドを記載します。これらのフィールドにより、トランザクションに関する追加情報を記述します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
ピッキング・リストに価格を印刷(Y、N、2)	VOPLST	文字	1	購買オーダーに正味価格情報を記載するかどうかを示すコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • Y - 印刷する • N - 印刷しない • 2 - 基本価格調整と正味価格を印刷する
受注残額	VOAPRC	数字	15	仕入先のオーダーの発注残の合計金額を表す値。値引テーブルまたは一時変更価格によって保管場所品目(F41021)のリスト価格を調整します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
最小オーダー金額	VOMAXO	数字	15	オーダーに入力できる最低金額を示す値。オーダーの金額がこのフィールドの値を下回ると、エラーが返されます。
最大オーダー金額	VOMAXO	数字	15	オーダーに入力できる最高金額を示す値。オーダーの金額がこのフィールドの値を上回ると、エラーが返されます。
関連住所番号	VOAN8R	数字	8	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
請求住所タイプ	VOBADT	数字	8	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
顧客価格グループ	VOCPGP	数字	8	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
オーダー・プレート	VOORTP	文字	8	最も頻繁に注文される品目のリストを示すコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/OT(オーダー・プレート)に存在している必要があります。
印刷メッセージ	VOINMG	文字	10	購買オーダーに印刷されるメッセージを示すコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/PM(印刷メッセージ)に存在している必要があります。
保留オーダーコード	VOHOLD	文字	2	オーダーが保留された理由を示すコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 42/HC(コード保留)に存在している必要があります。
承認経路コード	VOROUT	文字	3	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
中継点コード	VOSTOP	文字	3	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
配送区域番号	VOZON	文字	3	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
運送業者番号	VOCARS	数字	8	顧客または自社が指定した運送業者の住所番号を示す値。このフィールドを使用して、経路や特別取扱の要件を指定します。このフィールドには、F0101 テーブルにある値を入力してください。
配送指示行 1	VODEL1	文字	30	配送指示を入力する情報フィールド。
配送指示行 2	VODEL2	文字	30	配送指示を入力する情報フィールド。
日数	VOLTDT	数字	5	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
貨物取扱コード	VOFRTH	文字	5	仕入先または運賃の負担者への貨物の配送に使用する方法を示すコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 42/FR(貨物取扱コード)に存在している必要があります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
購買オーダー等のコピー枚数	VOINVC	数字	2	この仕入先に対して印刷する購買オーダーの数を指定する値。
計量単位 - 重量表示	VOVUMD	文字	2	オーダーの重量に対して表示する計量単位を指定するコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 00/UM(計量単位)に存在している必要があります。このフィールドをブランクにすると、在庫固定情報テーブル(F41001)に入力された値に更新されます。
計量単位 - 容量表示	VOVUMD	文字	2	オーダーの数量を表す計量単位を示すコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 00/UM(計量単位)に存在している必要があります。このフィールドをブランクにすると、F41001 テーブルに入力された値に更新されます。
陸揚費用規則	VOPRP5	文字	3	業者手数料やコミッションなど、品目の価格を超える購買価格を示すコード。陸揚費用規則は、〈陸揚費用の改訂〉プログラム(P41291)で設定します。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 41/P5(陸揚費用規則)に存在している必要があります。
バッチ処理モード	VOEDPM	文字	1	仕入先をバッチ処理から除外するか、またはテスト・モード/本稼働モードのいずれで実行するかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • I - 禁止。バッチ処理用の仕入先がありません。 • T - テスト・モード。レコードの処理時にレポートの作成だけをテストします。 • P - 本稼働用モード。レコードの処理時にレポートの作成とオーダーの処理を実行します。
仕入先タイプ ID	VOEDCI	文字	1	DUNS 番号や電話番号など、EDIトランザクション用に転送する番号のタイプを指定するコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/CI(顧客タイプ ID)に存在している必要があります。
品目タイプ ID	VOEDII	文字	1	UPC コードや仕入先部品番号など、EDIトランザクションで転送する品目番号のタイプを指定するコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 40/II(品目タイプ ID)に存在している必要があります。
数量の表示小数点以下桁数	VOEDQD	数字	1	この仕入先の EDIトランザクションで使用するすべての数量フィールドに設定する表示小数点以下桁数を指定する値。
金額の表示小数点以下桁数	VOEDAD	数字	1	この仕入先の EDIトランザクションで使用するすべての金額フィールドに設定する表示小数点以下桁数を指定する値。
配送票	VOEDF1	文字	1	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
品目の制約	VOEDF2	文字	2	仕入先に品目を発注するときに特定の制約を適用するかどうかを指定するコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • ブランク - 制約なし • I - 品目は、〈品目制約〉フォームで設定されている場合にのみ購入できます。 • E - 品目は、〈品目制約〉フォームで設定されていると、購入できません。
仕入先/親レポート・レベル	VOVI01	文字	1	レポート・システムが基準とする組織レベルを示すコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 43/RL (レポート・レベル) に存在している必要があります。
仕入先レポート・コード	VOVI02	文字	1	この支払先でレポートをオンにするかどうかを指定するコード。このフィールドに入力する値は、UDC テーブル 43/RA (仕入先レポート・コード) に存在している必要があります。
特殊指示 3	VOVI03	文字	1	将来使用に予約されています。
特殊指示 4	VOVI04	文字	1	将来使用に予約されています。
特殊指示 5	VOVI05	文字	1	将来使用に予約されています。
最小小切手金額	VOMNSC	文字	1	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
住所タイプ・コード 5	VOATO	文字	1	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
収益正味計算 (Y/N)	VORVNT	文字	1	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
価格および調整スケジュール	VOASN	文字	8	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。
送付方法	VOCRMD	文字	1	このフィールドは調達管理システムでは使用されないため、いずれのフォームにも表示されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
評価済み入荷決済	VOAVCH	文字	1	<p>入荷に基いて伝票を送信するという合意が仕入先との間にあるかどうかを示すコード。仕入先は請求書を送信せず、く支払入力(伝票突合せあり)プログラムをバイパスできます。代わりにく評価済み入荷の決済プログラム(R43800)が使われます。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • N - 評価済み入荷決済には適していません。 • Y - 評価済み入荷決済に適しています。 • T - 評価済み入荷決済に適していますが、入荷処理中に許容エラーが生まれました。 • R - 評価済み入荷決済に適していますが、現在入荷工程処理中です。 • V - 評価済み入荷決済処理を使用して、入荷トランザクションの伝票が処理されました。

F0401Z1 の無視されるフィールド

F0401Z1 テーブルで無視されるフィールドを次に記載します。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション入力者	VOTORG	文字	10	これらのフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。これらのフィールドに値を入力すると、入力項目の処理時に値が上書きされます。
ユーザーID	VOUSER	文字	10	
プログラムID	VOPID	文字	10	
ワークステーションID	VOJOBN	文字	10	
更新日付	VOUPMJ	日付	6	
最終更新時刻	VOUPMT	数字	6	
時刻	VOTDAY	日付	6	
EDI - 伝票タイプ	VOEDCT	文字	2	
EDI - 換算形式	VOEDFT	文字	10	
EDI - アップロード日付	VOEDDT	日付	6	

F0401Z1 のユーザー予約フィールド

F0401Z1 テーブルのユーザー予約フィールドを次に記載します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
金額 - 住所録	VOABAM	数字	15	金額を表すユーザー定義の数値。データベースが受け入れる形式で指定してください。
金額 - 住所録	VOABA1	数字	15	金額を表すユーザー定義の数値。データベースが受け入れる形式で指定してください。
ユーザー予約コード	VOURCD	文字	3	3文字以内の英数字からなるユーザー定義のコード。
ユーザー予約日付	VOURDT	日付	6	日付を表すユーザー定義の値。データベースが受け入れる形式で指定してください。 詳細はデータ項目 VOEBDT を参照してください。
ユーザー予約金額	VOURAT	数字	15	金額を表すユーザー定義の値。データベースが受け入れる形式で指定してください。
ユーザー予約番号	VOURAB	数字	8	8桁までのユーザー定義の番号。
ユーザー予約参照	VOURRF	文字	15	15文字以内の英数字からなるユーザー定義の値。

連絡先情報アップロード・テーブル(F0111Z1)のフィールド

このセクションでは、連絡先情報アップロード・テーブル(F0101Z1)のフィールドの一覧を記載します。一部は「連絡先情報バッチのアップロード」プログラム(R011110Z)の実行において必須フィールドとなります。その他は必須ではありません。これらすべてのフィールドが住所録フォームで表示されたり、住所録システムで使用されるわけではありません。

F0111Z1 の必須フィールド

F0111Z1 テーブルの必須フィールドを次に記載します。フィールドによっては、空白が有効な値となることもあります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - ユーザー ID	CBEDUS	文字	10	ユーザーを識別する番号。プロセスの実行者またはワークフロー・メッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドと、CBEDTN および CBEDBT の各フィールドを組み合わせることにより、トランザクションを一意に識別できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - バッチ番号	CBEDBT	文字	15	<p>データの特定のバッチを識別する番号。このフィールドと、CBEDTN および CBEDUS の各フィールドを組み合わせることにより、特定のバッチにあるトランザクションを一意に識別できます。</p> <p>このフィールドはレベル区切りとしても使用され、この値が変わるごとにバッチ番号が新しく割り当てられます。F01151Z1 (EBEDBT)、F01161Z1 (LBEDBT)、または F01112Z1 (PBEDBT) の [EDI - バッチ番号] フィールドに対応し、整合する固有のバッチ番号を処理対象の各トランザクションに割り当てる必要があります。</p>
EDI - トランザクション番号	CBEDTN	文字	22	<p>各トランザクションを識別する番号。各トランザクション番号ごとに、異なる住所録レコードを示します。1 つのバッチの中で、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。通常このフィールドには、送信者がトランザクションを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれます。</p>
EDI - 行番号	CBEDLN	数字	7	<p>バッチジョブが受信処理、送信処理のどちらかを示す番号。</p> <p>受信処理の場合は、“0” (ゼロ) を入力します。</p> <p>送信処理の場合は、このフィールドはブランクにします。レコードが変更前トランザクションであれば 1、変更後トランザクションであれば 2 に自動的に更新されます。住所録 MBF (P0100041) の処理オプションにより、テーブルに変更前トランザクションの書込みを行うかどうかを指定します。</p>
EDI - 処理済み	CBEDSP	文字	1	<p>トランザクションが正常に処理されたかどうかを示す値。このフィールドはブランクにしてください。N は、トランザクションがエラーになったという意味です。</p> <p>トランザクションが正常に終了すると、値が Y に変わります。</p>
トランザクション・アクション	CBTNAC	文字	2	<p>実行すべきトランザクションを示す値。A は新しいトランザクションを示します。C は既存の伝票の変更を意味します。変更処理は、追加処理後に行う必要があります。</p> <p>送信処理の場合、このフィールドは UA (変更後トランザクション) または UB (変更前トランザクション) に自動的に更新されます。住所録 MBF (P0100041) の処理オプションがオンになっている場合にのみ、このフィールドに UB が使用されません。</p>
名称	CBALPH	文字	40	<p>検索機能を最適化するため通常は姓、名の形式で入力する名称。〈住所録の検索〉プログラム (P01BDWRD) では、このフィールドが使用されます。</p>

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
住所番号	CBAN8	数字	8	顧客を識別する値。 このフィールドに入力する値は、住所録マスター・テーブル (F0101) に存在している必要があります。この値がないと、レコードは処理されません。
人名録行	CBIDLN	数字	5	人名録項目を住所録番号に関連付ける値。
郵送宛名	CBMLNM	文字	40	通信文の送付先の会社または個人の名前を表す英数値。

F0111Z1 の任意フィールド

F0111Z1 テーブルの任意フィールドを次に記載します。これらのフィールドにより、トランザクションに関する追加情報を記述します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	CBTYTN	文字	8	トランザクションのタイプを識別する値。このフィールドを空白にすると、連絡先情報 MBF PO(P0100069)のトランザクション・タイプの処理オプションの値が使用されます。 送信処理を使用する場合の必須フィールドです。
送受信インジケータ	CBDRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを指定する値。受信トランザクションの場合は、このフィールドを空白にします。送信トランザクションの場合は"2"を入力します。
EDI - 明細行処理済み	CBEDDL	数字	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数。これは参考用のフィールドです。
取引先 ID	CBPNID	文字	15	電子データ交換(EDI)で、取引先を識別するために使用する値。
表示順序	CBDSS5	数字	5	レコードのグループの表示順序を指定するコード。連絡先の各入力項目の表示順序を指定できます。
連絡先役職	CBATTL	文字	40	連絡先の役職を示す値。
備考	CBREM1	文字	40	注記、説明、名前などを記述する情報フィールド。住所録システムではどのフォームでもこのフィールドは表示されません。
敬称/役職名	CBSLNM	文字	40	名字の前に使用する敬称を表す情報コード。通常、通信文の冒頭部分で使用します。
名称(カナ)	CBALP1	文字	30	宛名のフリガナ用フィールド。
名	CBGNNM	文字	25	個人の名。これは、参考用のフィールドです。
ミドル・ネーム	CBMDNM	文字	25	個人のミドル・ネーム。これは、参考用のフィールドです。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
名字	CBSRNM	文字	25	個人の名字。これは参考用のフィールドです。
タイプ・コード	CBTYC	文字	1	連絡先(人名録)の入力項目の機能を識別するユーザー定義コード。タイプ・コードの例は、次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • A - 気付名 • B - 請求 • C - 連絡先 • E - 緊急連絡先 • O - その他 • T - 1099 用会社名 このフィールドには、UDC テーブル 01/WO(タイプ・コード)で定義されている値を入力する必要があります。
略称など	CBNICK	文字	40	個人のニックネームに使用する情報フィールド。ニックネームは、住所番号の人名録行に関連付けられます。
性別	CBGEND	文字	1	個人の性別を示すコード。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • M - 男性 • F - 女性
住所の有効日付	CBEFTW	日付	8	代替住所テーブル(F01161)の住所が有効になる日付。
生年月日	CBDDATE	数字	2	生年月日の日を示す数字。
誕生月	CBDMON	数字	2	生年月日の月を示す数字。
誕生年	CBDYR	数字	4	生年月日の年を示す数字。
人名録カテゴリ・コード 01 - 10	CBW001 - CBW010	文字	3	カテゴリ・コード。カテゴリ・コード・フィールドには、対応するUDC テーブル 01/W0-01/WT で定義されている値を入力する必要があります。
連絡先情報カテゴリ・コード 01 - 10	CBWN001 - CBWN010	文字	3	カテゴリ・コード。カテゴリ・コード・フィールドには、対応するUDC テーブル 01/N1-01/NA で定義されている値を入力する必要があります。

F0111Z1 の無視されるフィールド

F0111Z1 テーブルで無視されるフィールドを次に記載します。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 伝票タイプ	CBEDCT	文字	2	これらのフィールドは無視されます。
EDI - トランザクション・フォーマット	CBEDFT	文字	10	
EDI - アップロード日付	CBEDDT	日付	6	
圧縮記述	CBDC	文字	40	これらのフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。これらのフィールドに値を入力すると、入力項目の処理時に値が上書きされます。
トランザクション入力者	CBTORG	文字	10	
ユーザーID	CBUSER	文字	10	
プログラムID	CBPID	文字	10	
ワークステーションID	CBJOBN	文字	10	
更新日付	CBUPMJ	日付	6	
時刻	CBTDAY	日付	6	
最終更新時刻	CBUPMT	数字	6	

F0111Z1 のユーザー予約フィールド

F0111Z1 テーブルのユーザー予約フィールドを次に記載します。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
補助郵送宛名	CBMLN1	文字	1	宛名のフリガナ用フィールド。
検索タイプ	CBAT1	文字	3	レコードを仕入先、顧客、従業員、会社など特定のグループの一部として識別する値。このフィールドには、UDC テーブル 01/ST (検索タイプ) で定義されている値を入力する必要があります。
アクティブ/非アクティブ・フラグ	CBCCAI	文字	1	通貨の関係を活動/非活動として指定するインジケータ。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
連絡先タイプ	CBNTYP	文字	3	影響者、競争相手など、連絡先の役割を示すユーザー定義の値。このフィールドには、UDC テーブル 01/CT (連絡先タイプ) で定義されている値を入力する必要があります。

関連先アップロード・テーブル(F01112Z1)のフィールド

このセクションでは、関連先アップロード・テーブル(F01112Z1)のフィールドの一覧を記載します。一部は〈連絡先情報/バッチのアップロード〉プログラム(P011110Z)の実行において必須フィールドとなります。その他は必須ではありません。これらすべてのフィールドが住所録フォームで表示されたり、住所録システムで使用されるわけではありません。

F01112Z1 の必須フィールド

F01112Z1 テーブルの必須フィールドを次に記載します。フィールドによっては、空白が有効な値となることもあります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - ユーザーID	PBEDUS	文字	10	プロセスを実行している特定のユーザー、またはワークフロー・メッセージを受信すべき特定のユーザーを識別する番号。このフィールドと、PBEDTN および PBEDBT の各フィールドを組み合わせて使用することにより、特定のバッチにあるトランザクションを一意に識別できます。
EDI - バッチ番号	PBEDBT	文字	15	バッチを識別する値。このフィールドと、PBEDUS および PBEDTN の各フィールドを組み合わせて使用することにより、特定のバッチにあるトランザクションを一意に識別できます。この値が変更されるたびに、新しいバッチ番号が割り当てられます。各トランザクション・グループに1つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上することができます。
EDI - トランザクション番号	PBEDTN	文字	22	各トランザクションを識別する値。トランザクション番号が変わるごとに、関連先レコードが新しくなるということです。1つのバッチ内に、番号の重複するトランザクションを複数含むことはできません。通常このフィールドには、レコードを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 行番号	PBEDLN	数字	7	<p>バッチ・トランザクションが受信か送信かを識別する値。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> 0 - 受信処理 送信処理: <ul style="list-style-type: none"> 1 - 変更前トランザクション 2 - 変更後トランザクション <p>連絡先情報 MBF PO(P0100069)の処理オプションにより、テーブルに変更前トランザクションの書込みを行うかどうかを指定します。</p>
EDI - 処理済み	PBEDSP	文字	1	<p>トランザクションが正常に処理されたかどうかを示すシステム提供値。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> N - トランザクションが処理されなかった、あるいはエラーが発生 Y - 正常に処理が完了 <p>送信処理の場合、この値は N に更新されます。</p>
トランザクション・アクション	PBTNAC	文字	2	<p>受信処理の場合、トランザクションのタイプを指定する値。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> A - 新規レコード C - 既存の伝票の変更レコード追加を処理した後で、変更を処理します。 <p>送信処理の場合の有効値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> UA - 変更後トランザクション UB - 変更前トランザクション <p>連絡先情報 MBF PO(P0100069)の処理オプションがオンになっている場合にのみ UB に更新されます。</p>
住所番号	PBAN8	数字	8	<p>関連先を固有の住所録レコードに関連付ける値。このフィールドに入力する値は、住所録マスター・テーブル(F0101)に存在している必要があります。この値がないと、レコードは処理されません。</p>
人名録行	PBIDLN	数字	5	<p>人名録項目を住所録レコードに関連付ける値。</p>
関連先	PBRALP	文字	40	<p>関連先項目を住所録レコードに関連付ける値。</p>

F01112Z1 の任意フィールド

F01112Z1 テーブルの任意フィールドを次に記載します。これらのフィールドにより、トランザクションに関する追加情報を記述します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	PBTYTN	文字	8	処理されるトランザクションのタイプを識別する値。 このフィールドをブランクにすると、連絡先情報 MBF PO(P0100069)のトランザクション・タイプの処理オプションの値が使用されます。 送信処理を使用しているときは、必ずこのフィールドに値を入力してください。
送受信インジケータ	PBDRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを示す値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ブランク - 受信 2 - 送信
EDI - 明細行処理済み	PBEDDL	数字	5	電子データ交換(EDI)で、特定のトランザクションに含まれる明細行の数を指定するために使用する値。これは参考用のフィールドです。
取引先 ID	PBPNID	文字	15	電子データ交換(EDI)で、取引先を識別するために使用する値。
関連先 ID	PBCNLN	数字	5	人名録または連絡先のレコードを関連先に関連付ける値。各関連先レコードに対して固有の値を入力します。
関係タイプ	PBRELY	文字	5	連絡先と関連先の間関係を識別する値。このフィールドには、UDC テーブル 01/RT で定義されている値を入力する必要があります。
生年月日	PBDDATE	数字	2	関連先の生年月日の日を示す数字。
誕生月	PBDMON	数字	2	関連先の生年月日の月を示す数字。
誕生年	PBDYR	数字	4	生年月日の年を示す数字。
関連先カテゴリ・コード 01 - 10	PBCP001 - PBCP005	文字	3	住所録システムで定義され、関連先に関するレポート用に使用されるカテゴリ・コード。 このフィールドには、対応する UDC テーブル 01/CP001 - 01/CP005 で定義されている値を入力する必要があります。

F01112Z1 の無視されるフィールド

F01112Z1 テーブルで無視されるフィールドを次に記載します。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 伝票タイプ	PBEDCT	文字	2	これらのフィールドは無視されます。
EDI - トランザクション・フォーマット	PBEDFT	文字	10	
EDI - アップロード日付	PBEDDT	日付	6	
トランザクション入力者	PBTORG	文字	10	これらのフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。これらのフィールドに値を入力すると、入力項目の処理時に値が上書きされます。
ユーザーID	PBUSER	文字	10	
プログラムID	PBPID	文字	10	
ワークステーションID	PBJOBN	文字	10	
更新日付	PBUPMJ	日付	6	
時刻	PBTDAY	日付	6	
最終更新時刻	PBUPMT	数字	6	

電子メール・アドレス・アップロード・テーブル(F01151Z1)のフィールド

このセクションでは、電子メール・アドレス・アップロード・テーブル(F01151Z1)のフィールドの一覧を記載します。一部は〈連絡先情報バッチのアップロード〉プログラム(R011110Z)の実行において必須フィールドとなります。その他は必須ではありません。すべてのフィールドが住所録フォームで表示され、住所録システムで使用されるわけではありません。

F01151Z1 の必須フィールド

F01151Z1 テーブルの必須フィールドを次に記載します。フィールドによっては、ブランクが有効な値となることもあります。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - ユーザーID	EBEDUS	文字	10	ユーザー定義の ID 番号。プロセスの実行者またはワークフロー・メッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドと、EBEDTN および EBEDBT の各フィールドを組み合わせるにより、トランザクションを一意に識別できます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - バッチ番号	EBEDBT	文字	15	EBEDTN および EBEDUS の各フィールドと組み合わせることにより、バッチ内のトランザクションを一意に識別するコード。 このフィールドはレベル区切りとしても使用され、この値が変わるごとにバッチ番号が新しく割り当てられます。各トランザクション・グループに1つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上することができます。
EDI - トランザクション番号	EBEDTN	文字	22	各トランザクションを識別するコード。各トランザクション番号ごとに、異なる住所録レコードを示します。1つのバッチの中で、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。通常このフィールドには、トランザクションを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれます。
EDI - 行番号	EBEDLN	数字	7	バッチジョブが受信処理、送信処理のどちらかを示す番号。 受信処理の場合は、“0”(ゼロ)を入力します。 送信処理の場合は、このフィールドは空白にします。レコードが変更前トランザクションであれば1、変更後トランザクションであれば2に自動的に更新されます。顧客マスターMBF(P0100042)の処理オプションにより、テーブルに変更前トランザクションの書込みを行うかどうかを指定します。
EDI - 処理済み	EBEDSP	文字	1	トランザクションが正常に処理されたかどうかを示す値。Nは、トランザクションがエラーになったという意味です。トランザクションが正常に終了すると、値がYに変わります。 送信処理の場合、この値はNに更新されます。
トランザクション・アクション	EBTNAC	文字	2	トランザクションのタイプを識別する値。新しい項目に対しては、このフィールドに“A”と入力します。既存の伝票の変更を処理する場合は、“C”と入力します。変更はすべて、追加が終わった後で実行する必要があります。 送信処理の場合、このフィールドはUA(変更後トランザクション)またはUB(変更前トランザクション)のいずれかに更新されます。連絡先情報 MBF PO(P0100069)の処理オプションがオンになっている場合にのみUBに更新されません。
住所番号	EBAN8	数字	8	関連先に対する連絡先(人名録)が関連付けられる会社、顧客、仕入先などを固有に識別する値。このフィールドに入力する値は、住所録マスター・テーブル(F0101)に存在している必要があります。この値がないと、レコードは処理されません。
人名録行	EBIDLN	数字	5	EBAN8 フィールドに入力した住所番号に対する特定の人名録項目に電子メール・アドレスを関連付ける値。

F01151Z1 の任意フィールド

F01151Z1 テーブルの任意フィールドを次に記載します。これらのフィールドにより、トランザクションに関する追加情報を記述します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	EBTYTN	文字	8	トランザクションが変更後のみか、あるいは変更前と変更後の両方かを識別する値。連絡先情報 MBF PO(P0100069) のトランザクション・タイプの処理オプションが設定されている場合は、このフィールドをブランクにすると処理オプションの値で更新されます。 送信処理を使用しているときは、必ずこのフィールドに値を入力してください。
送受信インジケータ	EBDRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを指定する値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ブランク - 受信トランザクション 2 - 送信トランザクション
EDI - 明細行処理済み	EBEDDL	数字	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数を示す値。これは、ユーザーの確認のためのフィールドです。
取引先 ID	EBPNID	文字	15	電子データ交換(EDI)で、取引先を識別するために使用する値。
行番号 ID-5.0	EBRCK7	数字	5	固有のキー・フィールドを示す値。連絡先、または人名録の入力項目に対して複数の電子メール・アドレスがある場合は、このフィールドを使用して、入力項目の順序を決めることができます。
電子メール・アドレス・タイプ	EBETP	文字	4	電子メール・アドレスかインターネット・アドレスかを示す値。
電子メール・アドレス	EBEMAL	文字	256	連絡先または人名録の担当者の電子メール・アドレス、またはインターネット・アドレスを識別する値。

F01151Z1 の無視されるフィールド

F01151Z1 テーブルで無視されるフィールドを次に記載します。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 伝票タイプ	EBEDCT	文字	2	これらのフィールドは無視されます。
EDI - トランザクション・フォーマット	EBEDFT	文字	10	
EDI - アップロード日付	EBEDDT	日付	6	

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション入力者	EBTORG	文字	10	これらのフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。これらのフィールドに値を入力すると、入力項目の処理時に値が上書きされます。
ユーザーID	EBUSER	文字	10	
プログラムID	EBPID	文字	10	
ワークステーションID	EBJOBN	文字	10	
更新日付	EBUPMJ	日付	6	
時刻	EBTDAY	日付	6	
最終更新時刻	EBUPMT	数字	6	

代替住所アップロード・テーブル(F01161Z1)のフィールド

このセクションでは、代替住所アップロード・テーブル(F01161Z1)のフィールドの一覧を記載します。一部は〈連絡先情報バッチのアップロード〉プログラム(R011110Z)の実行において必須フィールドとなります。その他は必須ではありません。これらすべてのフィールドが住所録フォームで表示されたり、住所録システムで使用されるわけではありません。

F01161Z1 の必須フィールド

F01161Z1 テーブルの必須フィールドを次に記載します。フィールドによっては、ブランクが有効な値となることもあります。次のフィールドに入力された値は、代替住所テーブル(F01161)に取り込まれます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - ユーザーID	LBEDUS	文字	10	ユーザー定義の ID 番号。〈連絡先情報バッチのアップロード〉プログラムの実行者のユーザーID、またはワークフロー・メッセージの受信者のユーザーIDを入力します。このフィールドと、LBEDTN および LBEDBT の各フィールドを組み合わせることで、トランザクションを一意に識別できます。
EDI - バッチ番号	LBEDBT	文字	15	〈連絡先情報バッチのアップロード〉プログラムの実行者が各バッチに割り当てる番号。このフィールドが変更されるたびに、新しいバッチ番号が割り当てられます。処理する各トランザクション・グループに1つのバッチ番号を割り当てることで、パフォーマンスを大幅に向上することができます。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - トランザクション番号	LBEDTN	文字	22	各トランザクションを識別する番号。各トランザクション番号ごとに、異なる代替住所レコードを示します。1つのバッチの中で、番号の重複したトランザクションが存在することはできません。通常このフィールドには、送信者がトランザクションを簡単に識別できるようにソース・システムの伝票番号が含まれます。
EDI - 行番号	LBEDLN	数字	7	バッチジョブが受信処理、送信処理のどちらかを示す番号。 受信処理の場合は、“0”(ゼロ)を入力します。 送信処理の場合は、このフィールドはブランクにします。レコードが変更前トランザクションであれば1、変更後トランザクションであれば2に自動的に更新されます。連絡先情報 MBF PO(P0100069)の処理オプションにより、テーブルに変更前トランザクションの書込みを行うかどうかを指定します。
EDI - 処理済み	LBEDSP	文字	1	トランザクションが正常に処理されたかどうかを示す値。このフィールドはブランクにしてください。Nは、トランザクションがエラーになったという意味です。 トランザクションが正常に終了すると、値がYに変わります。
トランザクション・アクション	LBTNAC	文字	2	実行すべきトランザクションを示す値。Aは新しいトランザクションを示します。Cは既存の伝票の変更を意味します。変更処理は、追加処理後に行う必要があります。 送信処理の場合、このフィールドは変更後トランザクション(UA)または変更前トランザクション(UB)のいずれかに更新されます。連絡先情報 MBF PO の処理オプションがオンになっている場合にのみ、このフィールドにUBが使用されます。
住所番号	LBAN8	数字	8	仕入先、顧客、従業員、会社などを識別する固有の値。 このフィールドをブランクにすると、住所録システムの自動採番テーブル(F0002)を基に自動的に番号が割り当てられます。 このフィールドに値を入力する場合、SZTNACフィールドの値がC(既存レコードの変更)に指定されている場合を除き、住所録マスター(F0101)にある値は使用できません。住所録マスターに値が存在する場合は、トランザクションが重複しているとみなされ、処理は実行されません。
人名録行	LBIDLN	数字	5	代替住所レコードに関連付ける人名録項目を指定する値。

F01161Z1 の任意フィールド

F01161Z1 テーブルの任意フィールドを次に記載します。これらのフィールドにより、トランザクションに関する追加情報を記述します。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
トランザクション・タイプ	LBTYTN	文字	8	トランザクションのタイプを識別する値。連絡先情報 MBF PO(P0100069)の処理オプションの[インタオペラビリティ]タブで[トランザクション・タイプ]が設定されている場合は、このフィールドをブランクにすると、その値が使用されます。 送信処理を使用する場合、このフィールドは必須です。
送受信インジケータ	LBDRIN	文字	1	トランザクションが受信と送信のどちらであるかを指定する値。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ブランク - 受信トランザクション 2 - 送信トランザクション
EDI - 明細行処理済み	LBEDDL	数字	5	特定のトランザクションに含まれる明細行の数。これは参考用のフィールドです。
取引先 ID	LBPNIID	文字	15	電子データ交換(EDI)で、取引先を識別するために使用する値。
開始有効日	LBFTB	日付	6	代替住所レコードが始めて有効になる日付。データベースが受け入れる形式で指定してください。データベースによっては、グレゴリオ暦の日付形式(mmddyy または yymmdd)が入力できる場合と、ユリウス暦の日付形式が必要な場合があります。 ユリウス暦の日付は、cyyddd(c は世紀数下 1 桁)という形式で表します。21 世紀のトランザクションには "1" を入力します。たとえば、6/1/2005(2005 年 6 月 1 日)はユリウス暦では 105152 になります。6/1/04(2004 年 6 月 1 日)は 104153 になります(2000 年は 2 月 29 日があるうるう年のためです)。
タイプ - 住所	LBATYPE	文字	5	自宅や会社の住所など住所のタイプを表すコード。このフィールドには、UDC テーブル 01/AT(住所タイプ)で定義されている値を入力する必要があります。
住所行 1、住所行 2、住所行 3、住所行 4	LBADD1 LBADD2 LBADD3 LBADD4	文字	40	代替住所レコードの郵送先住所を識別する英数字の値。
郵便番号	LBADDZ	文字	12	郵便物の配達用に各国の郵便局によって住所に関連して割り当てられたコード。
市	LBCTY1	文字	25	代替住所に関連する市。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
郡	LBCOUN	文字	25	住所の表記に関連する群、地域、行政上の特別区で、郵便物の配達または税務上の目的で住所に関連する区域。
州	LBADDS	文字	3	住所に関連する都道府県。このフィールドには、UDC テーブル 00/S (都道府県) で定義されている値を入力する必要があります。
国	LBCTR	文字	3	住所に関連する国。このフィールドには、UDC テーブル 00/CN (国コード) で定義されている値を入力する必要があります。
有効日付の有無(I/O)	LBEFTF	文字	1	住所に有効日付が設定されているかどうかを示すコード。

F01161Z1 の無視されるフィールド

F01161Z1 テーブルで無視されるフィールドを次に記載します。これらのフィールドの値は使用されません。

フィールド名	エイリアス	タイプ	長さ	定義
EDI - 伝票タイプ	LBEDCT	文字	2	これらのフィールドは無視されます。
EDI - 換算形式	LBEDFT	文字	10	
EDI - アップロード日付	LBEDDT	日付	6	
トランザクション入力者	LBTORG	文字	10	これらのフィールドは、ブランクにしておくことをお勧めします。これらのフィールドは入力しても、アップロード処理時に上書きされます。
ユーザーID	LBUSER	文字	10	
プログラムID	LBPID	文字	10	
ワークステーションID	LBJOBN	文字	10	
更新日付	LBUPMJ	日付	6	
時刻	LBTDAY	日付	6	
最終更新時刻	LBUPMT	数字	6	

アップロード用バッチ・レコードの追加

外部システムから適切なアップロード・テーブルへのデータの転送後は、バッチ・レコードを追加して既存のバッチを変更することはできません。この場合、新しくバッチ・レコードを作成して、そこにレコードを追加する必要があります。通常はこの操作は必要とされません。ただし、バッチ・レコードで特定のフィールドを改訂できない場合は、バッチ・レコードをいったん削除して、次のいずれかの改訂プログラムを使って新しくレコードを追加することができます。

▶ アップロード用バッチ・レコードを追加するには

次に、アップロード用の住所録バッチ・レコードを追加する方法を説明します。このバッチ・レコードの追加手順は、特に断りがない限り、顧客、仕入先、連絡先に共通するものです。この場合、フォーム名は追加するレコードのタイプにより異なります。

〈住所録上級/技術的操作〉メニュー(G0131)から、追加するバッチ・レコードの種類に応じて次の1つを選択します。

住所録バッチ改訂

顧客マスター・バッチ改訂

仕入先マスター・バッチ改訂

連絡先情報バッチの改訂

1. 〈住所録バッチの処理〉で[追加]をクリックします。

〈住所録バッチの改訂〉で、見出しの次のフィールドに値が入力されます。

- EDI バッチ No.
- レコード No.
- ユーザーID
- アクション

2. 次のフィールドに値を入力します。

- 住所 No.

このフィールドを空白にすると、システムにより自動採番テーブル(F0002)から住所番号が割り当てられます。このフィールドに値を入力する場合は、既存のマスター・テーブルで使用されていないことを確認する必要があります。同じ値が既に使用されている場合は、そのレコードが上書きされてしまいます。

3. 顧客マスター・バッチにレコードを追加する場合は、次のフィールドに値を入力します。

- 会社

このフィールドには、会社別処理で使用される会社番号を入力します。デフォルト会社(00000)に対しては追加レコードが作成されます。このフィールドを空白にすると、会社 00000 のみが割り当てられます。

4. 人名録の連絡先のバッチ・レコードを追加する場合は、次のフィールドに行 ID を入力します。

- 人名録行

5. 各タブの該当するフィールドに値を入力して、[OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
EDI バッチ No.	システムがバッチに割り当てる番号。バッチ処理でユーザーが作成した各バッチに自動的に採番されます。
レコード No.	EDI(電子データ交換)システムでトランザクションに割り当てられる番号。EDIを使用していない環境では、固有の ID 番号を割り当ててください。伝票番号と同じ番号を使用することもできます。
ユーザーID	取引(トランザクション)データの作成元を示します。これはユーザーID、端末ID、外部システム・アドレス、ネットワーク・ノードなどです。このフィールドは入力データと送信元の両方の識別に役立ちます。
アクション	実行する処理を示すコード。EDIトランザクションでは、トランザクション・セット目的コードまたは変更コードを表します。
住所 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。

参照

フォームのタブとフィールドの詳細は、次を参照してください。

- 『住所録』ガイド:
 - 住所録情報を入力するには
 - 連絡先情報を入力するには
 - 人名録項目を追加するには
- 『売掛管理』ガイドの「請求書と入荷確認の処理用にデフォルト情報を入力するには」
- 『買掛管理』ガイドの「仕入先マスター情報を入力するには」

アップロード用バッチ・レコードの改訂

アップロード・テーブルのバッチ情報の整合性を保証するため、住所録、顧客マスター、仕入先マスター、連絡先情報のバッチ・レコードを検討し、必要に応じて改訂してから、個々のアップロード・プログラムにより各マスター・テーブルを更新します。アップロード用バッチ・レコードは、アップロード・プログラムを実行するまで、次のテーブルに保存されます。

- 住所録インタオペラビリティ・アップロード・テーブル(F0101Z2)
- 会社別顧客マスター・アップロード・テーブル(F0301Z1)
- 仕入先マスター・アップロード・テーブル(F0401Z1)
- 連絡先情報アップロード・テーブル(F01111Z1)
- 関連先アップロード・テーブル(F01112Z1)
- 電子メール・アドレス・アップロード・テーブル(F01151Z1)

アップロード・プログラムの実行後、バッチを検討して、正常に処理されたバッチと処理されなかったバッチを確認します。

正常に処理されたバッチ・レコードの処理

バッチ・レコードの処理は正常に完了したけれど、レコードが不正確な場合は、適切な改訂プログラムを使ってレコードを訂正します。

- 住所録の改訂(P01012)
- 連絡先情報の処理(P01111)
- 顧客マスターの改訂(P03013)
- 仕入先マスターの改訂(P04012)

正常に処理されたバッチ・レコードは次のテーブルに保管されます。

- 住所録マスター(F0101)
- 会社別顧客マスター(F03012)
- 仕入先マスター(F0401)
- 人名録(F0111)
- 連絡先情報(F01111)
- 関連先(F01112)
- 電子メール・アドレス(F01151)
- 代替住所(F01161)

処理されなかったバッチ・レコードの処理

バッチ・レコードが正常に処理されなかった場合は、適切なバッチ・レコード改訂プログラムを使ってレコードを訂正し、アップロード・プログラムを再度実行します。

- 住所録バッチ改訂 (P0101Z1)
- 顧客マスター・バッチ改訂 (P0301Z1)
- 仕入先マスター・バッチ改訂 (P0401Z1)
- 連絡先情報バッチの改訂(P01111Z1)

正常に処理されなかったバッチ・レコードは次のアップロード・テーブルに保管されます。

- 住所録インタオペラビリティ・アップロード・テーブル(F0101Z2)
- 会社別得意先マスター・アップロード・テーブル(F0301Z1)
- 仕入先マスター・アップロード・テーブル(F0401Z1)
- 連絡先情報アップロード・テーブル(F01111Z1)
- 関連先アップロード・テーブル(F01112Z1)
- 電子メール・アドレス・アップロード・テーブル(F01151Z1)

▶ 処理されなかったバッチ・レコードを改訂するには

次に、処理されなかった住所録用バッチ・レコードを改訂する方法を説明します。ここで説明するバッチ・レコードの改訂手順は、特に断りがない限り、顧客、仕入先、連絡先に共通するものです。フォーム名は、バッチ・レコードの種類により異なります。

改訂するバッチ・レコードの種類に応じて、〈住所録上級/技術的操作〉メニュー(G0103)から次の1つを選択します。

住所録バッチ改訂

顧客マスター・バッチ改訂

仕入先マスター・バッチ改訂

連絡先情報バッチの改訂

1. 〈バッチ住所の処理〉で、見出しの次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 処理済み
 - EDI バッチ No.
2. 表示される住所録レコードを絞り込むには、QBE フィールドに値を入力してから[検索]をクリックします。
3. 改訂するレコードを選んで[選択]をクリックします。
4. 〈住所録バッチの改訂〉で、各タブの適切なフィールドの値を改訂します。
5. バッチ・レコードを削除するには、レコードを選択して[削除]をクリックします。
6. [OK]をクリックします。

バッチ・レコードの改訂または削除を行うと、該当するアップロード・テーブルのレコードが更新されます。

フィールド記述

記述	用語解説
処理済み	処理が完了したレコードを表示するかどうかを指定するオプション。オプションがオフの場合は、未処理レコードが表示されます。
EDI バッチ No.	システムがバッチに割り当てる番号。バッチ処理でユーザーが作成した各バッチに自動的に採番されます。

▶ 処理されたバッチ・レコードを改訂するには

次に、処理された住所録用バッチ・レコードを改訂する方法を説明します。このバッチ・レコードの改訂手順は、特に断りがない限り、顧客、仕入先、連絡先に共通するものです。フォーム名は、バッチ・レコードの種類により異なります。

改訂するレコードの種類に応じて、次のいずれかの操作を行います。

〈日次処理〉メニュー(G01)から〈住所録の改訂〉を選択します。

〈顧客および請求書の入力〉メニュー(G03B11)から〈顧客マスター情報〉を選択します。

〈仕入先および伝票の入力〉メニュー(G0411)から〈仕入先マスター情報〉を選択します。

1. 〈住所の処理〉で、見出しの次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - 名称
 - 検索タイプ
2. さらに検索対象を絞るには、QBE フィールドに値を入力します。
3. 改訂するレコードを選んで、[選択]をクリックします。
4. 〈住所録の改訂〉で、各タブの適切なフィールドの値を改訂します。
5. [OK]をクリックします。

取り込んだ外部データのアップロード

外部ソースからアップロード・テーブルにデータを取り込んだら、バッチ・アップロード・プログラムを実行して、適切なシステム・テーブルに情報をアップロードします。住所録システムのバッチ・アップロード・プログラムは、次の処理を実行します。

- 住所録マスター(F0101)に住所レコードを作成する。
- 会社別顧客マスター(F03012)に住所レコードを作成する(該当する場合)。
- 仕入先マスター(F0401)に住所レコードを作成する(該当する場合)。
- 次のテーブルに連絡先レコードを作成する。
 - 人名録(F0111)
 - 連絡先情報(F01111)
 - 関連先(F01112)
 - 電子メール・アドレス(F01151)
 - 代替住所(F01161)
- 住所番号を割り当てる(該当する場合)。
- ブランクのフィールドの情報を提供する。
- 更新レポートを作成する。

バッチ・アップロード・プログラムは処理が完了すると、正常にアップロードされたレコード数、正常に処理されたレコード、および処理されなかったレコードを示すレポートを生成します。処理されなかったレコードを変更して、アップロード・プログラムを再度実行できます。処理済みの各バッチは、除去される時点まで、各アップロード・テーブルに保存されます。

取り込んだ外部住所録データのアップロード

〈住所録上級/技術的操作〉メニュー(G0131)から、〈住所録バッチ・アップロード〉を選択します。

外部ソースからの住所録情報を変換し、住所録インタオペラビリティ・アップロード・テーブル(F0101Z2)に転送した後で、〈住所録バッチ・アップロード〉プログラム(R01010Z)を使用して情報を処理し、次のテーブルを更新することができます。

- 住所録マスター(F0101)
- 人名録(F0111)

- 住所録 - 連絡先電話番号(F0115)
- 日付別住所(F0116)

取り込んだ外部顧客データのアップロード

〈住所録上級/技術的操作〉メニュー(G0131)から〈顧客マスター・バッチ・アップロード〉を選択します。

取り込んだ外部顧客情報のアップロードを行う前に、住所録マスター(F0101)に住所番号が定義されていなければなりません。〈顧客マスター・バッチ・アップロード〉プログラム(R03010Z)の実行時に、会社別得意先マスター・アップロード・テーブル(F03012Z1)の[住所録]フィールドに住所番号を入力します。

〈顧客マスター・バッチ・アップロード〉プログラムは処理済みの住所録レコードにアクセスし、F03012Z1 テーブルの該当する顧客情報を取り込んで会社別顧客マスター(F03012)にアップロードします。

顧客レコードに親番号が関連付けられている場合は、親/子関係を個別に入力する必要があります。バッチ処理で、親番号を追加することはできません。親番号は組織構造マスター(F0150)に保存されます。

はじめる前に

- 〈住所録バッチ・アップロード〉プログラム(R01010Z)を実行して、住所録情報を処理します。『住所録』ガイドの「取り込んだ外部住所録データのアップロード」を参照してください。

取り込んだ外部仕入先データのアップロード

〈住所録上級/技術的操作〉メニュー(G0131)から〈仕入先マスター・バッチ・アップロード〉を選択します。

取り込んだ外部仕入先情報のアップロードを行う前に、住所録マスター(F0101)に住所番号が定義されていなければなりません。〈仕入先マスター・バッチ・アップロード〉プログラム(R04010Z)の実行時に、仕入先マスター・アップロード・テーブル(F0401Z1)の[住所録]フィールドに住所番号を入力します。

〈仕入先マスター・バッチ・アップロード〉プログラムは処理済みの住所録レコードにアクセスし、F0401Z1 テーブルの該当する仕入先情報を取り込んで仕入先マスター(F0401)にアップロードします。

仕入先レコードに親番号が関連付けられている場合は、親/子関係を個別に入力する必要があります。バッチ処理で、親番号を追加することはできません。親番号は組織構造マスター(F0150)に保存されます。

はじめる前に

- 〈住所録バッチ・アップロード〉プログラム(R01010Z)を実行して、住所録情報を処理します。『住所録』ガイドの「取り込んだ外部住所録データのアップロード」を参照してください。

取り込んだ外部連絡先データのアップロード

〈住所録上級/技術的操作〉メニュー(G0131)から〈連絡先情報バッチのアップロード〉を選択します。

取り込んだ外部連絡先情報のアップロードを行う前に、住所番号が住所録マスター(F0101)に定義されている必要があります。〈連絡先情報バッチのアップロード〉プログラム(R01110Z)を実行する前に、連絡先情報アップロード・テーブル(F0111Z1)の[住所録]フィールドに住所番号を入力してください。

〈連絡先情報バッチのアップロード〉プログラムは処理済みの住所録レコードにアクセスし、F0111Z1 テーブルの該当する連絡先情報を取り込んで次のテーブルにアップロードします。

- 連絡先情報(F01111)
- 人名録(F0111)
- 関連先(F01112)
- 電子メール・アドレス(F01151)
- 代替住所(F01161)

注:

外部連絡先(人名録)情報を変換して F0111Z1 にアップロードすることはできませんが、人名録情報を処理して外部プログラムにエクスポートすることはできます。

仕入先レコードに親番号が関連付けられている場合は、親/子関係を個別に入力する必要があります。バッチ処理で、親番号を追加することはできません。親番号は組織構造マスター(F0150)に保存されます。

はじめる前に

- 〈住所録バッチ・アップロード〉プログラム(R01010Z)を実行して、住所録情報を処理します。『住所録』ガイドの「取り込んだ外部住所録データのアップロード」を参照してください。

処理オプション: 連絡先情報バッチのアップロード(R01110Z)

オプション

1. 親に対応して子を更新
blank = 親と共に子を更新しない
1 = 親と共に子を更新する
 2. 住所の同期化(将来使用)
blank = 同期化しない
1 = 自動的に同期化する
-

住所録バッチの除去

〈住所録上級/技術的操作〉メニュー(G0131)から、〈住所録バッチ除去〉を選択します。

住所録、仕入先マスター、顧客マスター、連絡先情報バッチの正常なアップロードと処理の完了後、これらレコードが次のいずれかのマスター・テーブルに入力されると、バッチを除去できるようになります。

〈住所録バッチ除去〉プログラム(R0101Z1P)の処理オプションの設定に応じて、処理済みのバッチがすべて次のアップロード・テーブルから除去されます。

- 会社別得意先マスター・アップロード・テーブル(F0301Z21)
- 仕入先マスター・アップロード・テーブル(F0401Z1)
- 住所録インタオペラビリティ・アップロード・テーブル(F0101Z2)
- 連絡先情報アップロード・テーブル(F01111Z1)
- 関連先アップロード・テーブル(F01112Z1)
- 電子メール・アドレス・アップロード・テーブル(F01151Z1)
- 代替住所アップロード・テーブル(F01161Z1)

各アップロード・テーブルでは、処理済みのバッチの[処理済み]フィールド(EDSP)には 1 または Y が表示され、レコードが正常に処理されたことを示します。

はじめる前に

- バッチ・レコードを除去する前に、適切なアップロード・テーブルをバックアップしておいてください。該当するテーブルは、次のとおりです。
 - 住所録インタオペラビリティ・アップロード・テーブル(F0101Z2)
 - 会社別得意先マスター・アップロード・テーブル(F0301Z21)
 - 仕入先マスター・アップロード・テーブル(F0401Z1)
 - 連絡先情報アップロード・テーブル(F01111Z1)
 - 関連先アップロード・テーブル(F01112Z1)
 - 電子メール・アドレス・アップロード・テーブル(F01151Z1)
 - 代替住所アップロード・テーブル(F01161Z1)

処理オプション:住所録バッチ除去(R0101Z1P)

オプション

検索タイプが C のすべての処理済みレコードを顧客マスター・バッチ・テーブルから自動的に除去するには、“1”を入力してください。

検索タイプが V のすべての処理済みレコードを仕入先マスター・バッチ・テーブルから自動的に除去するには、“1”を入力してください。

住所録の除去を行わない場合は、“1”を入力してください。
